

甲賀市市政に関する意識調査報告書
【人権・福祉領域】

令和2年12月
甲賀市

目次

I 調査の実施概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の設計	1
3 調査票の配布・回収の状況	1
4 標本抽出計画と集計に当たっての整理事項	1
5 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて	3
II 回答者の属性	4
III 調査結果	8
1 市民共生について	8
(1) 甲賀市が人権が尊重されるまちになっていると感じるか	8
(2) 3年以内で人権に関する研修会等に参加した経験	10
(3) 人権が尊重されるまちの実現に向けて	11
2 男女共同参画・ワーク・ライフ・バランス・女性活躍について	13
(1) 男女共同参画に係る「言葉」や「内容」の認知状況	13
(2) 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について	22
(3) 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について	24
(4) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について	25
(5) 女性の就労（起業含む）について	28
(6) 女性が働き続けたり、再就職するうえで必要なこと	29
3 ドメスティック・バイオレンス（DV）について	31
(1) 「ドメスティック・バイオレンス（DV）」や「デートDV」の認知状況	31
(2) DVやデートDVを見聞きした経験や被害にあった人からの相談等の経験の有無	34
(3) 身体的・心理的暴力と思える行為の経験	39
(4) DVに関する相談窓口の認知状況	41
4 障がい福祉について	43
(1) 障がい福祉に係る「言葉」や「内容」の認知状況	43
(2) 共生社会の実現に向けて必要な取組	46
5 近所づきあいやボランティアについて	48
(1) 近所で最も親しくしている人との日頃のつきあい	48
(2) 日頃、生活の困りごとについて相談する相手	49
(3) 福祉に関する情報の入手方法	51
(4) ボランティア活動について	52
(5) ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動	56

6 成年後見制度について	58
7 再犯防止について	61
8 地域の課題について	65
(1) 住んでいる地域で、日頃から課題に感じていること.....	65
(2) 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと.....	72
(3) 甲賀市が重点を置くべき福祉施策	73

資料：アンケート調査票

I 調査の実施概要

1 調査の目的

市民の人権や地域福祉、児童福祉、高齢福祉、障がい福祉などの福祉領域についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に調査を実施した。

2 調査の設計

- 調査地域:甲賀市全域
- 調査対象:市内在住の18歳以上の男女
- 調査標本数:3,000人
- 調査抽出法:層化二段無作為抽出法(抽出台帳:住民基本台帳、旧町5地域別)
- 調査方法:郵送配布・郵送回収、またはインターネットによる回答
- 調査時期:令和2年9月1日～9月15日

3 調査票の配布・回収の状況

- 配布数:3,000件
 - 回収件数(率):1,220件(40.7%)
 - 有効回答数(率):1,220件(40.7%)
- うち郵送回収:1,039件(83.3%)、インターネット回答181件(14.5%)

4 標本抽出計画と集計に当たっての整理事項

① 標本抽出計画と集計母数(集計対象数)

今回の調査では、アンケート調査配布数(標本数)を市内5地域と母集団構成比に応じて配分した。地域別の回収率は甲賀地域が50.1%で最も多く、以下、土山地域が46.1%、甲南地域が42.0%、信楽地域が38.6%、水口地域が36.6%と続いている。すべての地域で前回調査よりも回収率が高くなっている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答の地域区分は母集団構成比に近い。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
水口地域	33,840	44.5	1,337	44.6	489	40.1	36.6	34.9
土山地域	6,463	8.5	254	8.5	117	9.6	46.1	44.6
甲賀地域	8,502	11.2	335	11.2	168	13.8	50.1	48.2
甲南地域	17,299	22.8	683	22.8	287	23.5	42.0	41.2
信楽地域	9,889	13.0	391	13.0	151	12.4	38.6	40.5
不明・無回答	-	-	-	-	8	0.7	-	-
合計	75,993		3,000		1,220	100.0	40.7	39.5

年代別の回収率は60歳代が51.7%で最も多く、以下、70歳以上が51.6%、50歳代が45.1%、40歳代が30.8%、30歳代が29.9%、20歳代以下が24.9%と続いている。

有効回答の構成比と母集団構成比をみると、有効回答は年齢層が高い構成であることがわかる。

	標本抽出計画				有効回答			前回回収率
	母集団	母集団構成比	抽出標本数	標本構成比	回収数	構成比	回収率	
20歳代以下	10,993	14.5	434	14.5	108	8.9	24.9	19.0
30歳代	10170	13.4	402	13.4	120	9.8	29.9	30.5
40歳代	12736	16.8	503	16.8	155	12.7	30.8	30.5
50歳代	11224	14.8	443	14.8	200	16.4	45.1	38.9
60歳代	11791	15.5	464	15.5	240	19.7	51.7	51.9
70歳以上	19079	25.1	754	25.1	389	31.9	51.6	55.5
不明・無回答	-	-	-	-	8	0.7	-	-
合計	75,993	-	3,000	-	1,220	100.0	40.7	39.5

② 調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、本結果から甲賀市の18歳以上の人口(母集団)の意識や要望等を推定することができる。ただし、今回の結果が抽出調査のため、数字の誤差を考慮する必要がある。そこで、どの程度の誤差があるのかを以下の数式で求めた。

世論調査では、信頼度95%(同じ調査を対象を変えて行った場合に、100回中95回は同様の結果が得られると考えてもよい)の水準を求めることが一般的とされており、これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差を算出した。その結果、標本誤差=2.78%(小数第3位四捨五入)となり、母集団の回答は今回のアンケート調査結果の±2.78%の区間に95%の確率で存在すると言える。

$$\varepsilon = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

ε：標本誤差

±1.96：信頼度95%の時の係数

N：母集団数(調査時点の甲賀市の18歳以上人口：75,993) n：標本数(有効回答数：1,220)

P：標本測定値0.5(50%(0.5)のときに最大となるため0.5で計算)

5 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

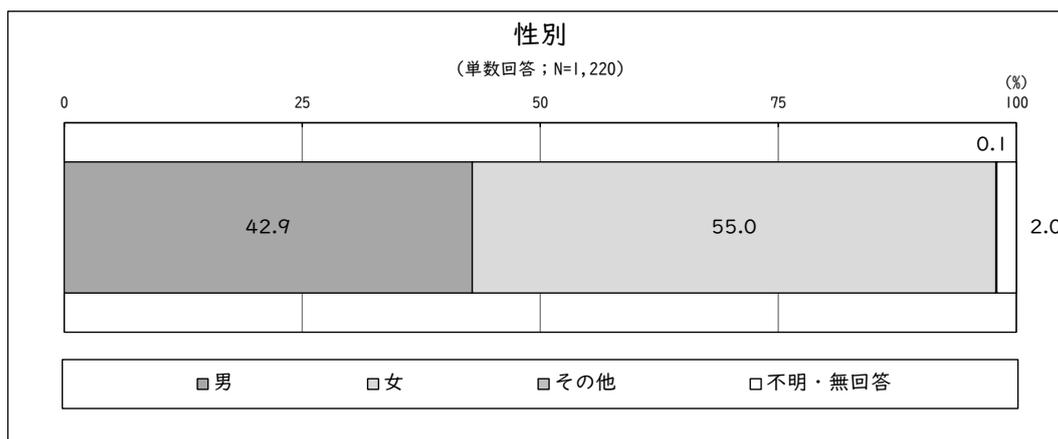
- ・ 回答結果は、各項目の不明を含む有効サンプル数に対する百分比(%)で示し、百分比は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示している。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの比率を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。
- ・ 図表中の「N」は集計対象者総数または、回答者限定設問の限定条件への該当者数を示している。

II 回答者の属性

① 性別

「問 1」 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

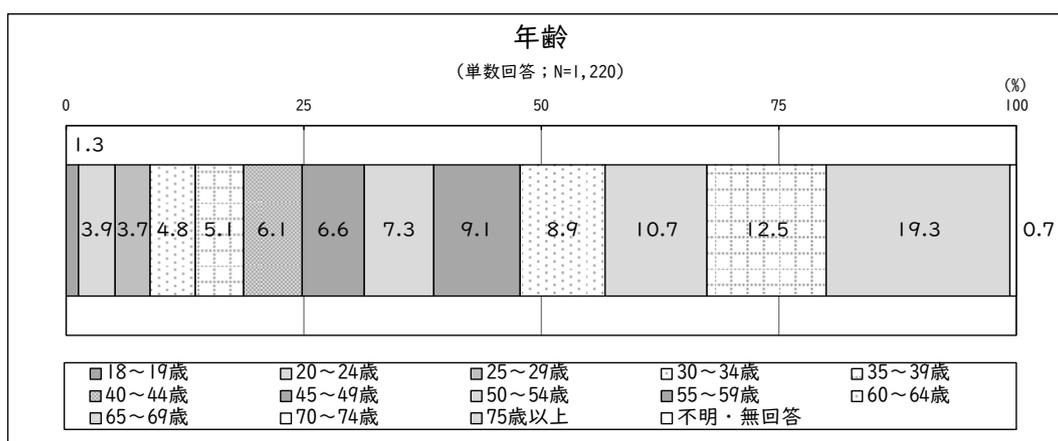
性別は、「男」が42.9%、「女」が55.0%、「その他」が0.1%となっている。



② 年齢

「問 2」 あなたの年齢は、9月1日現在でいくつですか。(○は1つだけ)

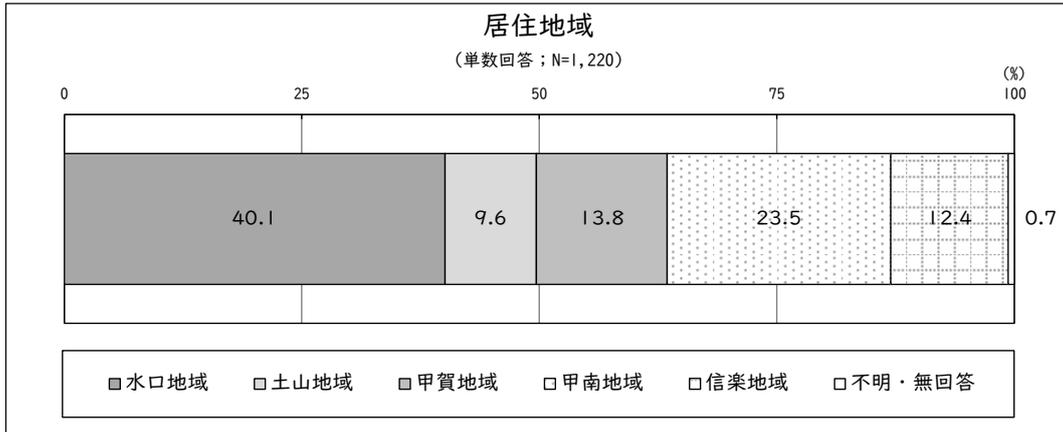
年齢は、「75歳以上」が19.3%で最も多くなっており、以下、「70～74歳」が12.5%、「65～69歳」が10.7%と続いている。



③ 居住地域

「問 3」 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つだけ)

居住地域は、「水口地域」が 40.1%で最も多くなっており、以下、「甲南地域」が 23.5%、「甲賀地域」が 13.8%、「信楽地域」が 12.4%、「土山地域」が 9.6%と続いている。



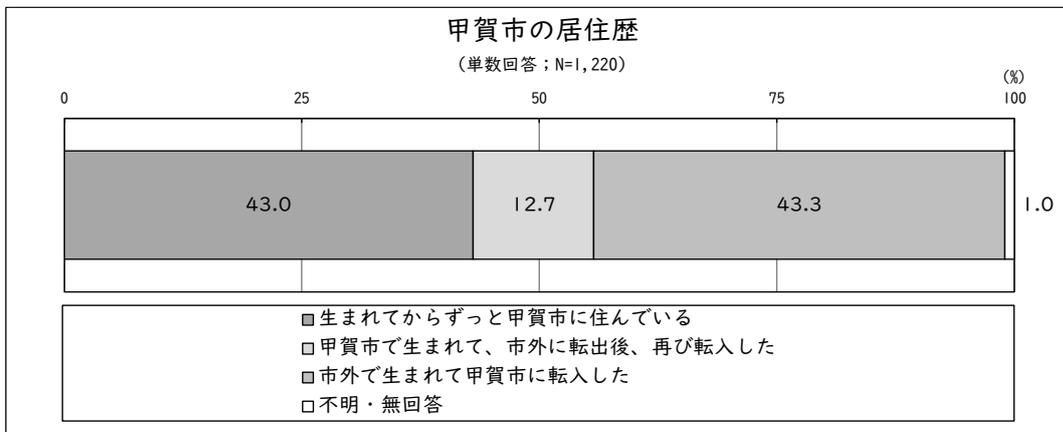
④ 甲賀市の居住歴

「問 4」 あなたは、いつから甲賀市にお住まいですか。(○は1つだけ)

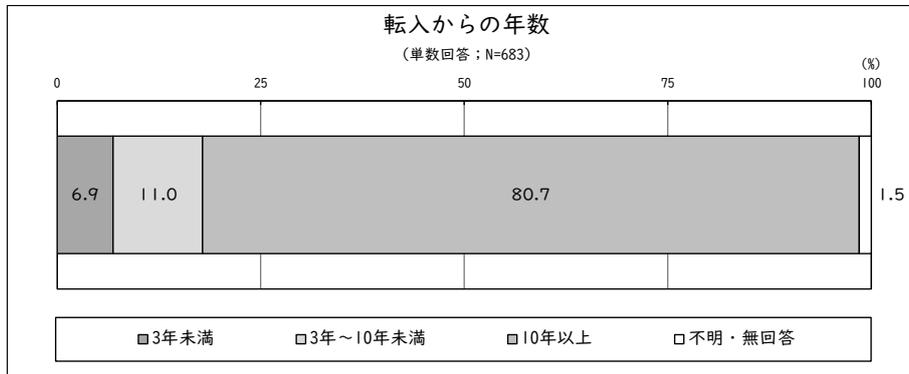
「問 4-1」 問4で「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」または「市外で生まれて甲賀市に転入した」と回答された方におたずねします。

あなたは、甲賀市に転入後、何年ぐらいになりますか。(○は1つだけ)

甲賀市の居住歴は、「市外で生まれて甲賀市に転入した」が 43.3%で最も多くなっており、以下、「生まれてからずっと甲賀市に住んでいる」が 43.0%、「甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した」が 12.7%と続いている。



転入からの年数は、「10年以上」が80.7%で最も多くなっており、以下、「3年～10年未満」が11.0%、「3年未満」が6.9%と続いている。

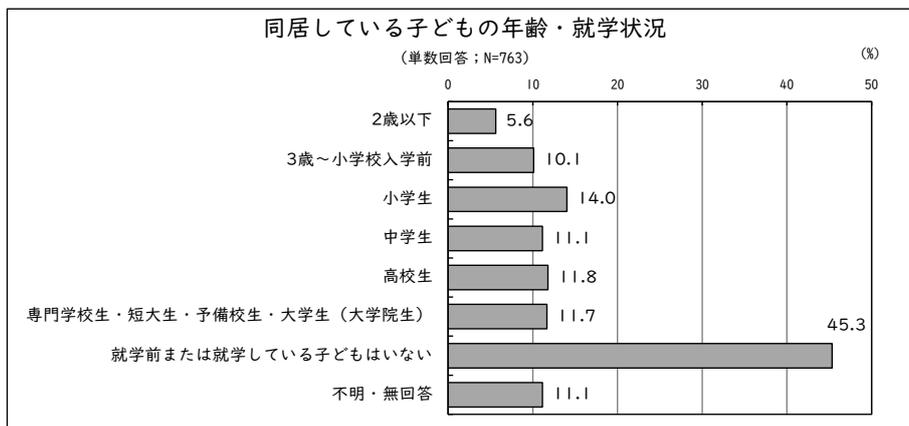
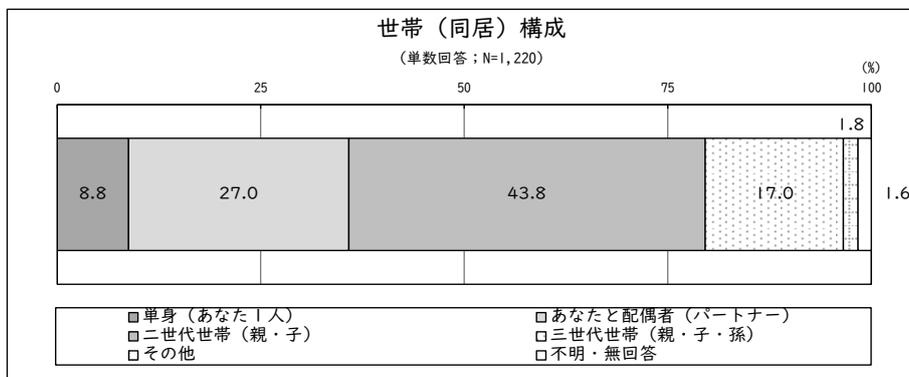


⑤ 世帯(同居)構成

《問5》 あなたの世帯(同居)はどのような構成ですか。(○は1つだけ)
 <問5-1> 問5で「二世帯世帯(親・子)」「三世帯世帯(親・子・孫)」「その他」のいずれかに回答された方におたずねします。あなたに、就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。(あてはまるものすべてに○)※別居されているお子様・お孫様は含みません

世帯(同居)構成は、「二世帯世帯(親・子)」が43.8%で最も多くなっており、以下、「あなたと配偶者(パートナー)」が27.0%、「三世帯世帯(親・子・孫)」が17.0%と続いている。

同居している子どもの年齢・就学状況は、「就学前または就学している子どもはいない」が45.3%で最も多くなっており、以下、「小学生」が14.0%、「高校生」が11.8%と続いている。



⑥ 職業

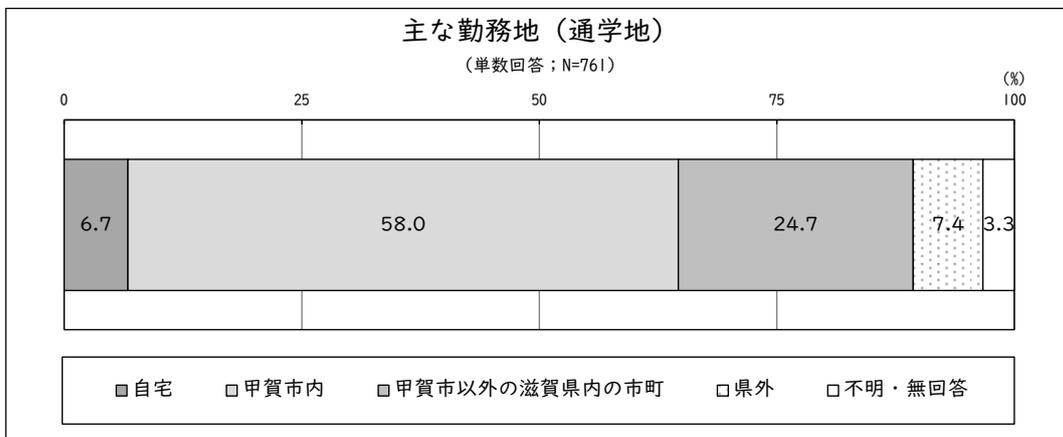
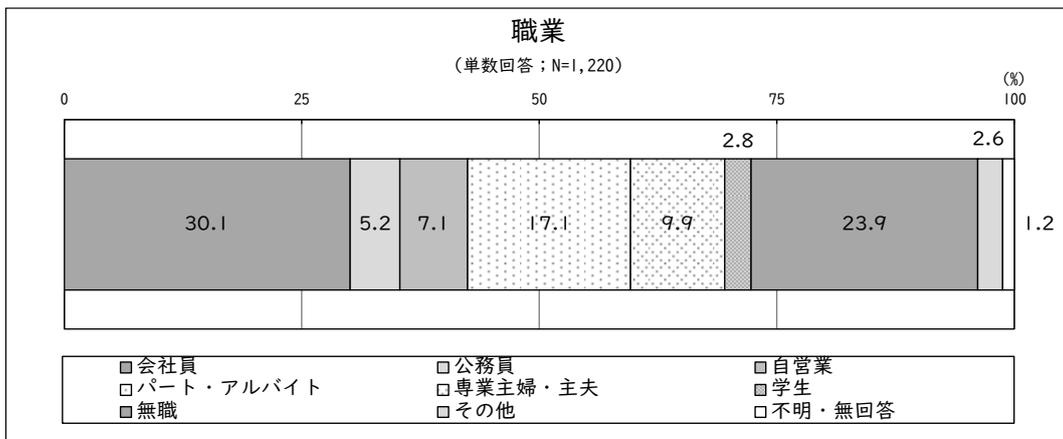
《問6》 あなたはどのようなご職業等ですか。(○は1つだけ)

<問6-1> 問6で「会社員」「公務員」「自営業」「パート・アルバイト」「学生」のいずれかに回答された方におたずねします。

あなたの主な勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つだけ)

職業は、「会社員」が 30.1%で最も多くなっており、以下、「無職」が 23.9%、「パート・アルバイト」が 17.1%と続いている。

主な勤務地(通学地)は、「甲賀市内」が 58.0%で最も多くなっており、以下、「甲賀市以外の滋賀県内の市町」が 24.7%、「県外」が 7.4%、「自宅」が 6.7%と続いている。



III 調査結果

1 市民共生について

(1) 甲賀市が人権が尊重されるまちになっていると感じるか

「問 7」 あなたは、甲賀市が「人権が尊重されるまちになっている」と感じられますか。 (○は1つだけ)
--

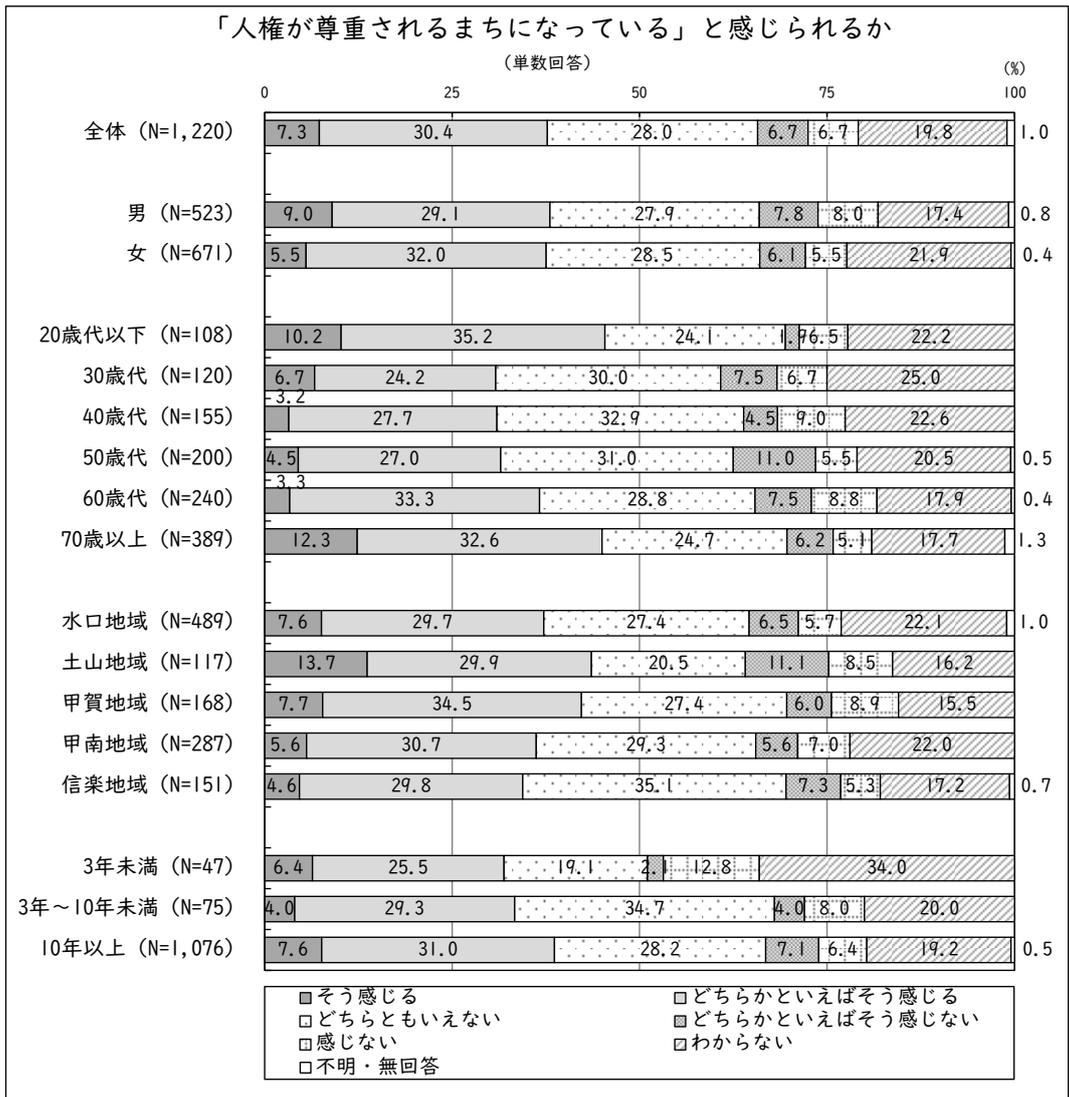
「人権が尊重されるまちになっている」と感じられるかは、「どちらかといえばそう感じる」が 30.4%で最も多くなっており、「そう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」を合わせた『感じる』の割合は 37.7%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。また、『感じる』の割合をみると、男性が 38.1%、女性が 37.5%となっている。

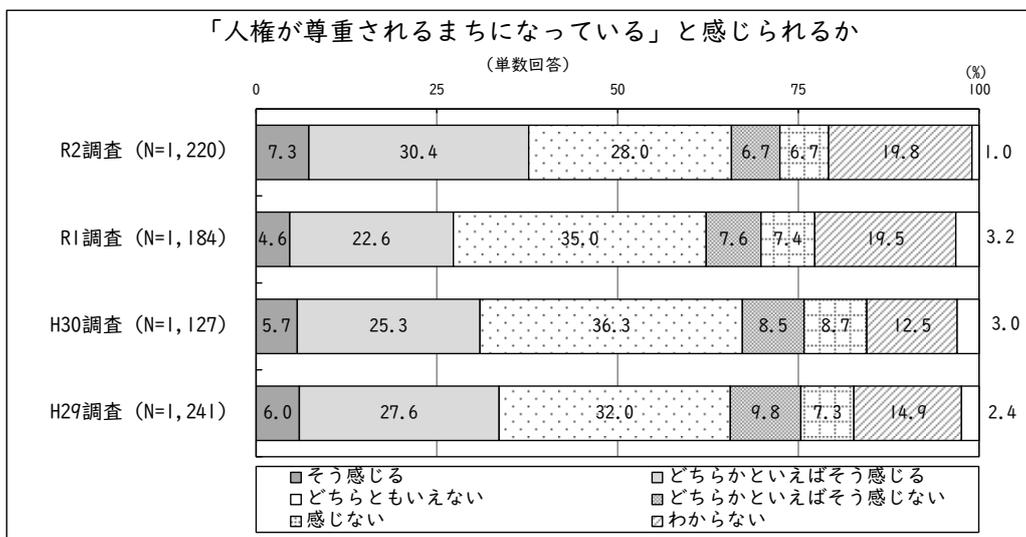
年代別にみると、30 歳代～50 歳代では「どちらともいえない」が、他の年代では「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。また、『感じる』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 45.4%、以下、70 歳以上が 44.9%、60 歳代が 36.6%と続いている。

居住地域別にみると、信楽地域では「どちらともいえない」が、他の地域では「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。また、『感じる』の割合をみると、最も多いのは土山地域で 43.6%、以下、甲賀地域が 42.2%、水口地域が 37.3%、甲南地域が 36.3%、信楽地域が 34.4%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、3 年未満では「わからない」が、3 年～10 年未満では「どちらともいえない」が、10 年以上では「どちらかといえばそう感じる」が最も多くなっている。また、『感じる』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 38.6%、以下、3 年～10 年未満が 33.3%、3 年未満が 31.9%と続いている。



過去 3 年度分の調査と比較すると、『感じる』の割合は減少を続けていたが、今回の調査では増加に転じている。



(2) 3年以内で人権に関する研修会等に参加した経験

「問 8」 あなたはここ3年以内で、人権に関する研修会等(職場、学校、地域、市主催のセミナー等)に参加されたことがありますか。(〇は1つだけ)

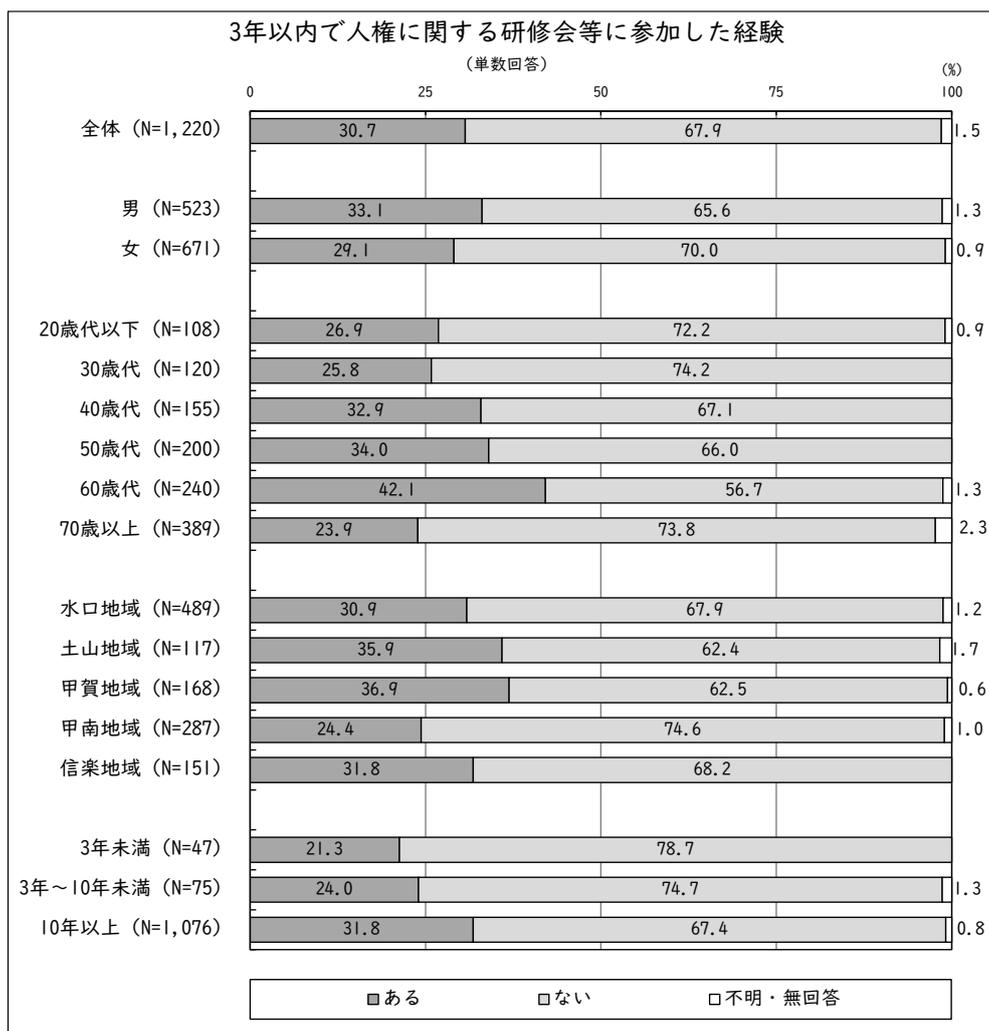
ここ3年以内で人権に関する研修会等に参加した経験は、「ある」が30.7%、「ない」が67.9%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、男性が33.1%、女性が29.1%となっている。

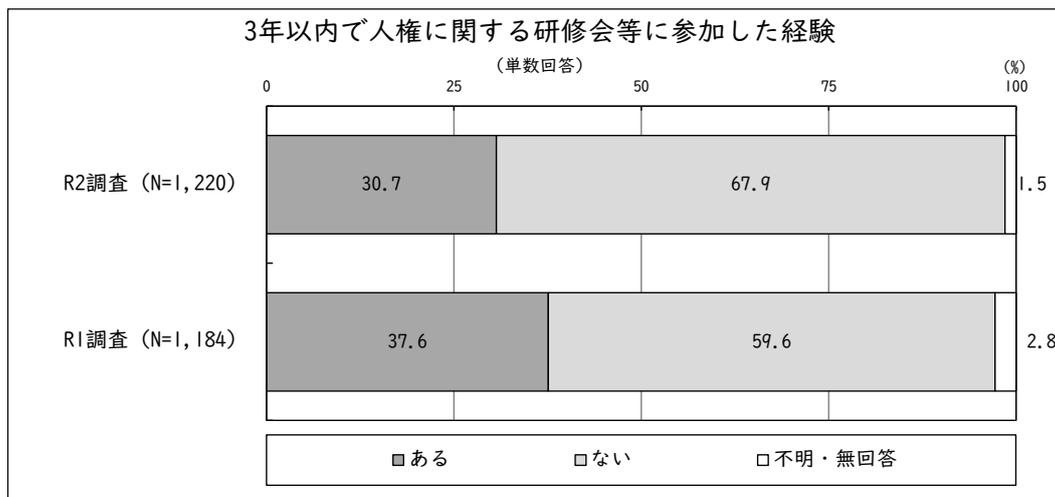
年代別にみると、すべての年代において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは60歳代で42.1%、以下、50歳代が34.0%、40歳代が32.9%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で36.9%、以下、土山地域が35.9%、信楽地域が31.8%、水口地域が30.9%、甲南地域が24.4%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは10年以上で31.8%、以下、3年～10年未満が24.0%、3年未満が21.3%と続いている。



前回の調査と比較すると、「ある」の割合は減少している。



(3) 人権が尊重されるまちの実現に向けて

《問 9》 あなたは、人権の尊重されるまちの実現に向けて、どのようにお考えですか。
(○は1つだけ)

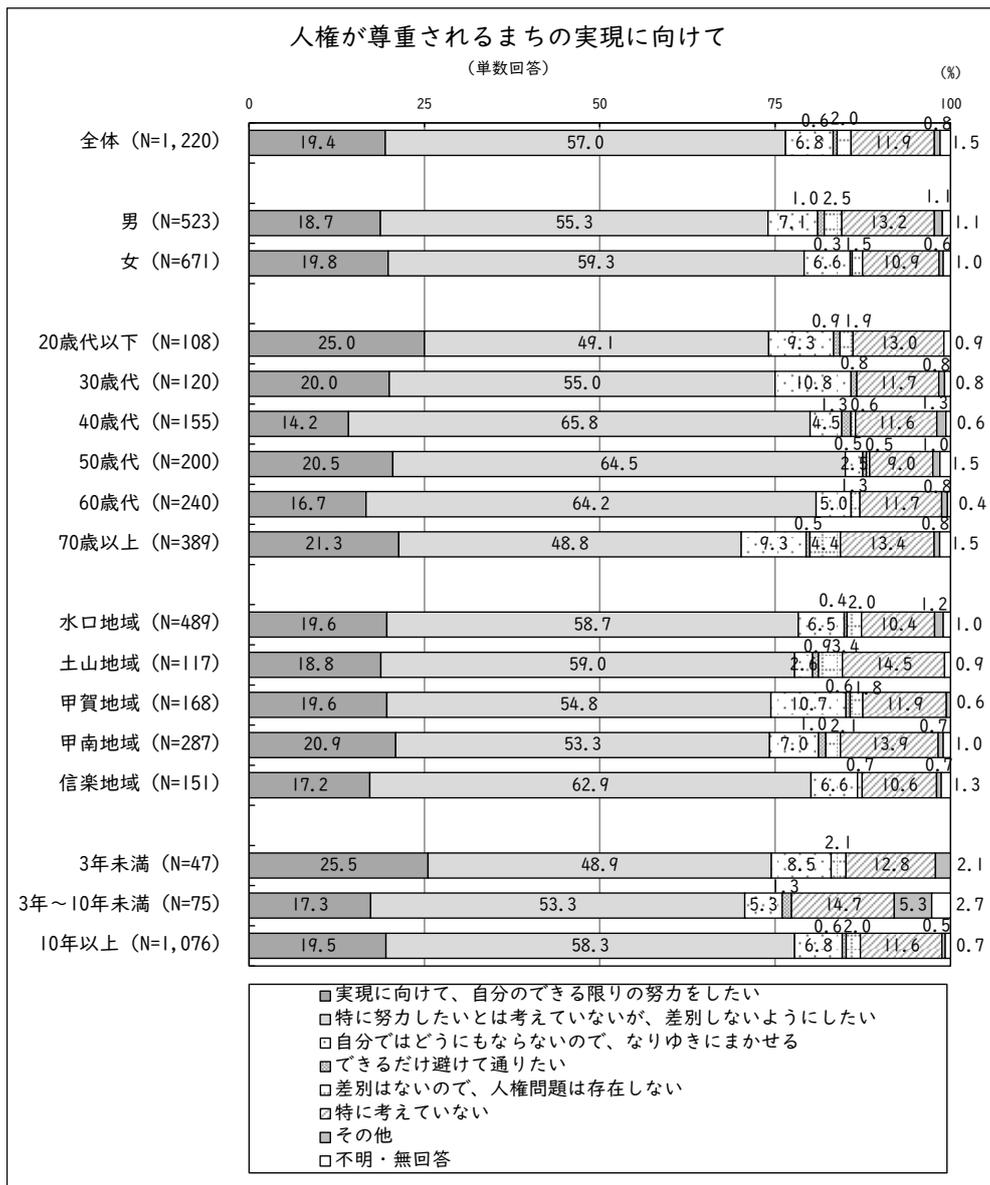
人権が尊重されるまちの実現に向けては、「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が 57.0%で最も多くなっており、「実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい」と「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」を合わせた『差別しないようにしたい』の割合は 76.4%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。また、『差別しないようにしたい』の割合をみると、男性が 74.0%、女性が 79.1%となっており、女性の方が多くなっている。

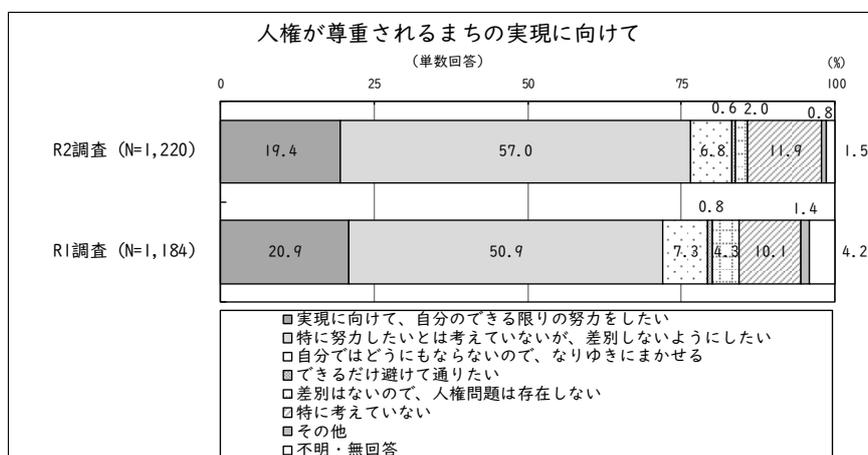
年代別にみると、すべての年代において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。また、『差別しないようにしたい』の割合をみると、最も多いのは 50 歳代で 85.0%、以下、60 歳代が 80.9%、40 歳代が 80.0%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。また、『差別しないようにしたい』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 80.1%、以下、水口地域が 78.3%、土山地域が 77.8%、甲賀地域が 74.4%、甲南地域が 74.2%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」が最も多くなっている。また、『差別しないようにしたい』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 77.8%、以下、3 年未満が 74.4%、3 年～10 年未満が 70.6%と続いている。



前回の調査と比較すると、「特に努力したいとは考えていないが、差別しないようにしたい」「特に考えていない」が増加している。



2 男女共同参画・ワーク・ライフ・バランス・女性活躍について

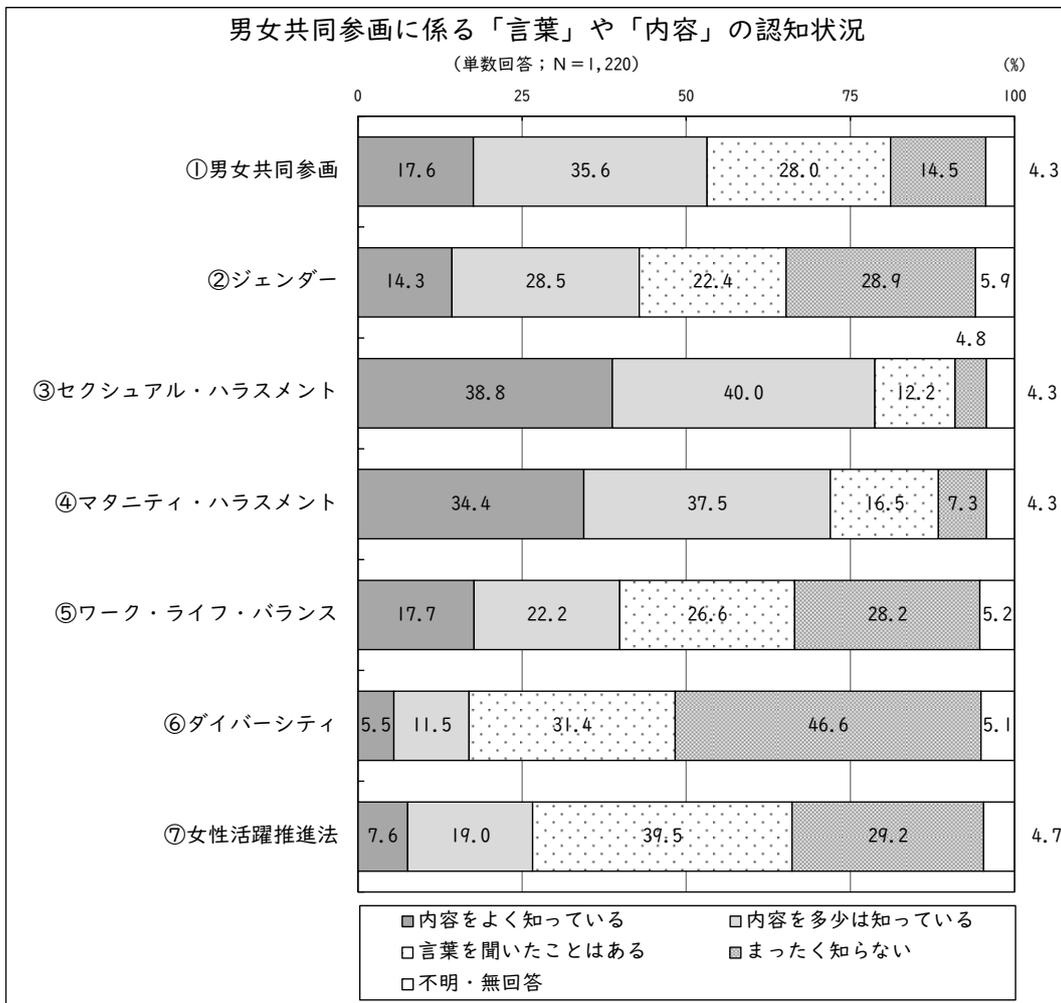
(1) 男女共同参画に係る「言葉」や「内容」の認知状況

① 男女共同参画に係る「言葉」や「内容」の認知

「問 10」 あなたは、次にあげる「言葉」や「内容」をご存じですか。(○はそれぞれ1つずつ)

男女共同参画に係る「言葉」や「内容」の認知状況について、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合をみると、最も多いのは「セクシュアル・ハラスメント」で78.8%、以下、「マタニティ・ハラスメント」が71.9%、「男女共同参画」が53.2%と続いている。

「まったく知らない」についてみると、「ダイバーシティ」が46.6%で最も多く、以下、「女性活躍推進法」が29.2%、「ジェンダー」が28.9%と続いている。



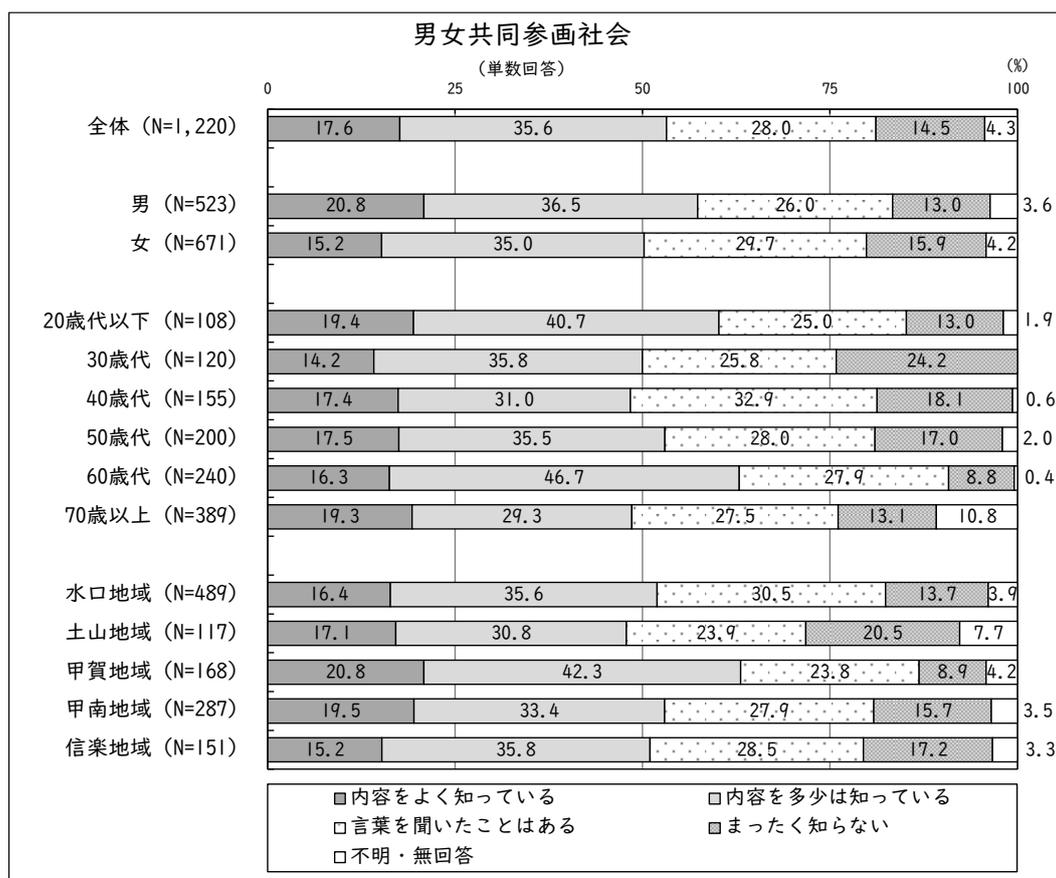
② 男女共同参画社会

「内容を多少は知っている」が 35.6%で最も多く、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 53.2%となっている。また、「まったく知らない」が 14.5%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が 57.3%、女性が 50.2%と、男性が多くなっている。

年代別にみると、すべての年代において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 63.0%、以下、20 歳代以下が 60.1%、50 歳代が 53.0%、30 歳代が 50.0%、70 歳以上が 48.6%、40 歳代が 48.4%と続いている。30 歳代で「まったく知らない」が他の年代よりも多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 63.1%、以下、甲南地域が 52.9%、水口地域が 52.0%、信楽地域が 51.0%、土山地域が 47.9%、と続いている。土山地域で「まったく知らない」が他の地域よりも多くなっている。



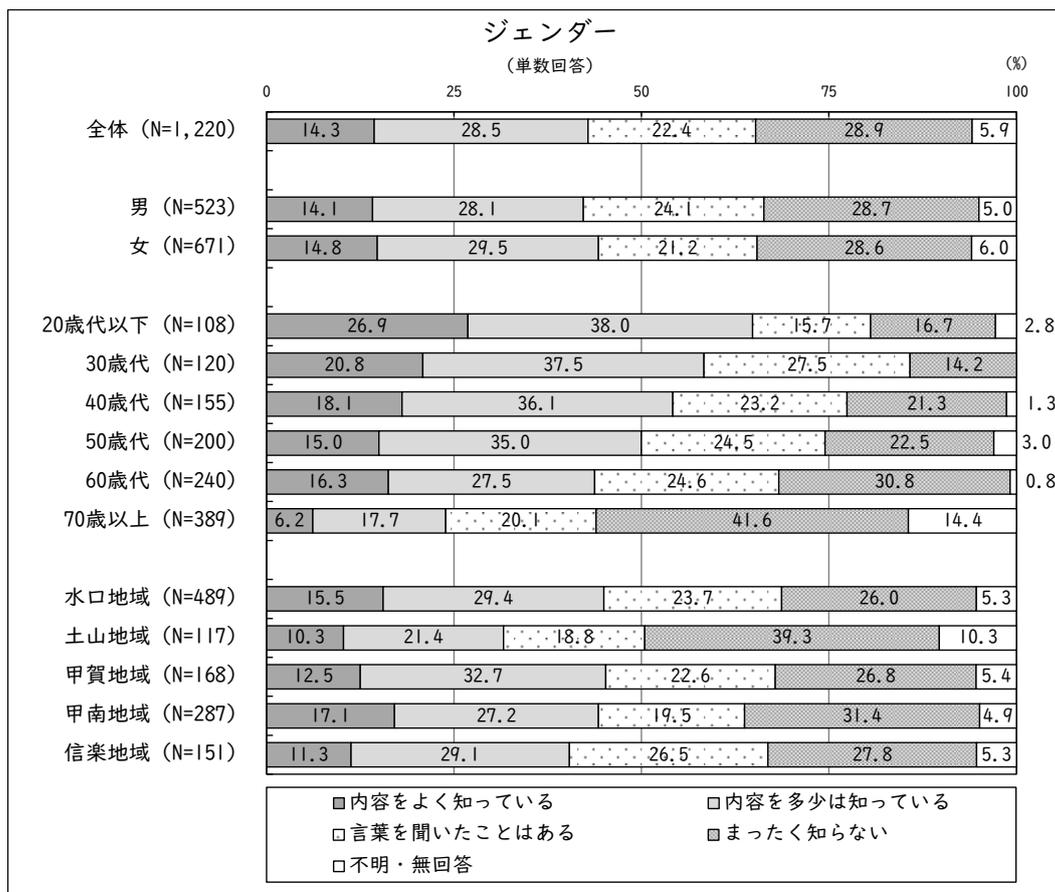
③ ジェンダー

「まったく知らない」が 28.9%で最も多く、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 42.8%となっている。

性別にみると、男性は「まったく知らない」が、女性は「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が42.2%、女性が44.3%となっている。

年代別にみると、50歳代以下は「内容を多少は知っている」が、60歳代以上は「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは20歳代以下で64.9%、以下、30歳代が58.3%、40歳代が58.3%、50歳代が54.2%、60歳代が43.8%、70歳以上が23.9%と続いている。年代があがるほど『知っている』が少なくなっている。70歳以上は「まったく知らない」が41.6%となっている。

居住地域別にみると、水口地域、甲賀地域、信楽地域では「内容を多少は知っている」が、その他の地域では「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で45.2%、以下、水口地域が44.9%、甲南地域が44.3%、信楽地域が40.4%、土山地域が31.7%と続いている。土山地域、甲南地域で「まったく知らない」が他の地域よりも多くなっている。



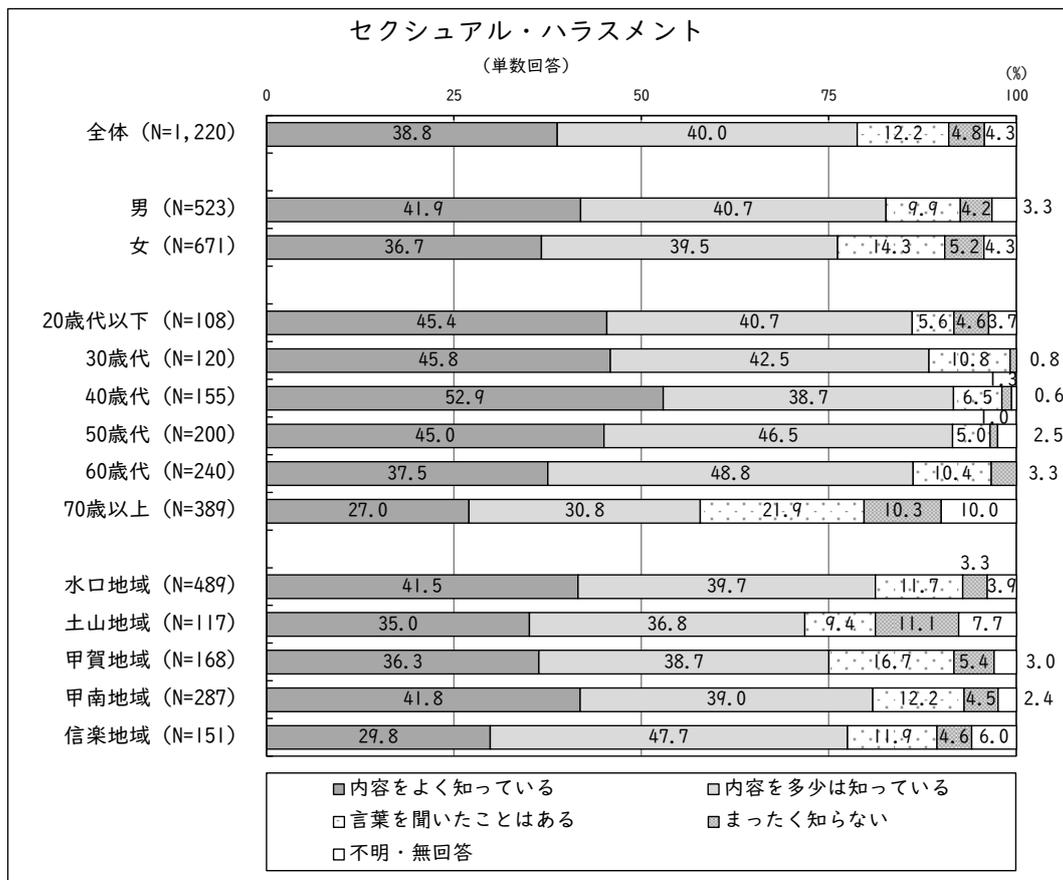
④ セクシャル・ハラスメント

「内容を多少は知っている」が 40.0%で最も多く、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 78.8%となっている。また、「まったく知らない」が 4.8%となっている。

性別にみると、男性は「内容をよく知っている」が、女性は「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が 82.6%、女性が 76.2%と男性が多くなっている。

年代別にみると、40 歳代以下は「内容をよく知っている」が、50 歳代以上は「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 91.6%、以下、50 歳代が 91.5%、30 歳代が 88.3%、60 歳代が 86.3%、20 歳代以下が 86.1%、70 歳以上が 57.8%と続いている。70 歳以上は「まったく知らない」が 10.3%となっている。

居住地域別にみると、水口地域、甲南地域では「内容を多少は知っている」が、その他の地域では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 81.2%で、以下、甲南地域が 80.8%、信楽地域が 77.5%、甲賀地域で 75.0%、土山地域が 71.8%と続いている。土山地域で「まったく知らない」が他の地域よりも多くなっている。



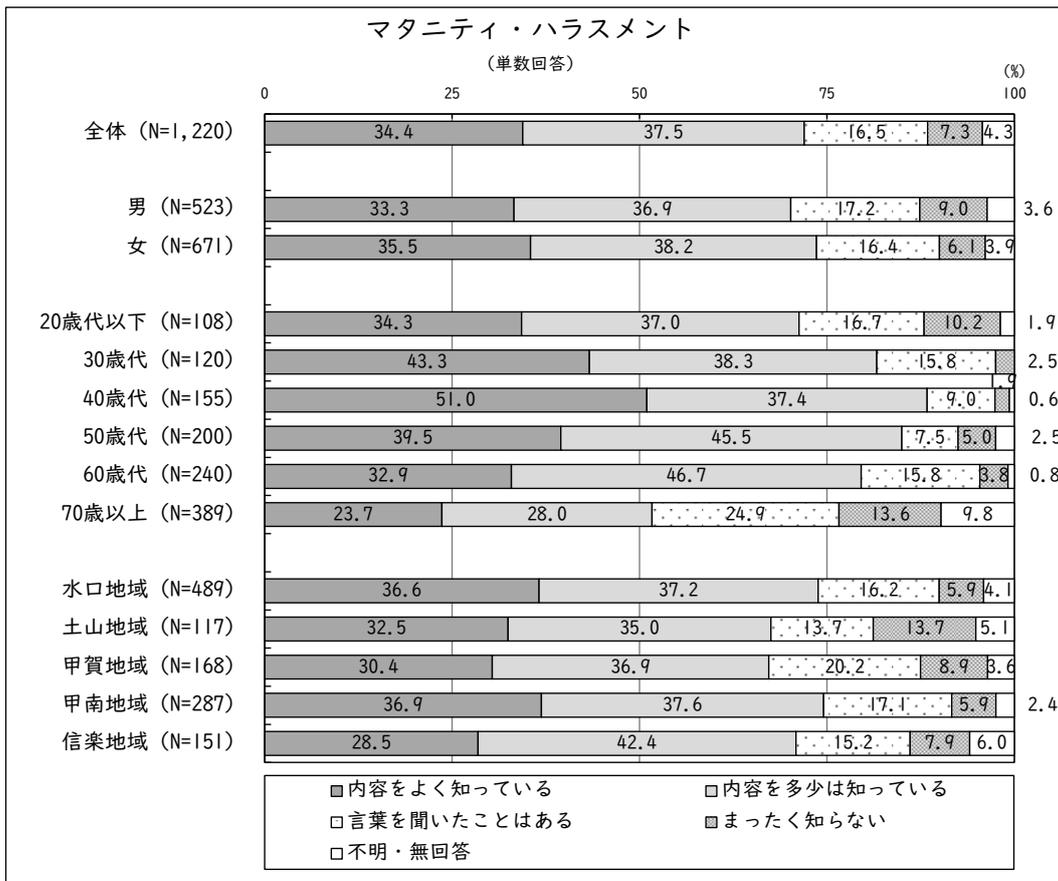
⑤ マタニティ・ハラスメント

「内容を多少は知っている」が 37.5%で最も多く、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 71.9%となっている。また、「まったく知らない」が 7.3%となっている。

性別にみると、男性は「内容をよく知っている」が、女性は「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が 70.2%、女性が 73.7%となっている。

年代別にみると、30 歳代、40 歳代以下は「内容をよく知っている」が、その他の年代は「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 88.4%、以下、50 歳代が 85.0%、30 歳代が 81.6%、60 歳代が 79.6%、20 歳代以下が 71.3%、70 歳以上が 51.7%と続いている。20 歳代以下、70 歳以上は「まったく知らない」が他の年代よりも多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 74.5%、以下、水口地域が 73.8%、信楽地域が 70.9%、土山地域が 67.5%、甲賀地域で 67.3%と続いている。土山地域で「まったく知らない」が他の地域よりも多くなっている。



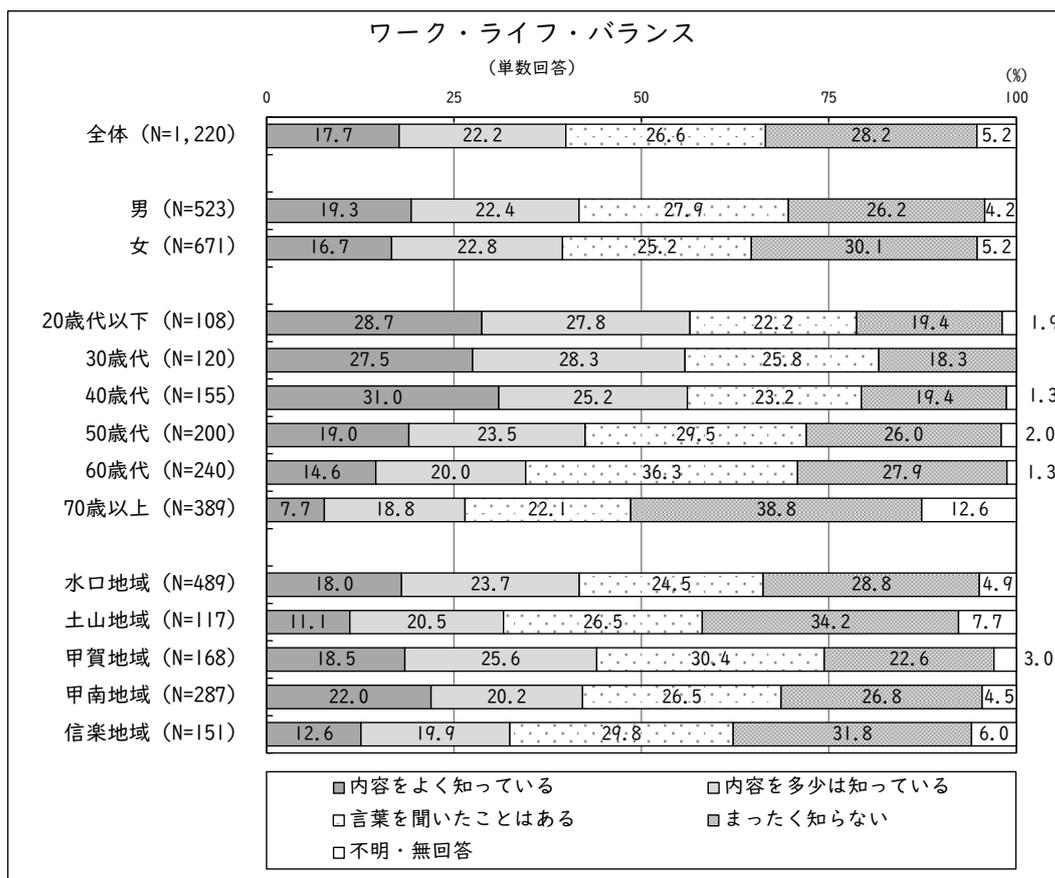
⑥ ワーク・ライフ・バランス

「まったく知らない」が 28.2%で最も多く、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 39.9%となっている。

性別にみると、男性は「言葉を聞いたことはある」が、女性は「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が 41.7%、女性が 39.5%となっている。

年代別にみると、20 歳代以下、40 歳代は「内容をよく知っている」が、30 歳代は「言葉を聞いたことがある」が、40 歳代以下は「内容をよく知っている」が、50 歳代、60 歳代は「言葉を聞いたことがある」が、70 歳以上は「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 56.5%、以下、40 歳代が 56.2%で、30 歳代が 55.8%、50 歳代が 42.5%、60 歳代が 34.6%、70 歳以上が 26.5%と続いている。20 歳代以下、70 歳以上は「まったく知らない」が他の年代よりも多くなっている。

居住地域別にみると、甲賀地域は「言葉を聞いたことがある」が、その他の地域は「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 44.1%、以下、甲南地域が 42.2%、水口地域が 41.7%、信楽地域が 32.5%、土山地域が 31.6%と続いている。



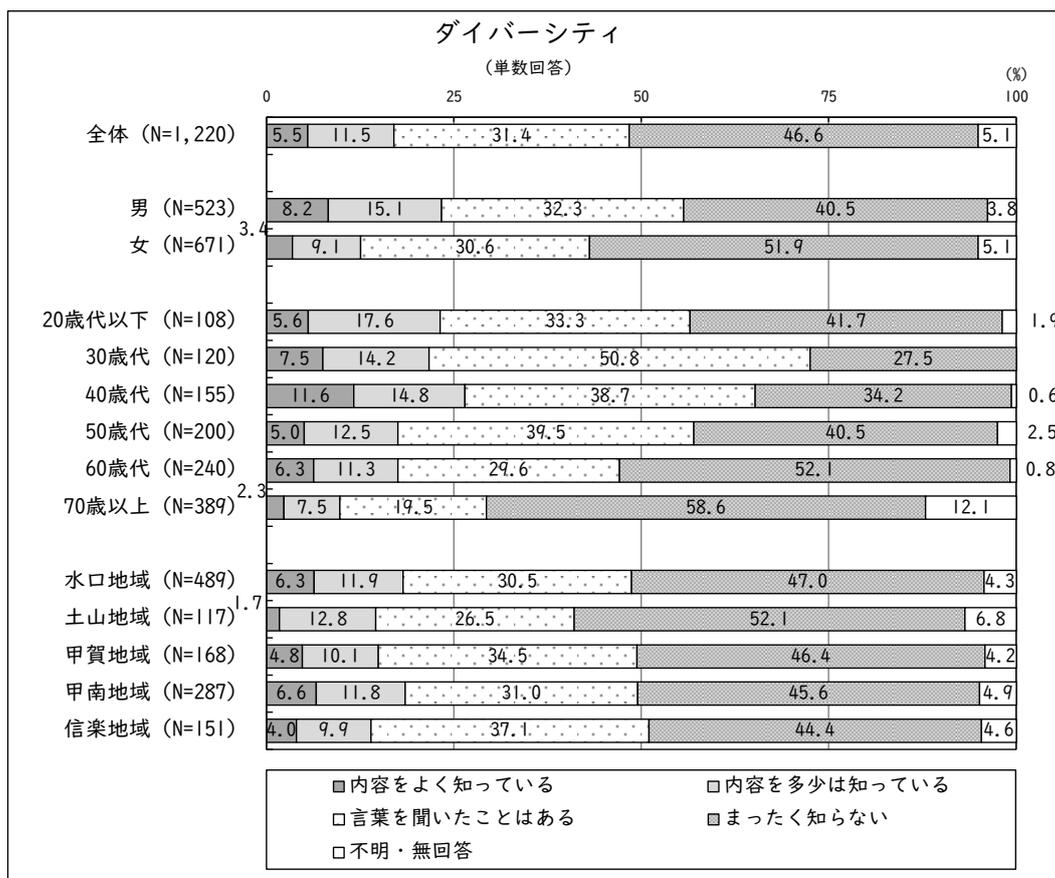
⑦ ダイバーシティ

「まったく知らない」が 46.6%で最も多く、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 17.0%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が 23.3%、女性が 12.5%と、男性が多くなっている。

年代別にみると、30 歳代、40 歳代は「言葉を聞いたことがある」が、20 歳代以下、50 歳代以上は「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 40 歳代で 26.4%、以下、20 歳代以下が 23.2%で、30 歳代が 21.7%、60 歳代が 17.6%、50 歳代が 17.5%、70 歳以上が 9.8%と続いている。70 歳以上は半数以上が「まったく知らない」となっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 18.4%、以下、水口地域が 18.2%、甲賀地域が 14.9%、土山地域が 14.5%、信楽地域が 13.9%と続いている。土山地域は半数以上が「まったく知らない」となっている。



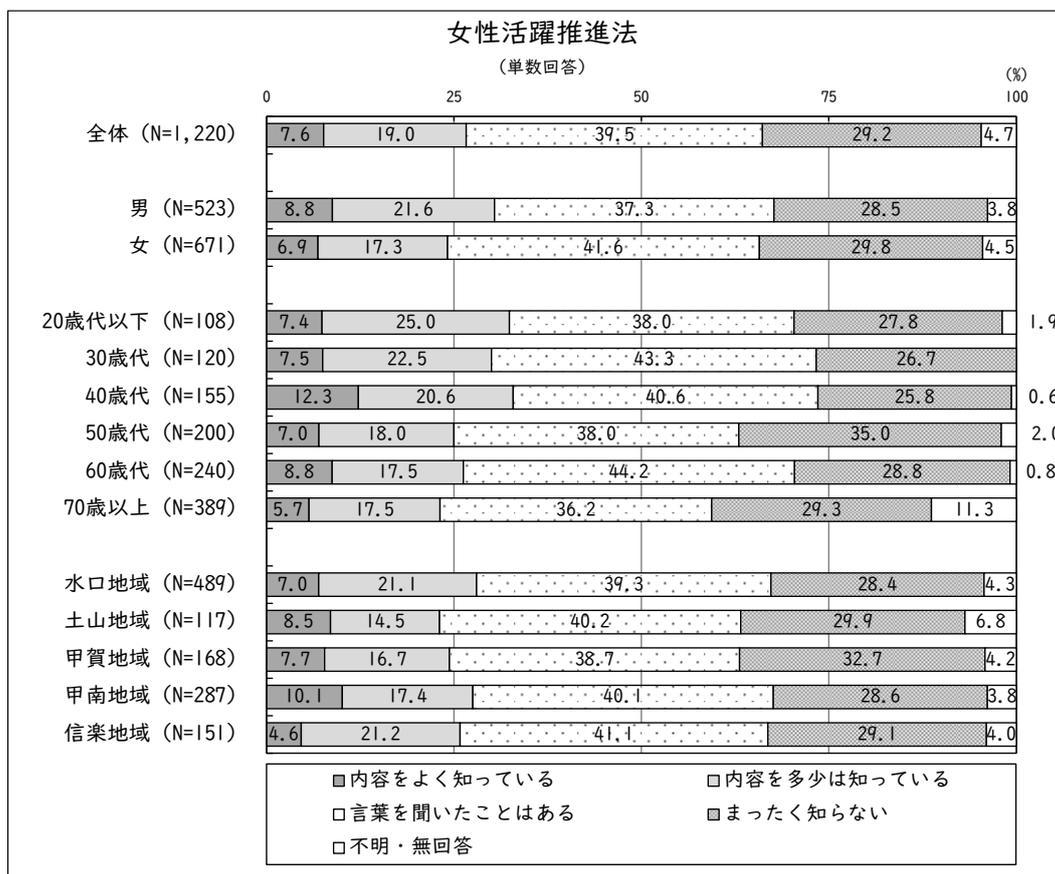
⑧ 女性活躍推進法

「言葉を聞いたことはある」が 39.5%で最も多く、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は 26.6%となっている。また、「まったく知らない」が 29.2%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が30.4%、女性が24.2%となっている。

年代別にみると、すべての年代において「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは40歳代で32.9%、以下、20歳代以下が32.4%、30歳代が30.0%で、60歳代が26.3%、50歳代が25.0%、70歳以上が23.2%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「言葉を聞いたことはある」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で28.0%、以下、甲南地域で27.5%、信楽地域が25.8%、甲賀地域が24.4%、土山地域が23.0%と続いている。



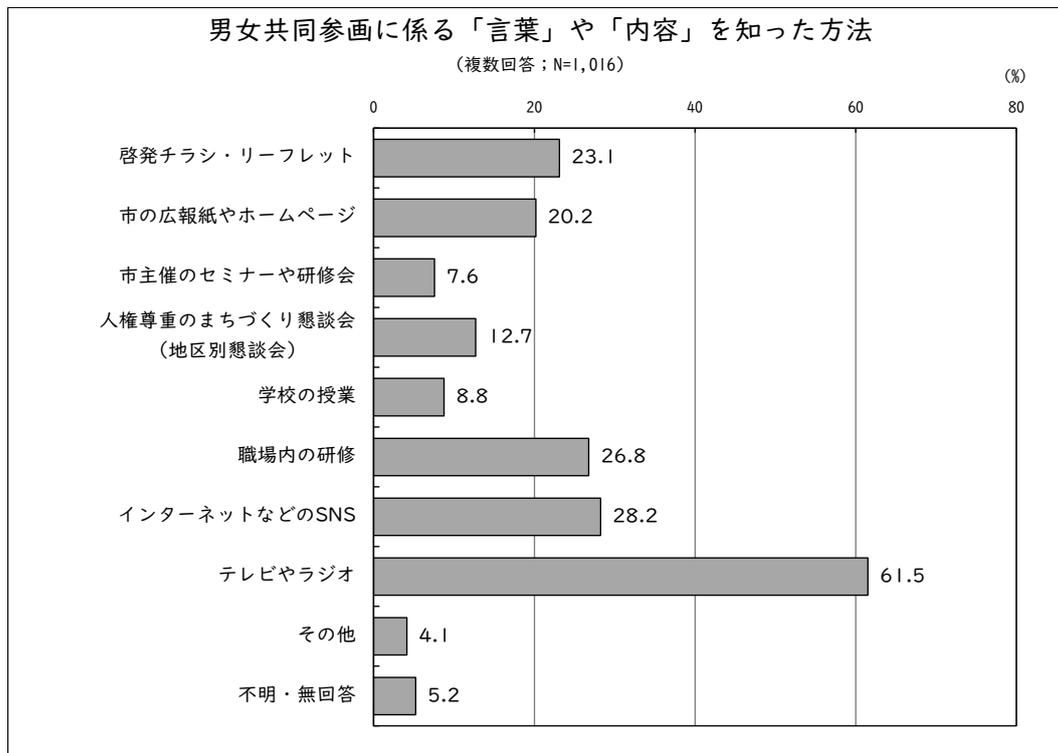
<問 10-1> 各項目で「内容をよく知っている」または「内容を多少は知っている」と回答された方におたずねします。あなたは、それぞれの内容についてどのような方法でご存じになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

男女共同参画に係る「言葉」や「内容」を知った方法は、「テレビやラジオ」が 61.5%で最も多くなっており、以下、「インターネットなどの SNS」が 28.2%、「職場内の研修」が 26.8%と続いている。

性別にみると、男性は「テレビやラジオ」が少なくなっている。

年代別にみると、20 歳代以下では「学校の授業」が、他の年代では「テレビやラジオ」が最も多くなっている。また、他の年代よりも、30 歳代～50 歳代では「職場内の研修」が多く、40 歳代以下では「インターネットなどの SNS」が多く、60 歳代以上では「啓発チラシ・リーフレット」「市の広報紙やホームページ」が多く、70 歳以上では「人権尊重のまちづくり懇談会(地区別懇談会)」が多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「テレビやラジオ」が最も多くなっている。また、他の地域よりも、土山地域は「人権尊重のまちづくり懇談会(地区別懇談会)」「テレビやラジオ」が多く、「職場内の研修」「インターネットなどの SNS」が少なくなっている。甲賀地域は「人権尊重のまちづくり懇談会(地区別懇談会)」が多くなっている。甲南地域は「人権尊重のまちづくり懇談会(地区別懇談会)」が少なくなっている。信楽地域は「啓発チラシ・リーフレット」が多く、「市の広報紙やホームページ」「職場内の研修」が少なくなっている。



	啓発チラシ・リーフレット	市の広報紙やホームページ	市主催のセミナーや研修会	人権尊重のまちづくり懇談会（地区別懇談会）	学校の授業	職場内の研修	インターネットなどのSNS	テレビやラジオ	その他	不明・無回答
全体 (N=1,016)	23.1	20.2	7.6	12.7	8.8	26.8	28.2	61.5	4.1	5.2
男 (N=447)	21.5	19.2	7.2	16.1	8.1	29.1	29.5	56.2	6.0	2.5
女 (N=551)	24.3	21.1	8.0	9.8	9.6	24.5	27.4	66.2	2.5	3.1
20歳代以下 (N=97)	5.2	0.0	1.0	0.0	61.9	19.6	53.6	49.5	1.0	0.0
30歳代 (N=107)	11.2	5.6	0.9	0.9	18.7	42.1	56.1	60.7	3.7	0.9
40歳代 (N=145)	14.5	6.9	6.2	5.5	2.8	40.7	42.1	63.4	2.1	2.1
50歳代 (N=187)	27.3	19.3	7.0	11.2	0.5	34.2	31.0	59.9	3.2	3.7
60歳代 (N=216)	31.0	30.1	10.2	14.8	0.9	28.2	19.0	62.5	6.0	2.8
70歳以上 (N=259)	30.5	34.0	11.6	25.1	0.8	8.9	5.8	66.0	5.8	4.6
水口地域 (N=415)	22.7	22.7	5.1	12.5	10.6	29.6	32.0	59.3	4.3	1.7
土山地域 (N=89)	21.3	21.3	9.0	23.6	5.6	19.1	21.3	67.4	3.4	3.4
甲賀地域 (N=139)	25.2	19.4	11.5	19.4	6.5	26.6	24.5	58.3	6.5	5.8
甲南地域 (N=245)	21.2	19.6	6.9	6.1	7.8	29.8	28.6	64.1	4.1	2.9
信楽地域 (N=123)	28.5	13.8	11.4	9.8	8.9	17.1	25.2	65.9	1.6	2.4

(2) 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について

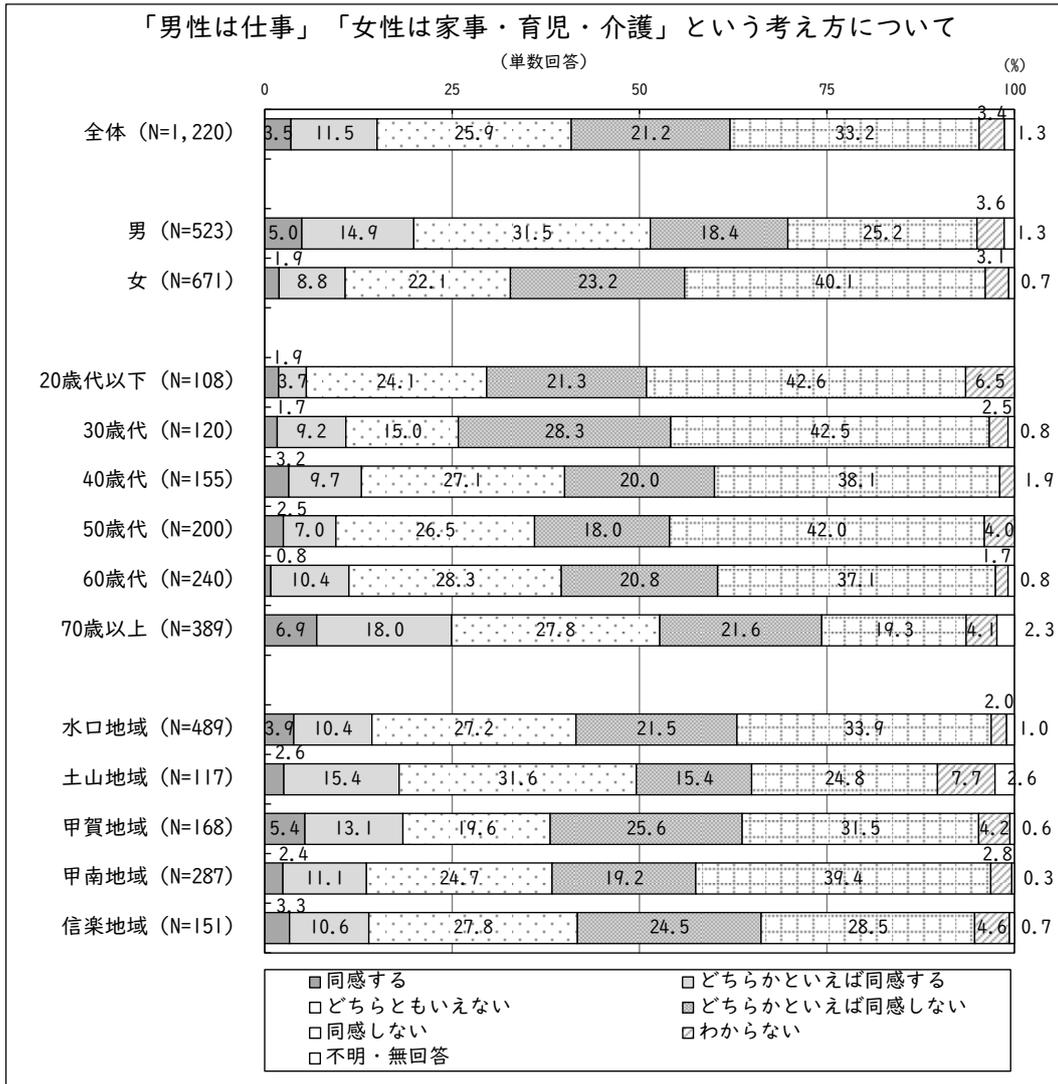
「問 11」 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方については、「同感しない」が 33.2%で最も多くなっており、「どちらかといえば同感しない」と「同感しない」を合わせた『同感できない』の割合は 54.4%となっている。

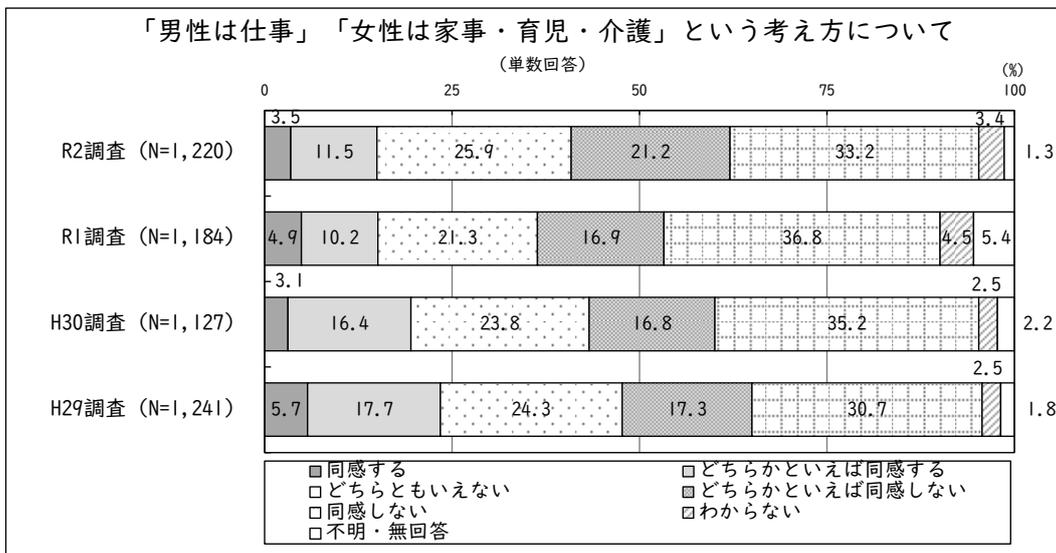
性別にみると、男性では「どちらともいえない」が、女性では「同感しない」が最も多くなっている。また、『同感できない』の割合をみると、男性が 43.6%、女性が 63.3%となっており、女性の方が高くなっている。

年代別にみると 60 歳代以下では「同感しない」が、70 歳代以上では「どちらともいえない」が最も多くなっている。また、『同感できない』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 70.8%、以下、20 歳代以下で 63.9%、50 歳代で 60.0%と続いている。

居住地域別にみると、土山地域では「どちらともいえない」が、他の地域では「同感しない」が最も多くなっている。また、『同感できない』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で 58.6%、以下、甲賀地域で 57.1%、水口地域で 55.4%、信楽地域で 53.0%、土山地域で 40.2%と続いている。



過去3年度分の調査と比較すると、『同意できない』は増加し続けている。



(3) 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について

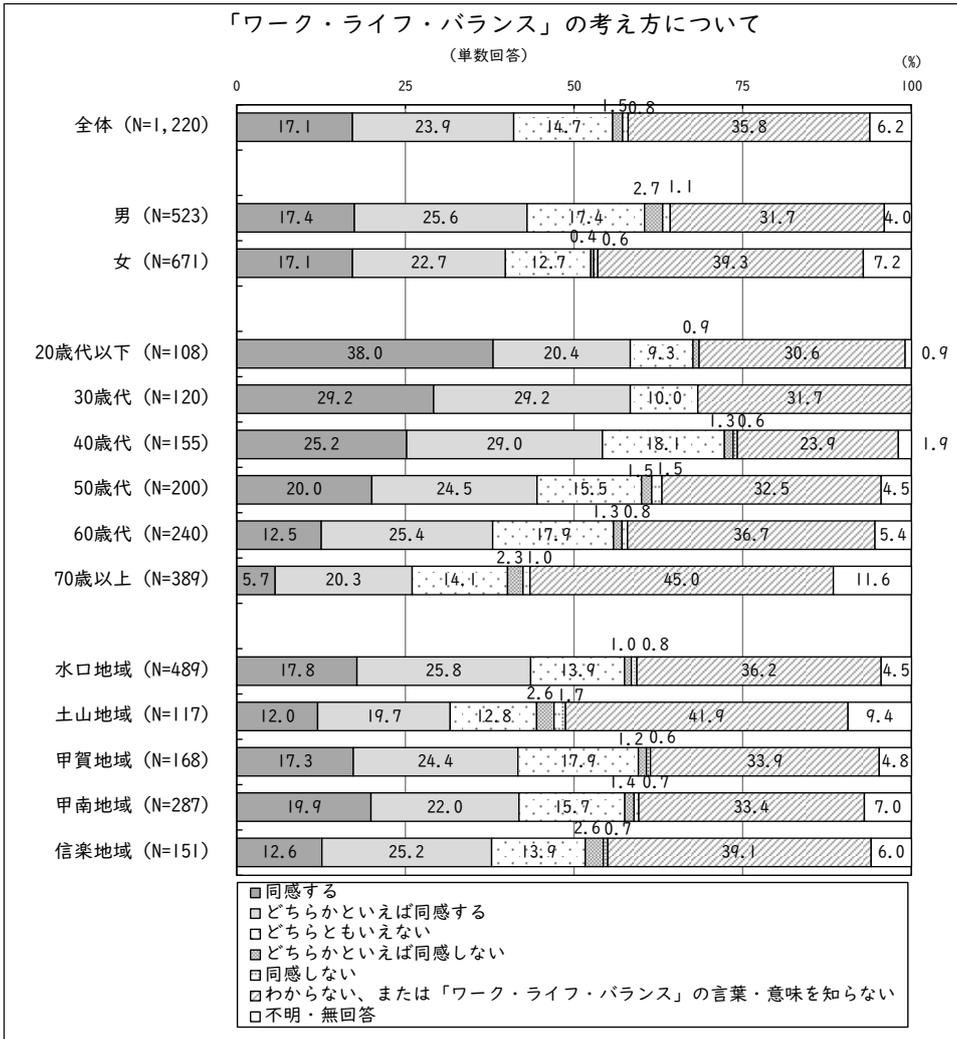
「問 12」 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

「ワーク・ライフ・バランス」の考え方については、「わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない」が 35.8%で最も多くなっており、「同感する」と「どちらかといえば同感する」を合わせた『同感できる』の割合は 41.0%となっている。

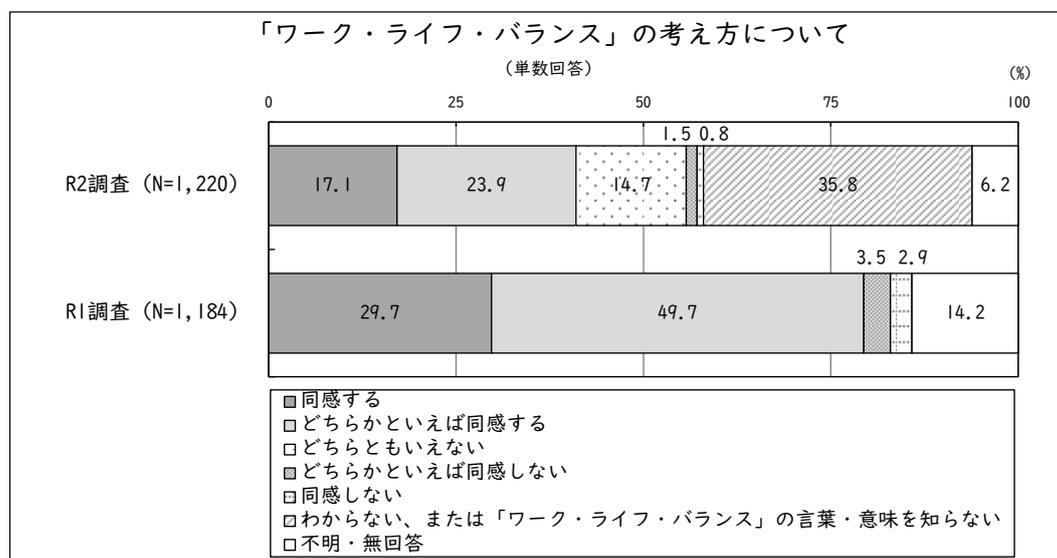
性別にみると、男性、女性ともに「わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない」が最も多くなっている。また、『同感できる』の割合をみると、男性が 43.0%、女性が 39.8%となっている。

年代別にみると、20 歳代以下では「同感する」が、40 歳代では「どちらかといえば同感する」が、他の年代では「わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない」が最も多くなっている。また、『同感できる』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下と 30 歳代で 58.4%、以下、40 歳代が 54.2%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない」が最も多くなっている。また、『同感できる』の割合をみると、最も多いのは水口地域で 43.6%、以下、甲南地域が 41.9%、甲賀地域が 41.7%、信楽地域が 37.8%、土山地域が 31.7%と続いている。



前回の調査と比較すると、『同感できる』の割合は増加している。



※ R1 調査では「どちらともいえない」「わからない、またはワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない」の選択肢がないため、今回調査(R2 調査)との比較には注意が必要である。

(4) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について

《問 13》 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。また、現実にはどうですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。(番号を1つ記入)

① 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度【希望】

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度についての希望は、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が 28.3%で最も多くなっており、以下、「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が 19.7%、「家庭生活」を優先」が 16.8%と続いている。

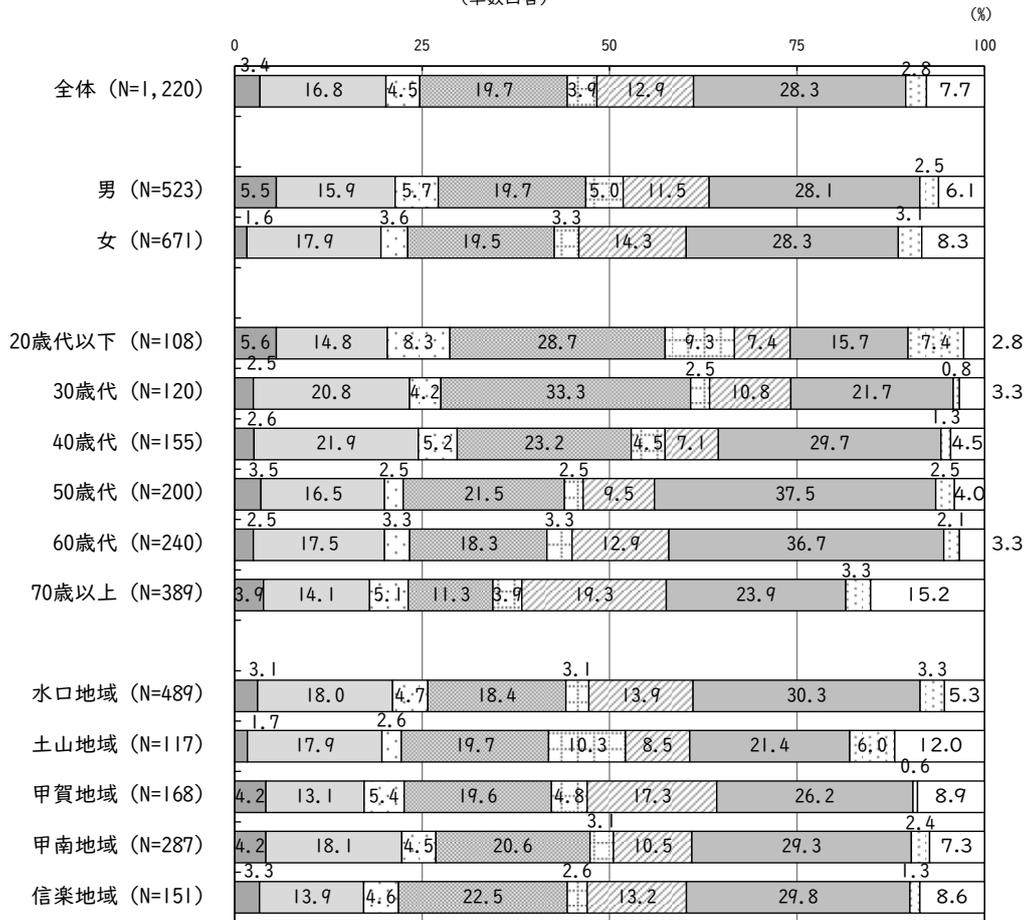
性別にみると、男性、女性ともに「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が最も多くなっている。

年代別にみると、30 歳代以下は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が最も多く、50 歳代以上は「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が最も多くなっている。年代があがるにつれて「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が減少し、「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が増加する傾向にある。

居住地域別にみると、すべての地域において「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が最も多くなっている。また、土山地域は「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先」が多く、「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先」が少ない。

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度
【希望】

(単数回答)



- 「仕事」を優先
- 「家庭生活」を優先
- 「地域・個人の生活」を優先
- 「仕事」と「家庭生活」を共に優先
- 「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先
- わからない
- 不明・無回答

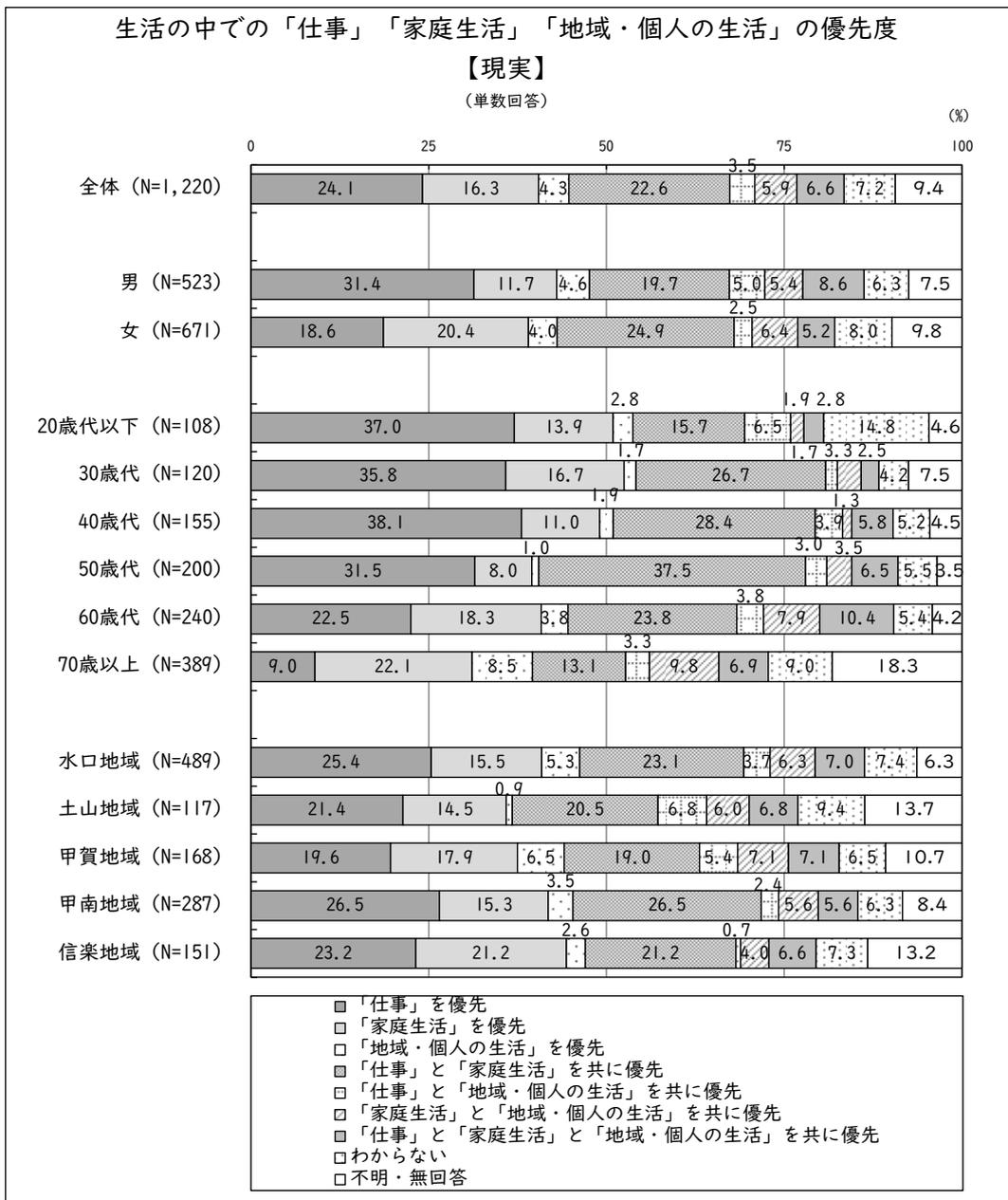
② 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度【現実】

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度についての現実には、「仕事」を優先」が 24.1%で最も多くなっており、以下、「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が 22.6%、「家庭生活」を優先」が 16.3%と続いている。

性別にみると、男性は「仕事」を優先」が、女性は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が最も多くなっている。また、女性は「家庭生活」を優先」が多くなっている。

年代別にみると、40歳代以下は「仕事」を優先」が、50歳代～60歳代は「仕事」と「家庭生活」を共に優先」が、70歳代以上は「家庭生活」を優先」が最も多くなっている。

居住地域別にみると、いずれの地域においても「仕事」を優先」が最も多くなっている。



(5) 女性の就労(起業含む)について

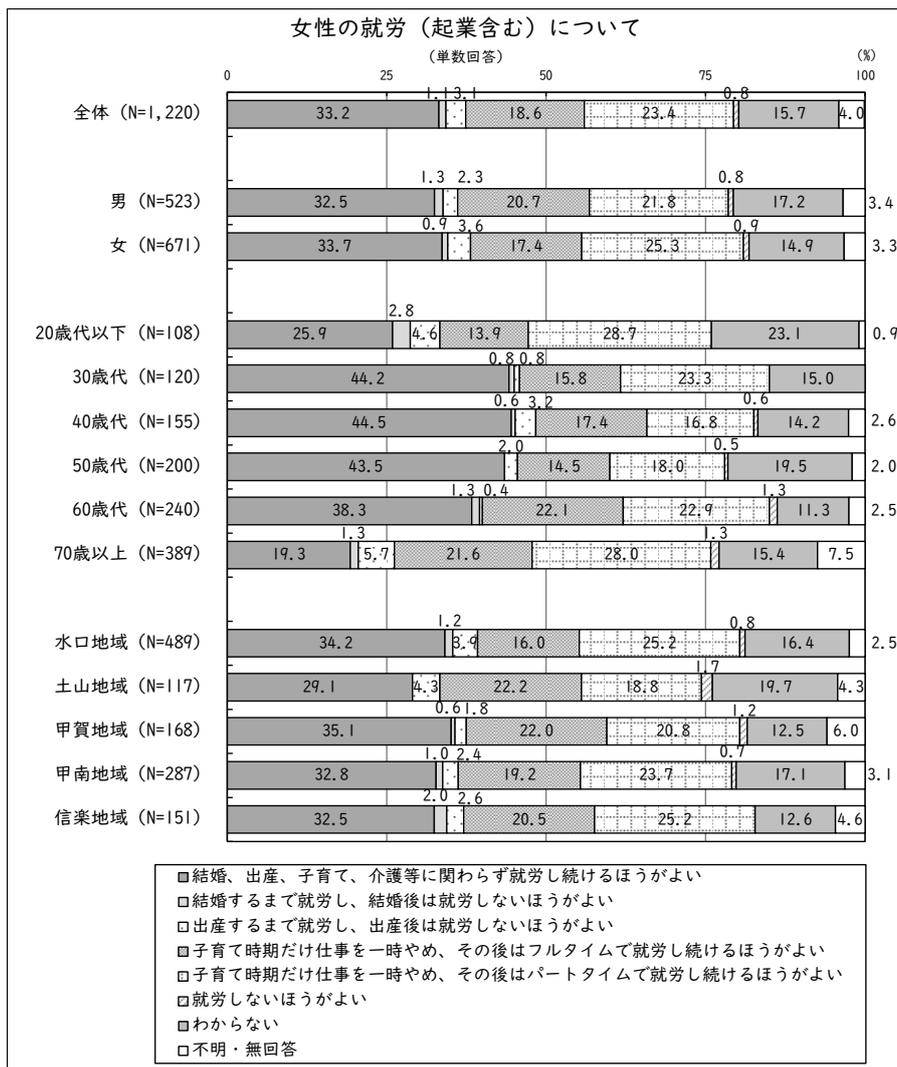
「問 14」 あなたは、女性が就労(起業含む)することについてどのように思われますか。
(○は1つだけ)

女性の就労(起業含む)については、「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が 33.2%で最も多くなっており、以下、「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい」が 23.4%、「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで就労し続けるほうがよい」が 18.6%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに、「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が最も多くなっている。

年代別にみると、20 歳代以下は「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい」が、30 歳代～60 歳代は「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が、70 歳以上は「子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい」が最も多くなっている。また、「就労しないほうがよい」はどの年代も少なくなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい」が最も多くなっている。



(6) 女性が働き続けたり、再就職するうえで必要なこと

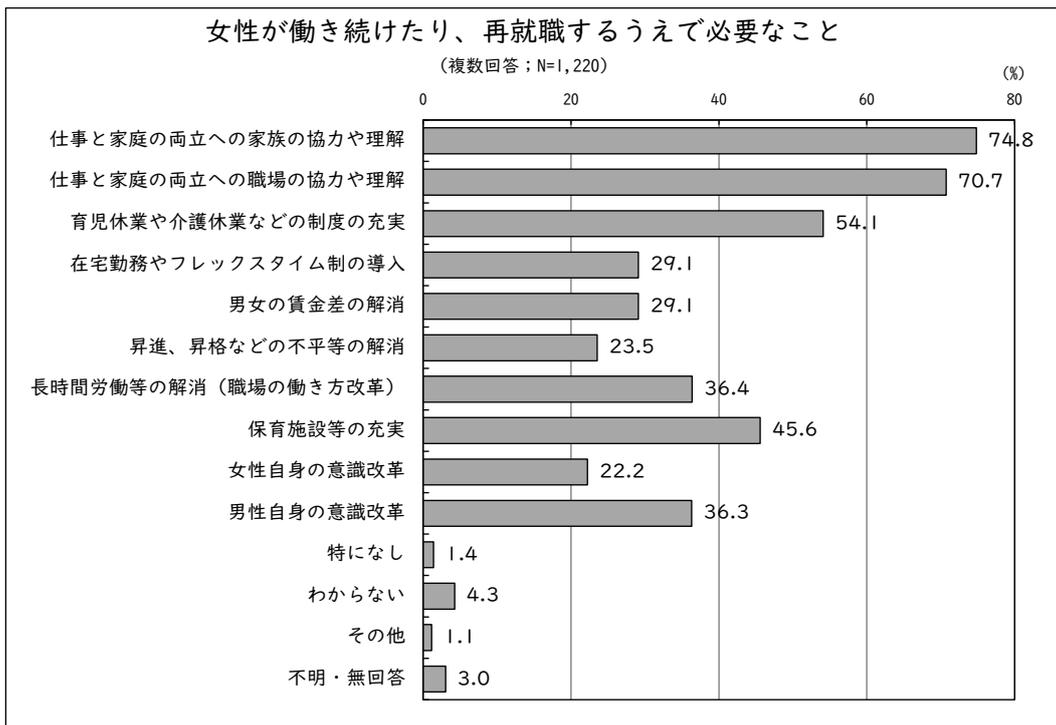
《問 15》 あなたは、女性が働き続けたり、再就職するうえで必要なことはどのようなことだと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

女性が働き続けたり、再就職するうえで必要なことは、「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が 74.8%で最も多くなっており、以下、「仕事と家庭の両立への職場の協力や理解」が 70.7%、「育児休業や介護休業などの制度の充実」が 54.1%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が最も多くなっている。また、女性は「育児休業や介護休業などの制度の充実」が男性よりも多くなっている。

年代別にみると、すべての年代において「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が最も多くなっている。また、30 歳代、40 歳代では「特になし」「わからない」を除くすべての項目が多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」が最も多くなっている。また、土山地域では「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」「育児休業や介護休業などの制度の充実」「在宅勤務やフレックスタイム制の導入」「昇進、昇格などの不平等の解消」「保育施設等の充実」が他の地域よりも少なくなっている。



	仕事と家庭の両立への 家族の協力や理解	仕事と家庭の両立への 職場の協力や理解	育児休業や 介護休業などの 制度の充実	在宅勤務や フレックスタイム制の 導入	男女の賃金差の解消	昇進、昇格 などの 不平等の解消	長時間労働等の解消 (職場の働き方改革)	保育施設等の充実	女性自身の 意識改革	男性自身の 意識改革	特になし	わからない	その他	不明・無回答
全体 (N=1,220)	74.8	70.7	54.1	29.1	29.1	23.5	36.4	45.6	22.2	36.3	1.4	4.3	1.1	3.0
男 (N=523)	70.6	66.3	47.4	27.3	26.4	22.4	32.5	41.3	20.3	32.3	1.0	4.8	1.1	2.1
女 (N=671)	79.1	75.0	60.5	31.1	31.9	25.0	40.1	49.6	24.1	39.6	1.8	3.9	1.0	2.8
20歳代以下 (N=108)	68.5	76.9	64.8	35.2	24.1	20.4	42.6	44.4	10.2	31.5	0.9	8.3	1.9	0.9
30歳代 (N=120)	79.2	87.5	62.5	48.3	38.3	32.5	59.2	61.7	30.8	45.0	0.0	1.7	0.8	0.0
40歳代 (N=155)	81.3	82.6	61.3	34.2	34.8	27.7	41.3	52.9	29.0	42.6	0.0	1.9	3.2	0.6
50歳代 (N=200)	79.5	75.0	56.0	33.0	34.0	25.5	38.0	49.0	25.5	41.5	1.0	4.5	1.5	1.5
60歳代 (N=240)	83.8	74.2	63.8	32.9	35.8	27.5	40.0	52.1	26.3	42.9	0.0	2.5	0.8	0.4
70歳以上 (N=389)	65.8	55.8	39.6	15.7	19.3	17.0	23.1	33.2	16.2	26.0	3.6	5.9	0.3	6.7
水口地域 (N=489)	76.3	71.8	54.0	29.2	30.3	23.3	36.8	49.5	22.1	36.6	1.2	4.5	2.0	2.2
土山地域 (N=117)	65.0	66.7	40.2	19.7	28.2	15.4	33.3	29.1	23.9	40.2	0.9	10.3	0.9	4.3
甲賀地域 (N=168)	70.8	73.2	56.5	30.4	33.3	25.6	36.3	42.9	17.9	33.9	2.4	2.4	0.6	3.6
甲南地域 (N=287)	78.4	69.7	56.8	30.0	27.9	26.8	37.6	49.1	23.7	35.2	1.4	3.5	0.3	1.7
信楽地域 (N=151)	77.5	72.2	59.6	33.8	24.5	22.5	35.8	43.7	24.5	37.7	1.3	2.6	0.7	3.3

前回の調査と比較すると、「仕事と家庭の両立への家族の協力や理解」「仕事と家庭の両立への職場の協力や理解」「育児休業や介護休業などの制度の充実」の上位3位の項目は変わっていない。

「在宅勤務やフレックスタイム制の導入」「昇進、昇格などの不平等の解消」「長時間労働等の解消(職場の働き方改革)」「保育施設等の充実」「女性自身の意識改革」が増加している。

	仕事と家庭の両立への 家族の協力や理解	仕事と家庭の両立への 職場の協力や理解	育児休業や 介護休業などの 制度の充実	在宅勤務や フレックスタイム制の 導入	男女の賃金差の解消	昇進、昇格などの 不平等の解消	長時間労働等の解消 (職場の働き方改革)	保育施設等の充実	女性自身の 意識改革	男性自身の 意識改革	特になし	わからない	その他	不明・無回答
R2調査 (N=1,220)	74.8	70.7	54.1	29.1	29.1	23.5	36.4	45.6	22.2	36.3	1.4	4.3	1.1	3.0
R1調査 (N=1,184)	67.3	64.1	46.5	23.4	26.0	18.3	34.0	34.5	16.7	-	1.9	3.6	1.4	7.6

※ R1 調査では「男性自身の意識改革」の項目がないため、今回調査(R2 調査)との比較には注意が必要である。

3 ドメスティック・バイオレンス(DV)について

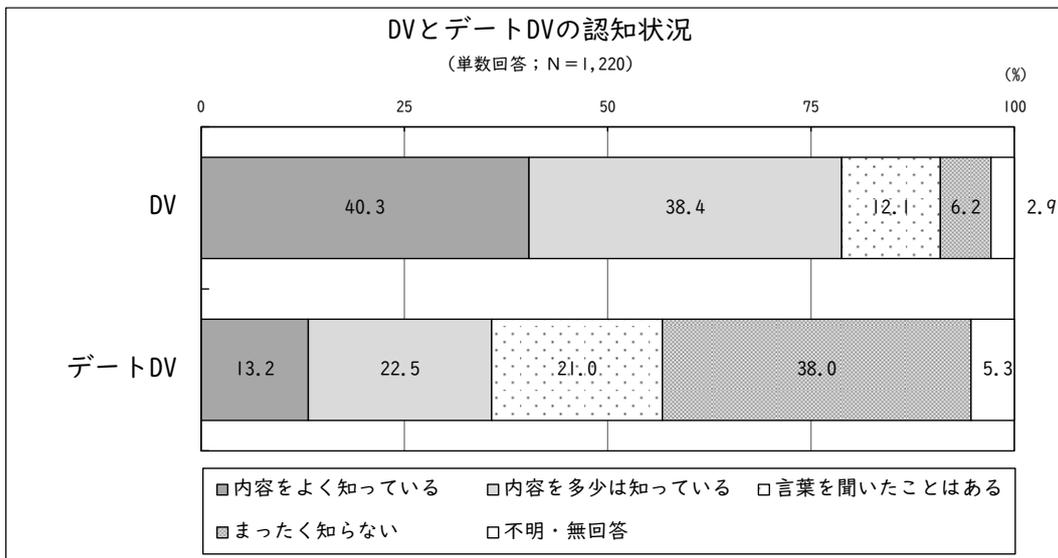
(1) 「ドメスティック・バイオレンス(DV)」や「デートDV」の認知状況

「問 16」 あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」や「デートDV」をご存じですか。
(○はそれぞれ1つつ)

① DVとデートDVの認知状況

DVの認知状況について、「内容をよく知っている」が40.3%で最も多くなっており、以下、「内容を多少は知っている」が38.4%と続いている。「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は78.7%となっている。「まったく知らない」が6.2%となっている。

デートDVの認知状況について、「まったく知らない」が38.0%で最も多くなっており、以下、「内容を多少は知っている」が22.5%と続いている。「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』の割合は35.7%となっている。



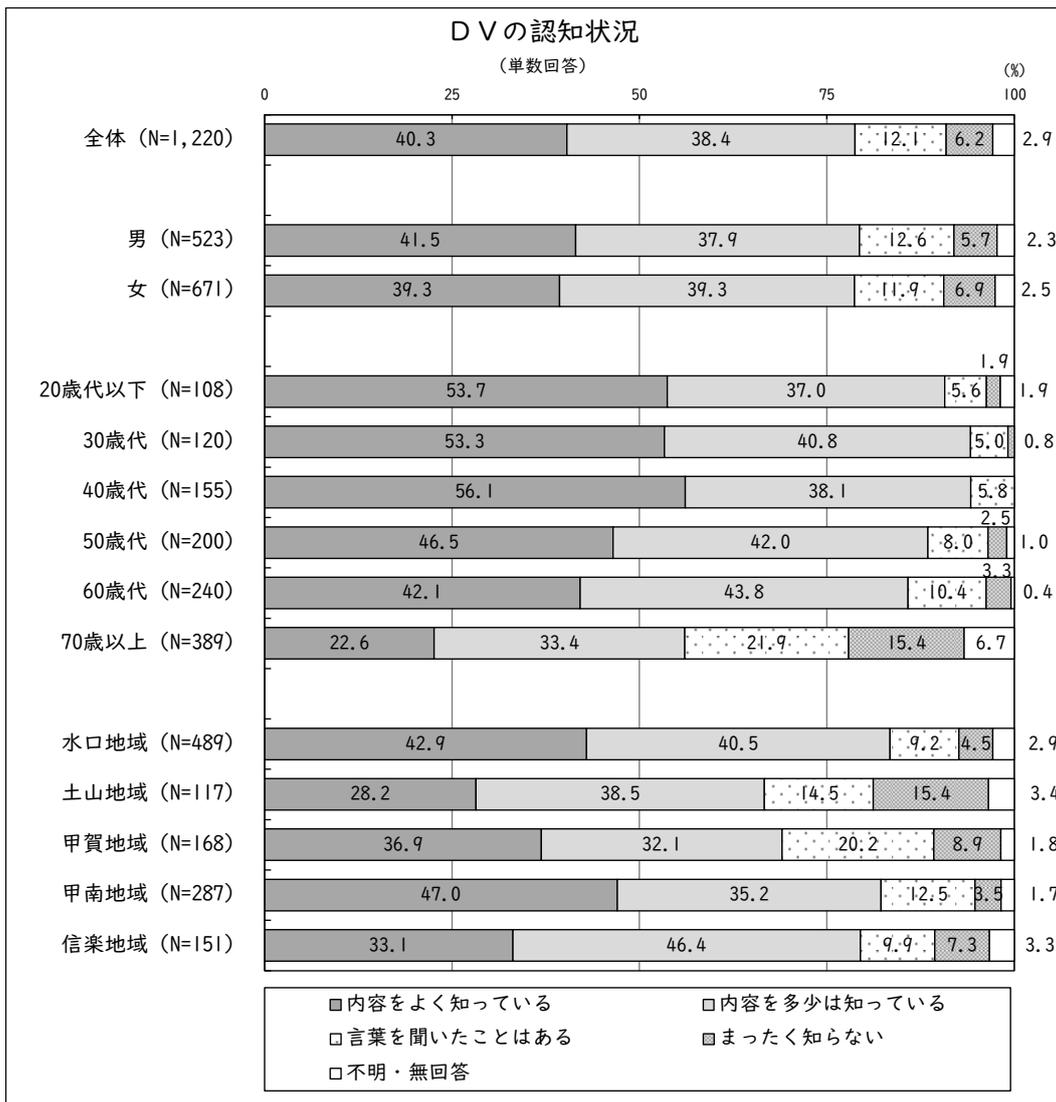
② DVの認知状況

DVは、「内容をよく知っている」が40.3%で最も多くなっており、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』は78.7%となっている。

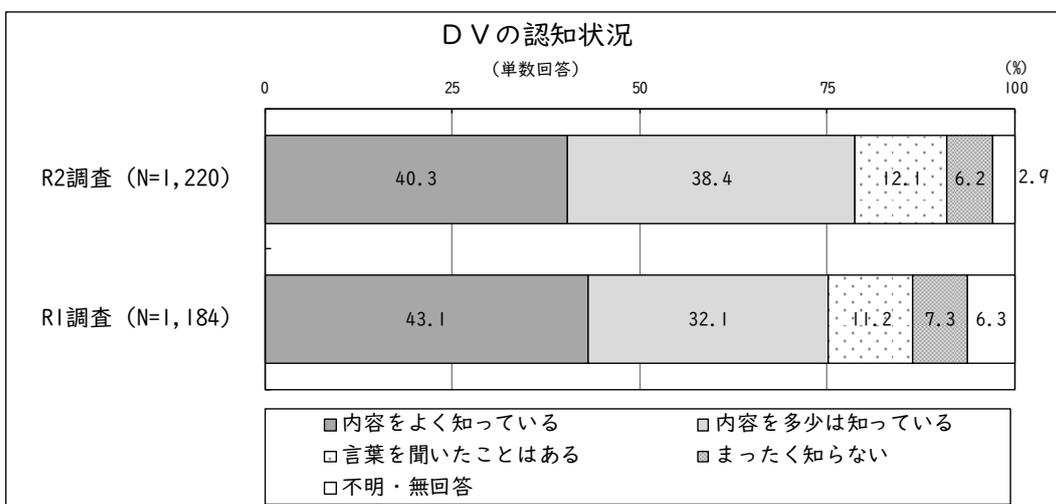
性別にみると、男性、女性ともに「内容をよく知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が79.4%、女性が78.6%となっている。

年代別にみると、50歳代以下では「内容をよく知っている」が、60歳代以上では「内容を多少は知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは40歳代で94.2%、以下、30歳代が94.1%、20歳代以下が90.7%と続いている。

居住地域別にみると、土山地域と信楽地域では「内容を多少は知っている」が、他の地域では「内容をよく知っている」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは水口地域で83.4%、以下、甲南地域が82.2%、信楽地域が79.5%、甲賀地域が69.0%、土山地域が66.7%と続いている。



前回の調査と比較すると、『知っている』の割合が増加している。



③ デート DV の認知状況

デート DV は、「まったく知らない」が 38.0%で最も多くなっており、「内容をよく知っている」と「内容を多少は知っている」を合わせた『知っている』は 35.7%となっている。

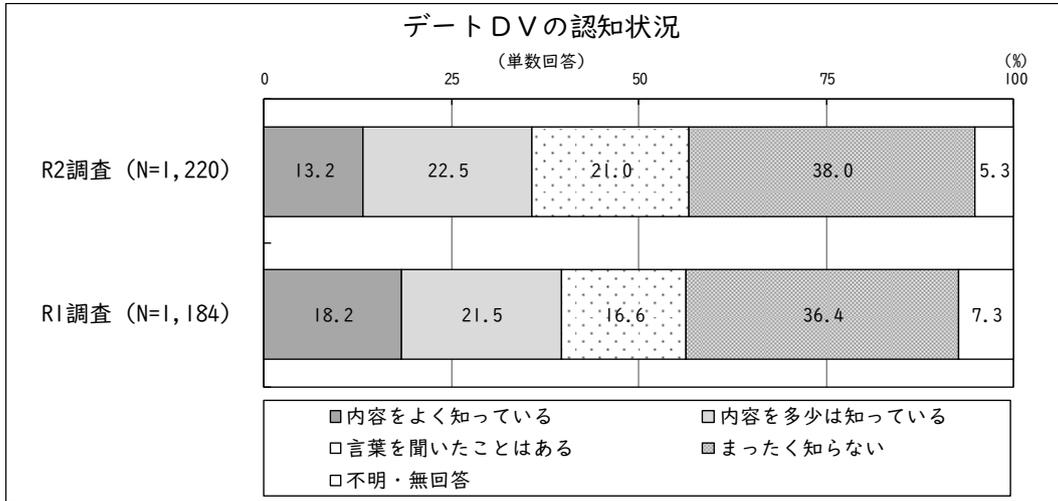
性別にみると、男性、女性ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が 35.2%、女性が 36.7%となっている。

年代別にみると、すべての年代において「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 48.1%、以下、40 歳代で 47.7%、30 歳代で 46.7%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「まったく知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは信楽地域で 38.4%、以下、甲南地域で 38.3%、水口地域で 36.6%、甲賀地域で 32.1%、土山地域で 29.1%と続いている。



前回の調査と比較すると、『知っている』の割合が減少している。今回調査、前回調査ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。

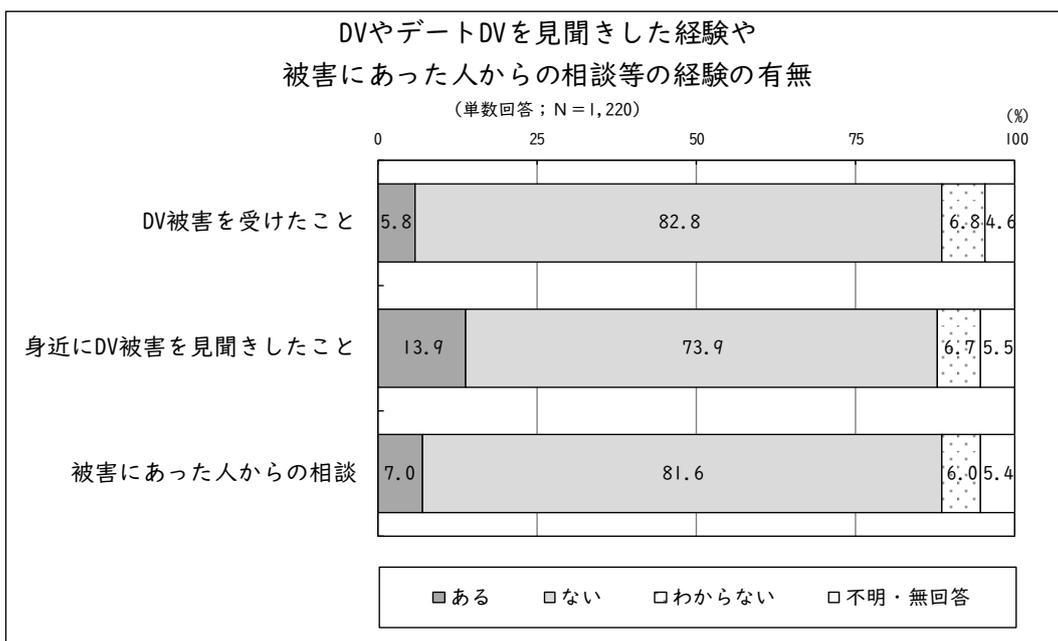


(2) DVやデートDVを見聞きした経験や被害にあった人からの相談等の経験の有無

《問 17》 あなたは、DVやデートDVを見聞きしたり、被害にあった人からの相談等を受けたことがありますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

① DVやデートDVを見聞きした経験や被害にあった人からの相談等の経験の有無

DV やデートDV を見聞きした経験や被害にあった人からの相談等の経験の有無について、すべての項目について「ない」が多くなっている。「ある」の割合をみると、「DV 被害を受けたこと」が 5.8%、「身近にDV被害を見聞きしたこと」が 13.9%、「被害にあった人からの相談」が 7.0%となっている。



② DV被害を受けた経験

DV被害を受けた経験は、「ある」が5.8%、「ない」が82.8%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、男性が2.5%、女性が8.2%となっており、女性の方が多くなっている。

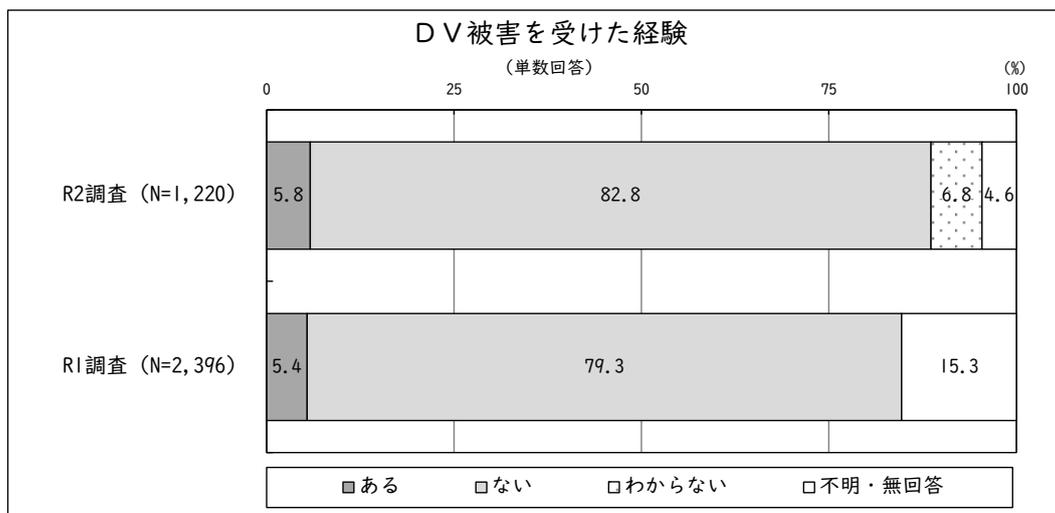
年代別にみると、すべての年代において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは40歳代で12.3%、以下、50歳代が9.0%、30歳代が7.5%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは水口地域で9.0%、以下、信楽地域が6.0%、甲南地域が4.2%、甲賀地域が2.4%、土山地域が0.9%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは3年未満で8.5%、以下、3年～10年未満が6.7%、10年以上が5.5%と続いている。



前回の調査と比較すると、「ある」の割合に変化はみられない。



※ R1 調査では「わからない」の項目がないため、今回調査(R2 調査)との比較には注意が必要である。

③ 身近にDV被害を見聞きした経験

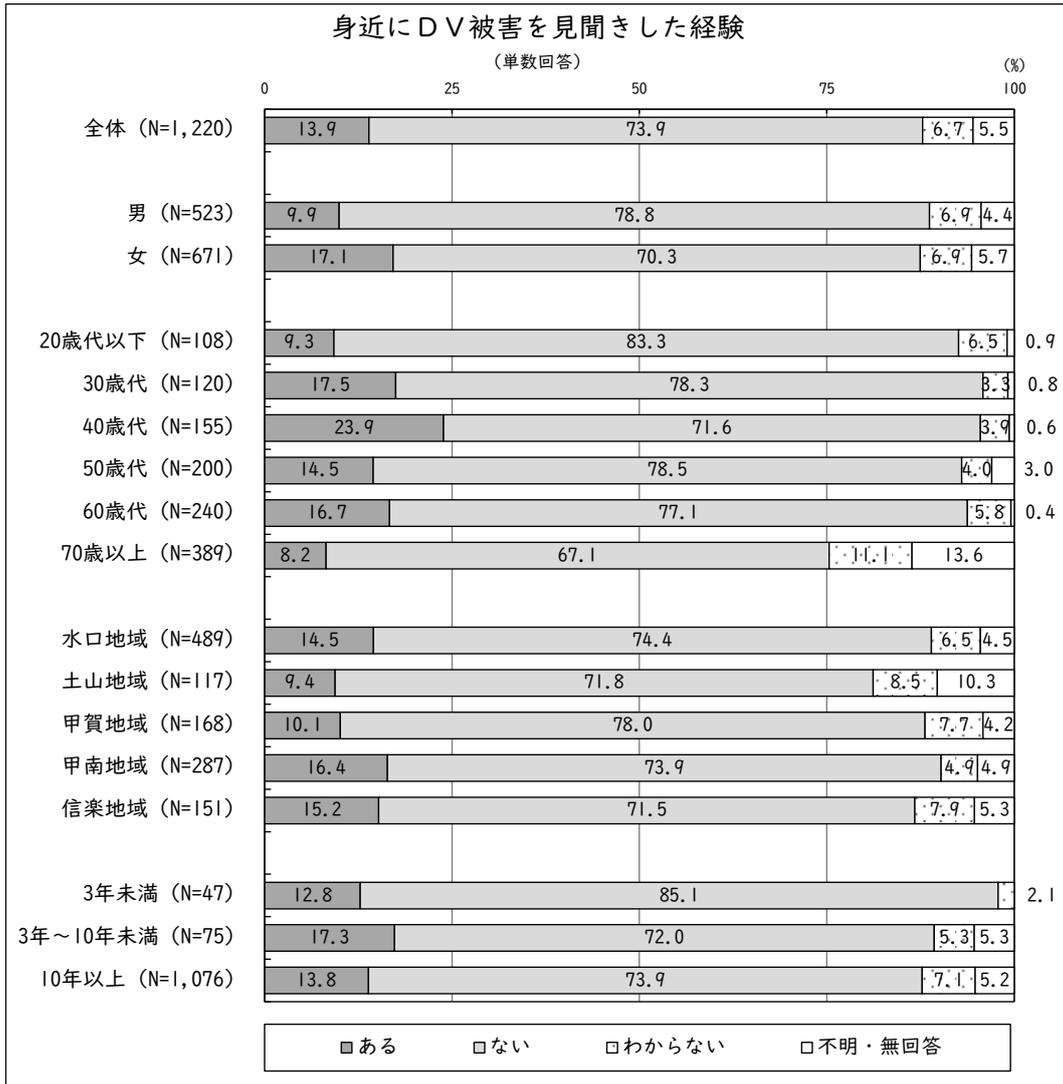
身近にDV被害を見聞きした経験は、「ある」が13.9%、「ない」が73.9%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、男性が9.9%、女性が17.1%となっており、女性の方が多くなっている。

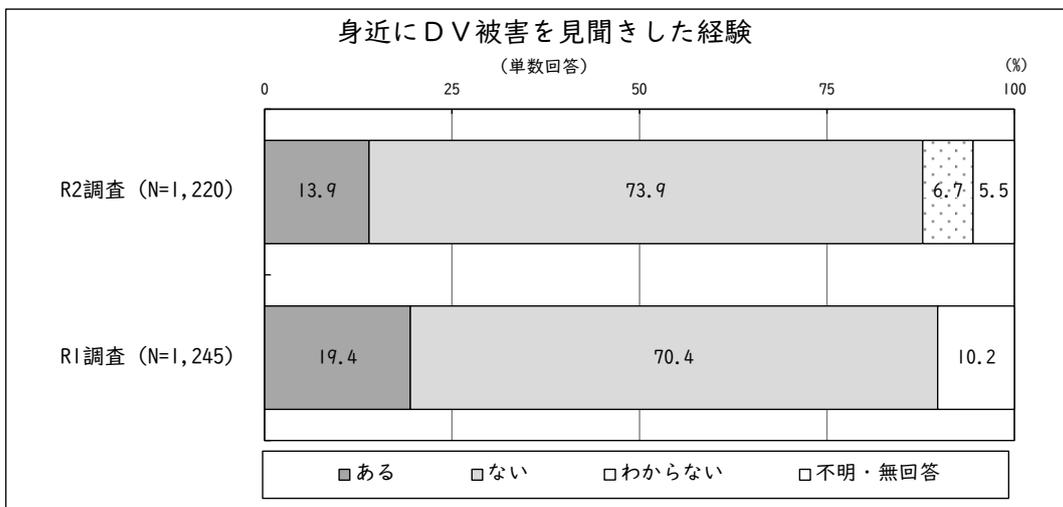
年代別にみると、すべての年代において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは40歳代で23.9%、以下、30歳代が17.5%、60歳代が16.7%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは甲南地域で16.4%、以下、信楽地域が15.2%、水口地域が14.5%、甲賀地域が10.1%、土山地域が9.4%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で17.3%、以下、10年以上が13.8%、3年未満が12.8%と続いている。



前回の調査と比較すると、「ある」の割合は減少している。



※ R1 調査では「わからない」の項目がないため、今回調査(R2 調査)との比較には注意が必要である。

④ DVの被害にあった人からの相談を受けた経験

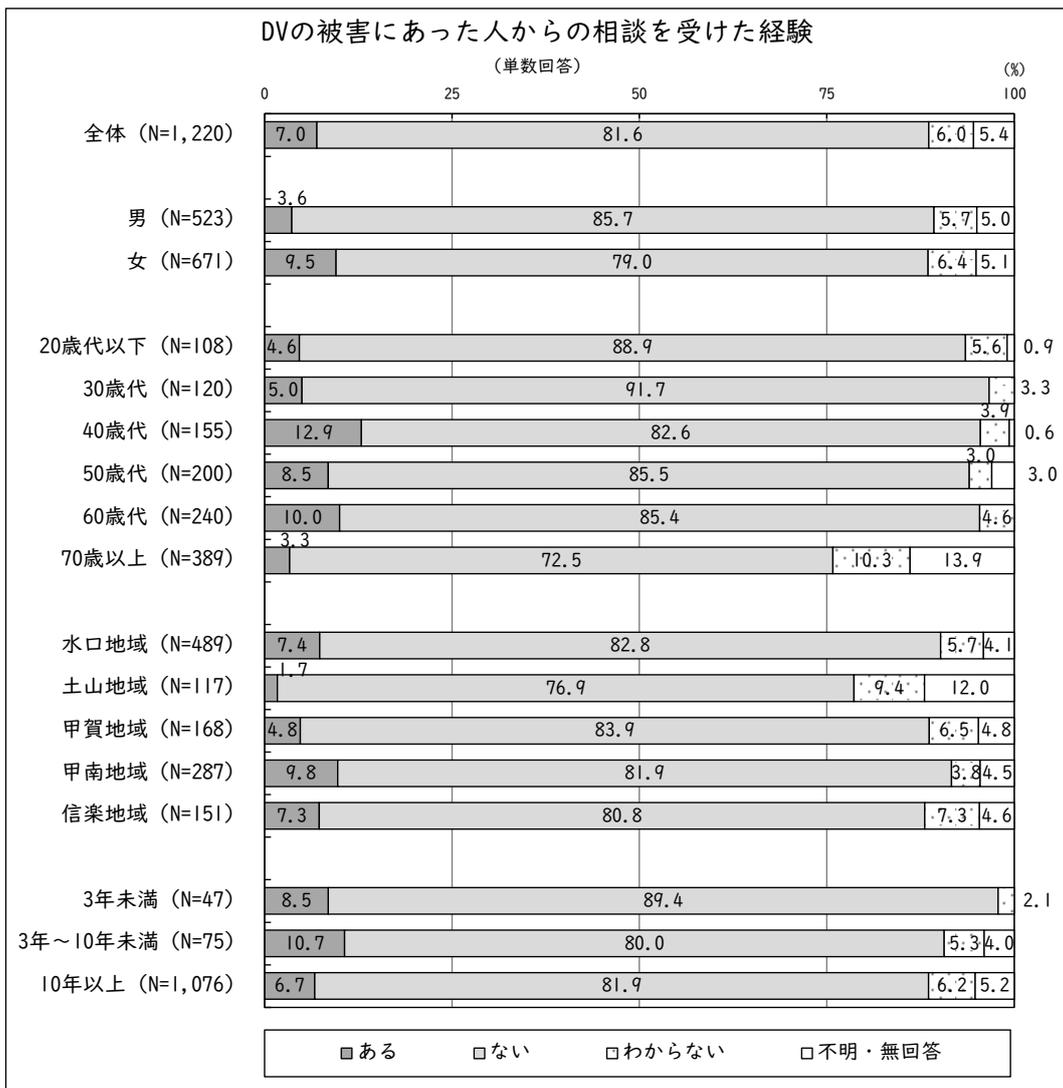
DVの被害にあった人からの相談を受けた経験は、「ある」が7.0%、「ない」が81.6%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、男性が3.6%、女性が9.5%となっており、女性の方が多くなっている。

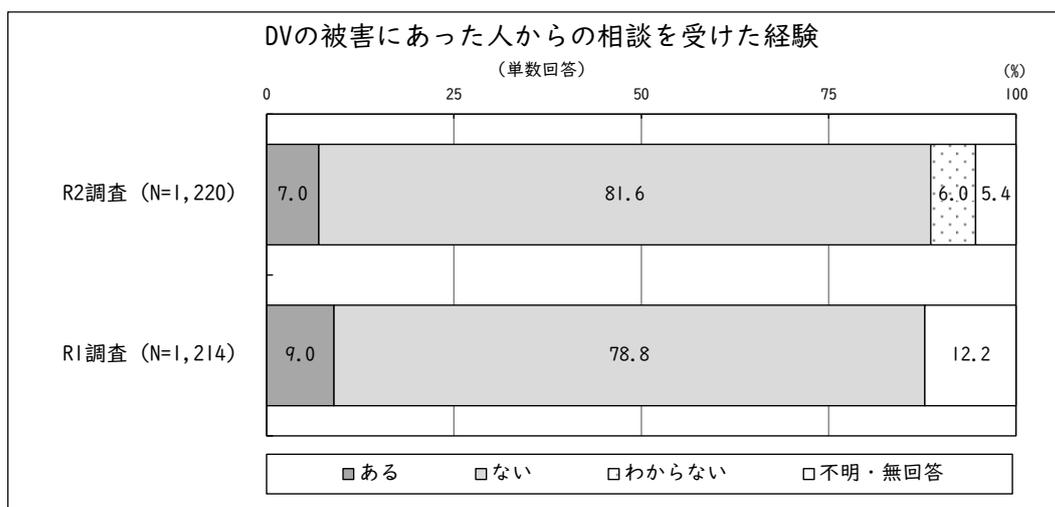
年代別にみると、すべての年代において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは40歳代で12.9%、以下、60歳代が10.0%、50歳代が8.5%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは甲南地域で9.8%、以下、水口地域が7.4%、信楽地域が7.3%、甲賀地域が4.8%、土山地域が1.7%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「ない」の方が多くなっている。また、「ある」の割合をみると、最も多いのは3年～10年未満で10.7%、以下、3年未満が8.5%、10年以上が6.7%と続いている。



前回の調査と比較すると、「ある」の割合は減少している。



※ R1 調査では「わからない」の項目がないため、今回調査(R2 調査)との比較には注意が必要である。

(3) 身体的・心理的暴力と思える行為の経験

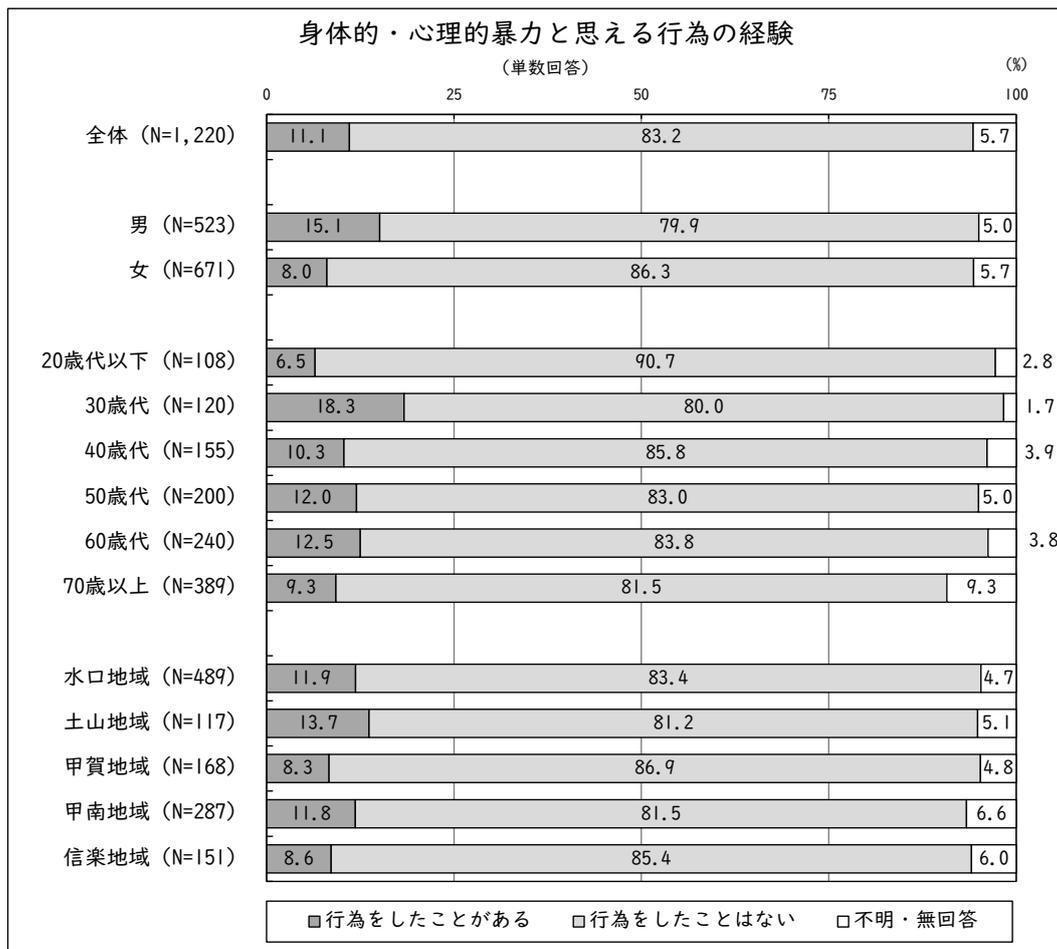
「問 18」 あなたは、身体的・心理的暴力と思える行為をしたことがありますか。(○は1つだけ)

身体的・心理的暴力と思える行為の経験は、「行為をしたことがある」が 11.1%、「行為をしたことはない」が 83.2%となっている。

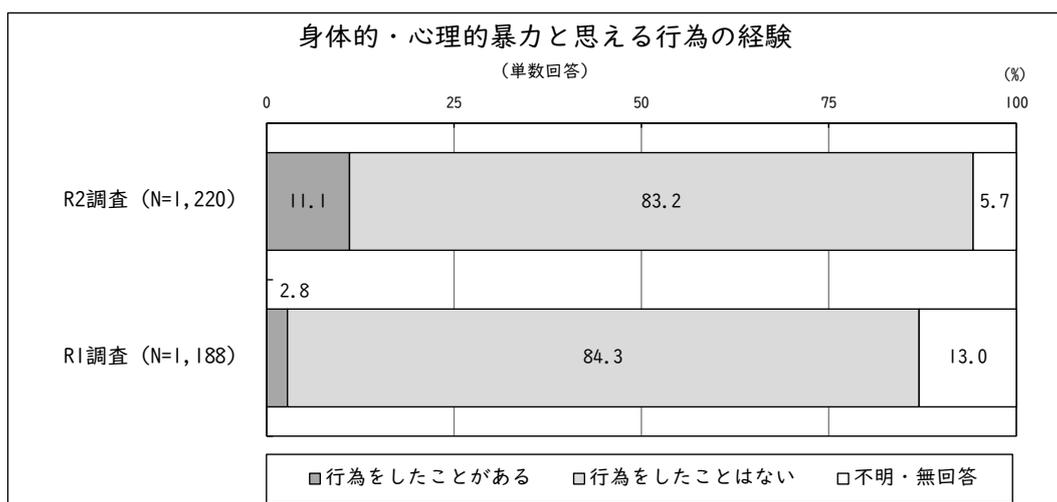
性別にみると、男性、女性ともに「行為をしたことはない」の方が多くなっている。また、「行為をしたことがある」の割合をみると、男性が 15.1%、女性が 8.0%となっており、男性の方が多くなっている。

年代別にみると、すべての年代において「行為をしたことはない」の方が多くなっている。また、「行為をしたことがある」の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 18.3%、以下、60 歳代が 12.5%、50 歳代が 12.0%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「行為をしたことはない」の方が多くなっている。また、「行為をしたことがある」の割合をみると、最も多いのは土山地域で 13.7%、以下、水口地域が 11.9%、甲南地域が 11.8%、信楽地域が 8.6%、甲賀地域が 8.3%と続いている。



前回の調査と比較すると、「行為をしたことがある」の割合が増加している。



※ R1 調査では DV・デート DV について自分が行為をしたことについて、複数回答で「身体的な暴力」「心理的な暴力」「性的な暴力」「経済的な暴力」「子どもを利用した暴力」「ない」を質問しそれらについての回答者数を今回調査での「行為をしたことがある」として比較している。今回調査(R2 調査)との比較には注意が必要である。

(4) DVに関する相談窓口の認知状況

「問 19」 あなたは、DVについて相談できる窓口をご存じですか。(あてはまるものすべてに○)

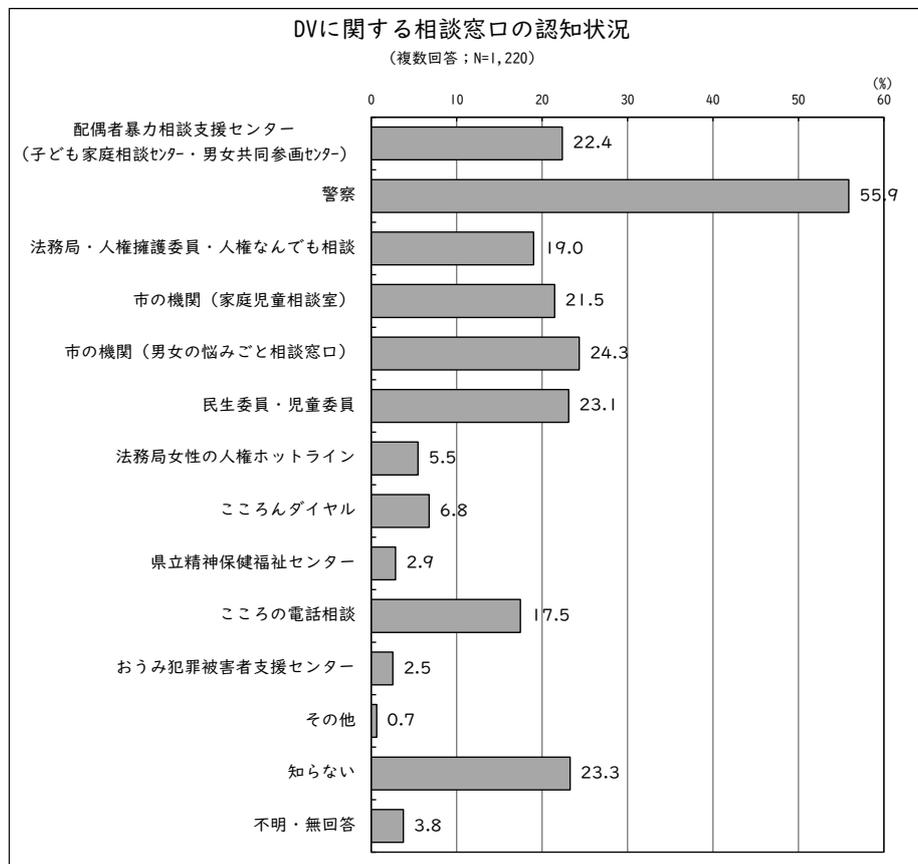
DV に関する相談窓口の認知状況は、「警察」が 55.9%で最も多くなっており、以下、「市の機関 (男女の悩みごと相談窓口)」が 24.3%、「知らない」が 23.3%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「警察」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代において「警察」が最も多くなっている。また「知らない」についてもすべての年代において一定いる。20歳代以下は「こころんダイヤル」「知らない」が他の年代よりも多く、「法務局・人権擁護委員・人権なんでも相談」「民生委員・児童委員」は年代があがるほど多くなっている。30歳代以下では「市の機関」が少なくなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「警察」が最も多くなっている。他の地域よりも、土山地域は「民生委員・児童委員」が多く、「配偶者暴力相談支援センター(子ども家庭相談センター・男女共同参画センター)」が少なくなっている。甲賀地域は「市の機関(家庭児童相談室)」「民生委員・児童委員」が多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「警察」が最も多くなっている。また、他の居住歴よりも、3年未満は「こころんダイヤル」「こころの電話相談」が多く、「配偶者暴力相談支援センター(子ども家庭相談センター・男女共同参画センター)」「法務局・人権擁護委員・人権なんでも相談」「市の機関(男女の悩みごと相談窓口)」「民生委員・児童委員」が少なくなっている。



	配偶者暴力相談支援センター (子ども家庭相談センター・ 男女共同参画センター)	警察	法務局 ・人権擁護委員 ・人権なんでも相談	市の機関 (家庭児童相談室)	市の機関 (男女の悩みごと 相談窓口)	民生委員 ・児童委員	法務局女性の 人権 ホットライン	こころん ダイヤル	精神保健福祉 センター	県立 精神保健福祉 センター	こころの 電話相談	犯罪被害者 支援 センター	おうみ センター	その他	知らない	不明 ・無回答
全体 (N=1,220)	22.4	55.9	19.0	21.5	24.3	23.1	5.5	6.8	2.9	17.5	2.5	0.7	23.3	3.8		
男 (N=523)	20.5	54.9	20.1	21.4	21.6	22.4	5.9	5.4	2.5	13.2	3.3	0.4	27.3	2.9		
女 (N=671)	23.8	56.9	17.9	21.3	26.2	23.8	4.9	7.7	3.3	20.9	2.1	0.7	20.3	3.9		
20歳以下 (N=108)	12.0	50.9	7.4	11.1	12.0	1.9	3.7	20.4	1.9	18.5	0.9	0.0	35.2	0.9		
30歳代 (N=120)	20.8	65.8	7.5	19.2	18.3	11.7	2.5	9.2	1.7	18.3	1.7	0.0	20.8	0.0		
40歳代 (N=155)	25.8	66.5	13.5	25.2	26.5	14.8	3.9	4.5	4.5	19.4	3.9	0.6	22.6	0.6		
50歳代 (N=200)	24.0	61.0	19.0	23.5	28.5	21.0	6.0	11.0	2.0	20.0	1.5	1.5	23.0	1.5		
60歳代 (N=240)	28.3	62.5	24.2	25.8	27.9	32.5	7.5	5.0	4.2	19.6	4.6	0.8	20.8	0.8		
70歳以上 (N=389)	20.1	43.4	24.9	20.3	24.7	31.4	6.2	2.3	2.6	13.9	2.1	0.5	23.1	9.0		
水口地域 (N=489)	22.3	57.1	17.8	20.9	24.3	19.4	5.1	7.0	2.0	18.6	2.2	0.8	23.9	2.9		
土山地域 (N=117)	17.1	52.1	18.8	17.9	23.1	28.2	4.3	6.8	3.4	15.4	4.3	0.9	23.1	5.1		
甲賀地域 (N=168)	25.0	53.6	20.2	29.2	22.6	30.4	6.5	7.1	2.4	19.0	1.8	0.6	23.2	3.6		
甲南地域 (N=287)	23.3	58.9	18.8	19.9	24.7	24.0	5.6	5.9	4.2	16.0	3.5	0.7	20.9	4.2		
信楽地域 (N=151)	23.2	53.6	22.5	21.9	27.2	21.9	6.6	7.9	3.3	17.2	1.3	0.0	25.8	2.6		
3年未満 (N=47)	17.0	57.4	6.4	25.5	8.5	14.9	4.3	14.9	2.1	25.5	4.3	0.0	25.5	2.1		
3年～10年未満 (N=75)	26.7	65.3	14.7	25.3	22.7	14.7	5.3	9.3	1.3	24.0	4.0	0.0	24.0	0.0		
10年以上 (N=1,076)	22.5	55.7	20.0	21.2	25.4	24.3	5.6	6.3	3.1	16.8	2.4	0.7	23.0	3.6		

前回の調査と比較すると、「知らない」が減少しており、「配偶者暴力相談支援センター(子ども家庭相談センター・男女共同参画センター)」「警察」「法務局・人権擁護委員・人権なんでも相談」「市の機関(家庭児童相談室)」「市の機関(男女の悩みごと相談窓口)」「民生委員・児童委員」「法務局女性の人権ホットライン」「こころんダイヤル」「県立精神保健福祉センター」「こころの電話相談」が増加している。

	配偶者暴力相談支援センター (子ども家庭相談センター・ 男女共同参画センター)	警察	法務局 ・人権擁護委員 ・人権なんでも相談	市の機関 (家庭児童相談室)	市の機関 (男女の悩みごと 相談窓口)	民生委員 ・児童委員	法務局女性の 人権 ホットライン	こころん ダイヤル	精神保健福祉 センター	県立 精神保健福祉 センター	こころの 電話相談	犯罪被害者 支援 センター	おうみ センター	その他	知らない	不明 ・無回答
R2調査 (N=1,220)	22.4	55.9	19.0	21.5	24.3	23.1	5.5	6.8	2.9	17.5	2.5	0.7	23.3	3.8		
R1調査 (N=1,184)	9.4	38.3	10.5	11.3	14.4	13.1	2.9	5.9	1.7	11.0	3.0	0.8	30.7	18.0		

4 障がい福祉について

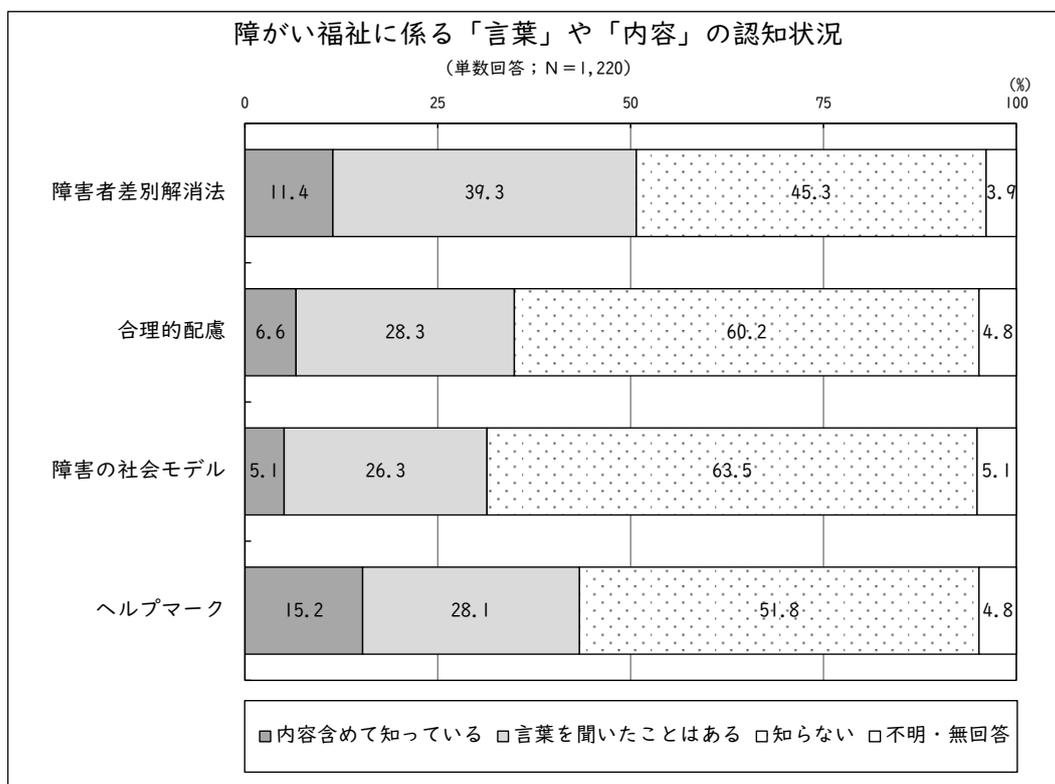
(1) 障がい福祉に係る「言葉」や「内容」の認知状況

① 障がい福祉に係る「言葉」や「内容」の認知状況

「問 20」 あなたは、次にあげる「言葉」や「内容」をご存じですか。(○はそれぞれ1つずつ)

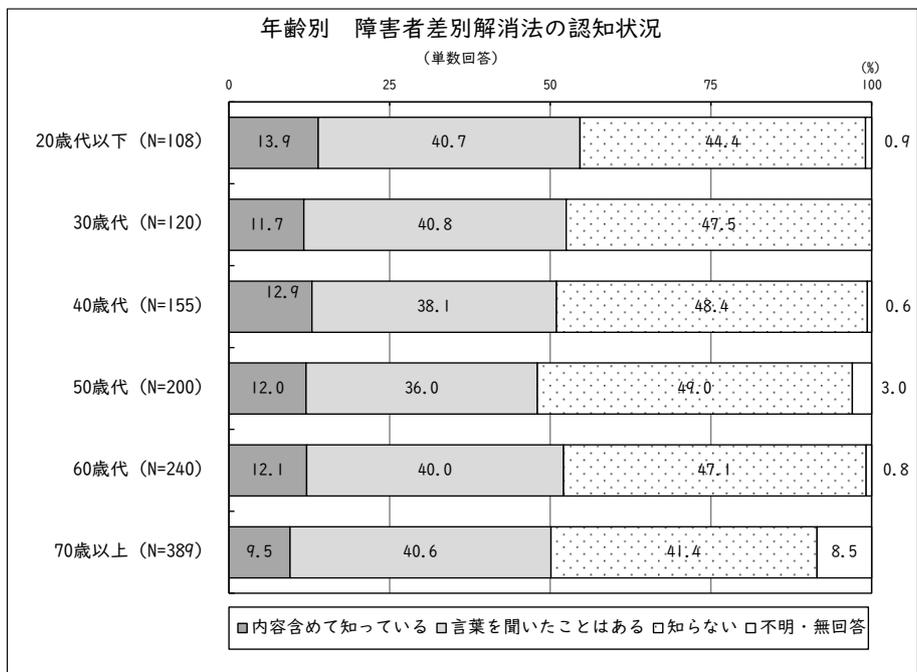
障がい福祉に係る「言葉」や「内容」の認知状況について、「内容含めて知っている」と「言葉を聞いたことはある」を合わせた『知っている』の割合をみると、最も多いのは「障害者差別解消法」で50.7%、以下、「ヘルプマーク」が43.3%、「合理的配慮」が34.9%、「障害の社会モデル」が31.4%と続いている。

「知らない」についてみると、「障害の社会モデル」が最も多く 63.5%、以下、「合理的配慮」が60.2%、「ヘルプマーク」が51.8%、「障害者差別解消法」が45.3%と続いている。

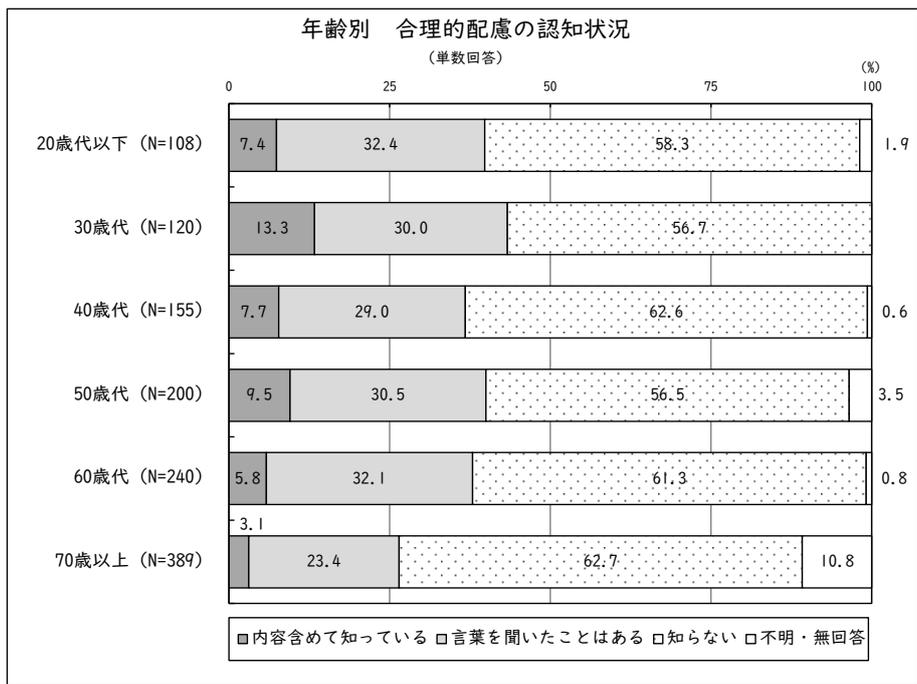


② 年齢別の障がい福祉に係る「言葉」や「内容」の認知状況

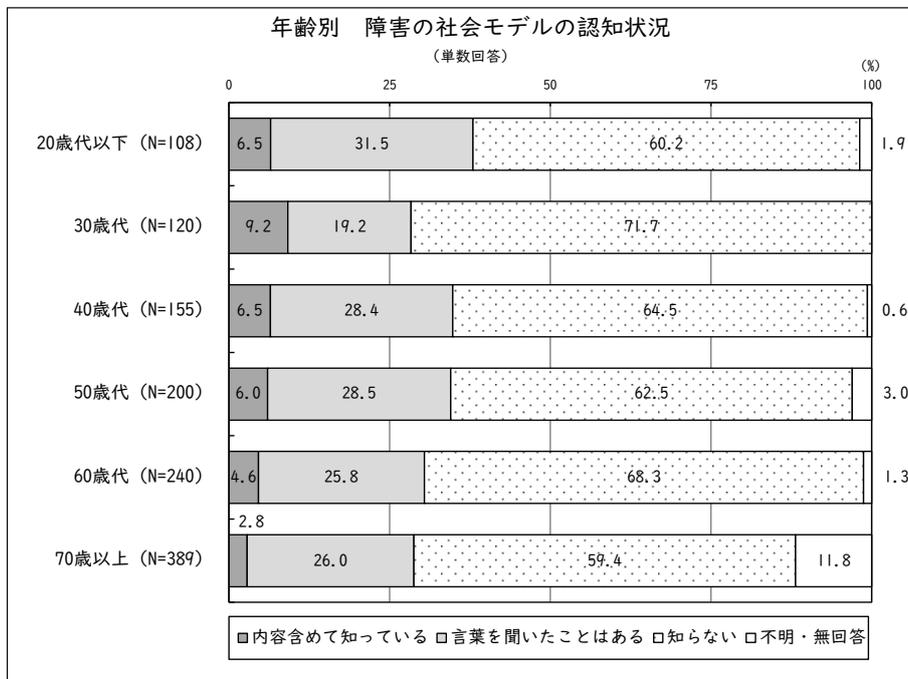
障害者差別解消法について年代別にみると、すべての年代において「知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 54.6%、以下、30 歳代で 52.5%、60 歳代で 52.1%と続いている。



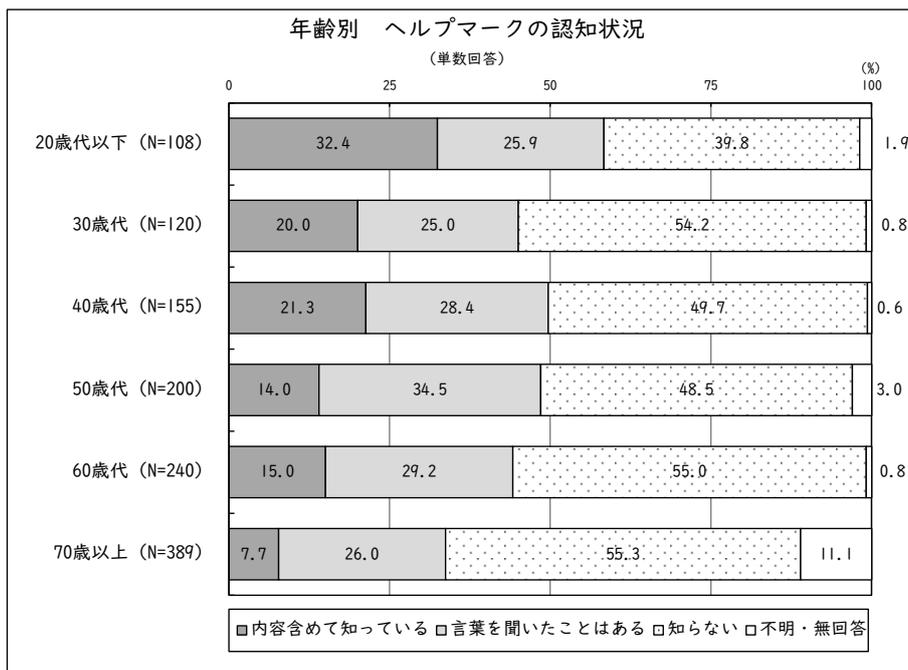
合理的配慮について年代別にみると、すべての年代において「知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 30 歳代で 43.3%、以下、50 歳代で 40.0%、20 歳代以下で 39.8%と続いている。



障害の社会モデルについて年代別にみると、すべての年代において「知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 38.0%、以下、40 歳代で 34.9%、50 歳代で 34.5%と続いている。



ヘルプマークについて年代別にみると、すべての年代において「知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは 20 歳代以下で 58.3%、以下、40 歳代で 49.7%、50 歳代で 48.5%と続いている。



(2) 共生社会の実現に向けて必要な取組

「問 21」 障がいのある人もない人も、誰もが暮らしやすい共生社会の実現に向けて、どのような取組が必要だとお考えですか。(〇は2つまで)

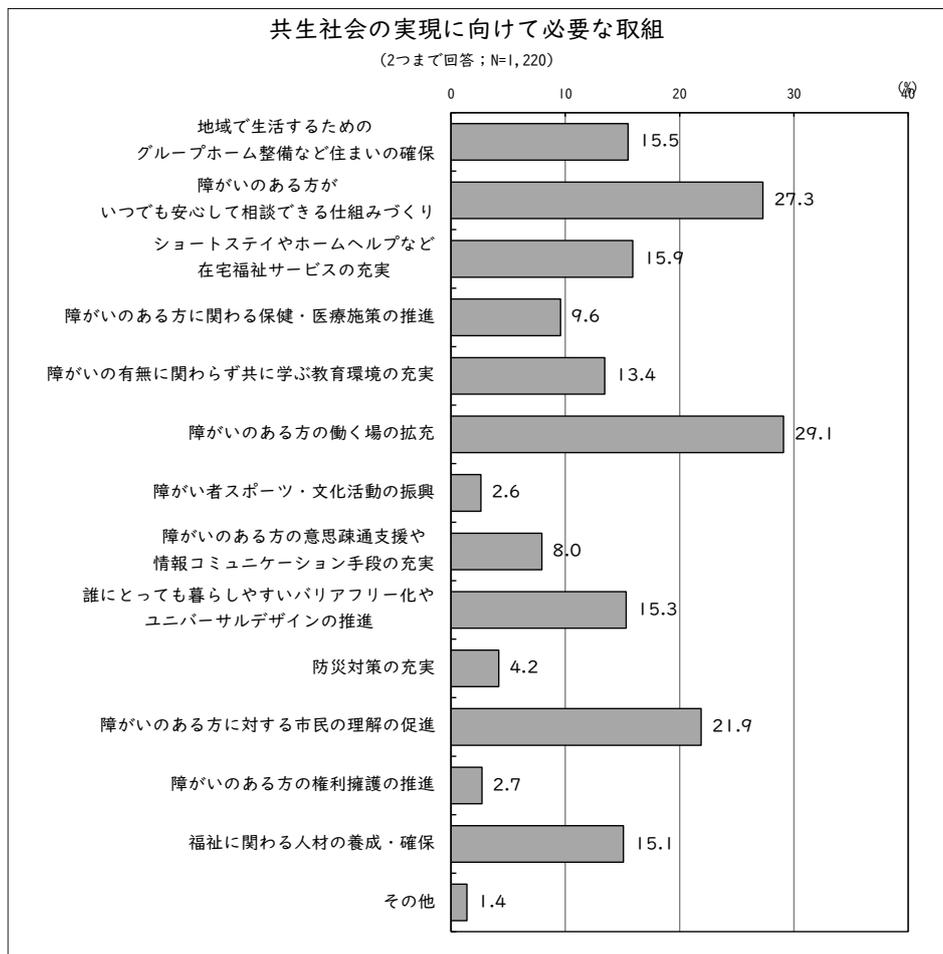
共生社会の実現に向けて必要な取組は、「障がいのある方の働く場の拡充」が29.1%で最も多くなっており、以下、「障がいのある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が27.3%、「障がいのある方に対する市民の理解の促進」が21.9%と続いている。

性別にみると、男性は「障がいのある方の働く場の拡充」が、女性は「障がいのある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も多くなっている。

年代別にみると、50歳代以下は「障がいのある方の働く場の拡充」が、60歳代以上は「障がいのある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が最も多くなっている。また、他の年代よりも20歳代、40歳代は「誰にとっても暮らしやすいバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進」が多く、30歳代は「障がいの有無に関わらず共に学ぶ教育環境の充実」が多くなっている。

居住地域別にみると、が甲賀地域、信楽地域は「障がいのある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が、その他の地域では「障がいのある方の働く場の拡充」が最も多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「障がいのある方の働く場の拡充」が最も多くなっている。3年未満は他の居住歴よりも「障がいのある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」が少なくなっている。



	地域で生活するための グループホーム整備など 住まいの確保	障がいのある方が いつでも安心して 相談できる仕組みづくり	ショートステイや ホームヘルプなど 在宅福祉サービスの充実	障がいのある方に 関わる 保健・医療施策の 推進	障がいの有無に関わらず 共に学ぶ教育環境の 充実	障がいのある方の 働く場の拡充	障がい者スポーツ ・文化活動の 振興	障がいのある方の 意思疎通支援や 情報コミュニケーション 手段の充実	誰にとっても暮らしやすい ユニバーサルデザイン の推進	防災対策の 充実	障がいのある方に対する 市民の理解の 促進	障がいのある方の 権利擁護の 推進	福祉に関わる人材の 養成・確保	その他
全体 (N=1,220)	15.5	27.3	15.9	9.6	13.4	29.1	2.6	8.0	15.3	4.2	21.9	2.7	15.1	1.4
男 (N=523)	15.9	28.7	11.5	11.1	13.2	34.6	3.4	7.5	10.7	4.0	20.3	2.7	15.3	1.1
女 (N=671)	15.5	26.5	19.4	8.3	13.7	25.2	2.1	8.5	19.1	4.5	23.4	2.8	14.8	1.6
20歳代以下 (N=108)	16.7	17.6	14.8	10.2	15.7	33.3	7.4	12.0	26.9	3.7	18.5	3.7	9.3	0.0
30歳代 (N=120)	18.3	15.0	20.0	8.3	22.5	33.3	3.3	8.3	17.5	4.2	23.3	0.8	18.3	0.8
40歳代 (N=155)	20.0	23.2	11.6	5.2	10.3	39.4	3.9	9.7	23.9	3.2	19.4	3.9	9.7	3.2
50歳代 (N=200)	14.0	24.5	14.0	9.5	9.5	32.0	2.5	8.5	18.0	3.5	25.0	3.0	19.0	1.0
60歳代 (N=2480)	14.6	31.7	15.8	11.7	16.7	26.3	2.1	7.9	12.5	3.8	25.0	2.9	16.7	0.8
70歳以上 (N=389)	13.9	34.7	17.7	10.5	11.3	23.1	1.0	5.9	8.7	5.4	20.1	2.3	15.2	1.8
水口地域 (N=489)	17.8	25.2	14.3	10.0	13.7	29.4	3.1	8.2	16.2	4.1	22.9	2.5	14.5	1.8
土山地域 (N=117)	11.1	23.9	17.1	13.7	12.8	27.4	0.9	9.4	16.2	5.1	20.5	3.4	20.5	0.9
甲賀地域 (N=168)	15.5	31.5	21.4	7.7	14.3	28.6	1.2	10.7	14.3	5.4	20.2	0.0	12.5	0.6
甲南地域 (N=287)	15.0	28.9	16.0	9.1	12.5	30.0	2.4	5.6	13.6	4.2	21.3	4.2	17.1	1.4
信楽地域 (N=151)	13.2	30.5	13.9	8.6	13.9	29.1	4.6	7.9	17.2	2.6	23.2	3.3	11.9	1.3
3年未満 (N=47)	17.0	10.6	12.8	10.6	19.1	31.9	10.6	8.5	25.5	0.0	17.0	0.0	21.3	2.1
3年～10年未満 (N=75)	13.3	22.7	21.3	14.7	20.0	30.7	4.0	4.0	21.3	5.3	18.7	1.3	12.0	2.7
10年以上 (N=1,076)	15.8	28.6	15.6	9.4	12.6	28.9	2.2	8.3	14.8	4.4	22.6	2.9	15.1	1.3

5 近所づきあいやボランティアについて

(1) 近所で最も親しくしている人との日頃のつきあい

「問 22」 あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃どの程度のつきあいをされていますか。
(○は1つだけ)

近所で最も親しくしている人との日頃のつきあいは、「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が 25.9%で最も多くなっており、以下、「立ち話をする程度のつきあい」が 25.5%、「挨拶をする程度のつきあい」が 24.1%と続いている。

性別にみると、男性は「立ち話をする程度のつきあい」が、女性は「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が最も多くなっている。

年代別にみると、40 歳代以下は「挨拶をする程度のつきあい」が、50 歳代～60 歳代は「立ち話をする程度のつきあい」が、70 歳以上は「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が最も多くなっている。また、20 歳代以下では「ほとんどつきあいはない」が多く、年代があがるほどつきあいの程度は親密になっている。

居住地域別にみると、水口地域、甲南地域は「挨拶をする程度のつきあい」が、他の地域は「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が最も多くなっている。また、甲賀地域では「挨拶をする程度のつきあい」が少なくなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、3 年未満は「立ち話をする程度のつきあい」が、3 年～10 年未満は「挨拶をする程度のつきあい」が、10 年以上は「簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい」が最も多くなっている。また、10 年未満では「ほとんどつきあいはない」が多くなっている。



(2) 日頃、生活の困りごとについて相談する相手

「問 23」 あなたが日頃、生活の困りごとについて相談する相手はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)

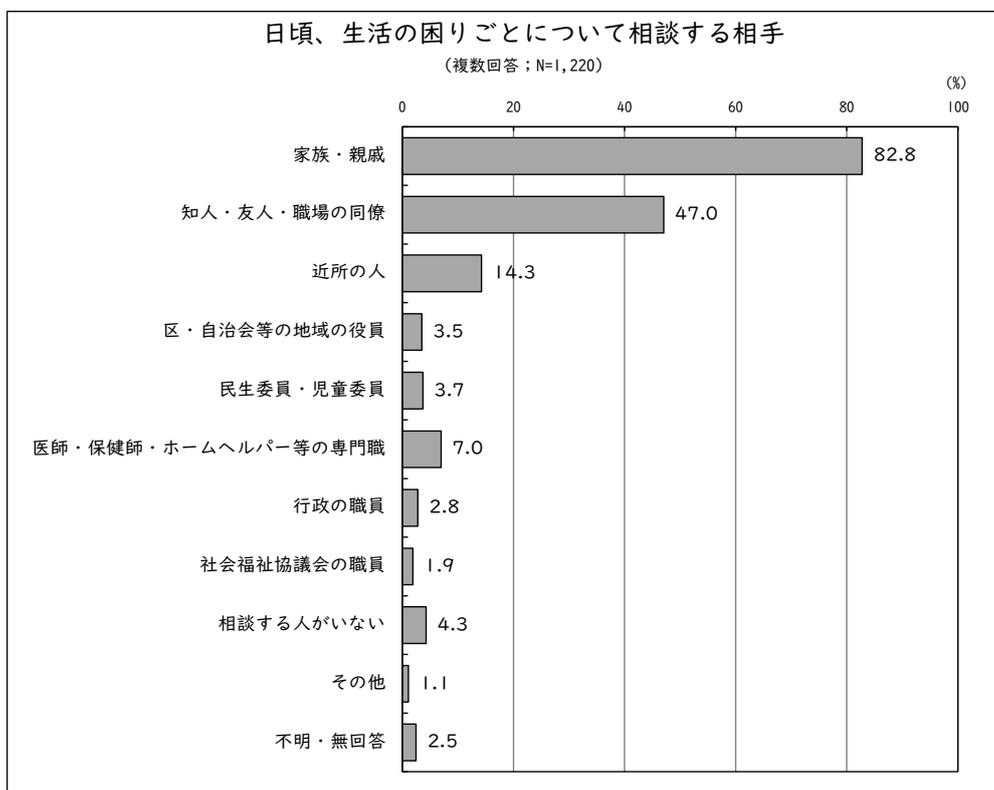
日頃、生活の困りごとについて相談する相手は、「家族・親戚」が 82.8%で最も多くなっており、以下、「知人・友人・職場の同僚」が 47.0%、「近所の人」が 14.3%と続いている。また、「相談する人がいない」が 4.3%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「家族・親戚」が最も多くなっている。また、女性は「知人・友人・職場の同僚」が男性よりも多くなっている。

年代別にみると、すべての年代において「家族・親戚」が最も多くなっている。また、他の年代よりも 50 歳以下では「知人・友人・職場の同僚」が多く、「近所の人」が少なくなっており、70 歳代以上では「知人・友人・職場の同僚」が少なく、「近所の人」が多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「家族・親戚」が最も多くなっている。また、他の地域よりも、信楽地域では「医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職」が多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「家族・親戚」が最も多くなっている。他の居住歴よりも、3年未満では「家族・親戚」が少なく、3年～10年未満では「知人・友人・職場の同僚」が多く、「医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職」が少なくなっている。



	家族・親戚	知人・友人・職場の同僚	近所の人	区・自治会等の地域の役員	民生委員・児童委員	医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職	行政の職員	社会福祉協議会の職員	相談する人がいない	その他	不明・無回答
全体 (N=1,220)	82.8	47.0	14.3	3.5	3.7	7.0	2.8	1.9	4.3	1.1	2.5
男 (N=523)	78.4	40.0	14.1	4.8	3.6	6.3	2.9	2.1	5.9	1.9	3.4
女 (N=671)	86.4	53.2	13.9	2.5	3.7	7.7	2.5	1.6	3.1	0.4	1.3
20歳以下 (N=108)	75.0	63.9	4.6	0.9	0.0	2.8	1.9	0.0	6.5	0.9	1.9
30歳代 (N=120)	89.2	61.7	8.3	0.8	0.0	1.7	0.8	0.8	2.5	0.8	1.7
40歳代 (N=155)	80.6	68.4	7.1	1.3	0.6	2.6	1.9	1.3	2.6	0.0	1.9
50歳代 (N=200)	82.5	60.5	10.5	3.0	1.0	5.5	3.5	0.5	7.0	1.5	1.0
60歳代 (N=240)	84.6	47.1	15.8	4.2	1.3	7.1	2.9	1.7	4.2	1.7	0.4
70歳以上 (N=389)	83.3	23.1	22.4	5.9	10.0	12.3	3.6	3.6	3.6	1.0	4.4
水口地域 (N=489)	81.6	47.4	13.5	2.9	3.1	5.1	3.3	2.2	5.7	1.4	1.0
土山地域 (N=117)	78.6	44.4	11.1	4.3	5.1	6.8	1.7	2.6	3.4	1.7	3.4
甲賀地域 (N=168)	83.3	44.0	15.5	4.8	6.5	8.3	3.0	1.8	3.0	0.6	3.0
甲南地域 (N=287)	86.1	49.8	15.3	3.8	3.5	6.3	1.7	1.0	3.5	0.7	2.4
信楽地域 (N=151)	84.8	47.0	15.9	3.3	2.0	13.2	4.0	2.0	3.3	0.7	4.0
3年未満 (N=47)	76.6	44.7	12.8	2.1	6.4	4.3	0.0	2.1	8.5	0.0	2.1
3年～10年未満 (N=75)	78.7	58.7	9.3	1.3	1.3	0.0	4.0	1.3	6.7	1.3	0.0
10年以上 (N=1,076)	83.6	46.5	14.8	3.8	3.8	7.6	2.7	2.0	4.0	1.1	2.3

(3) 福祉に関する情報の入手方法

「問 24」 あなたは、福祉に関する情報をどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

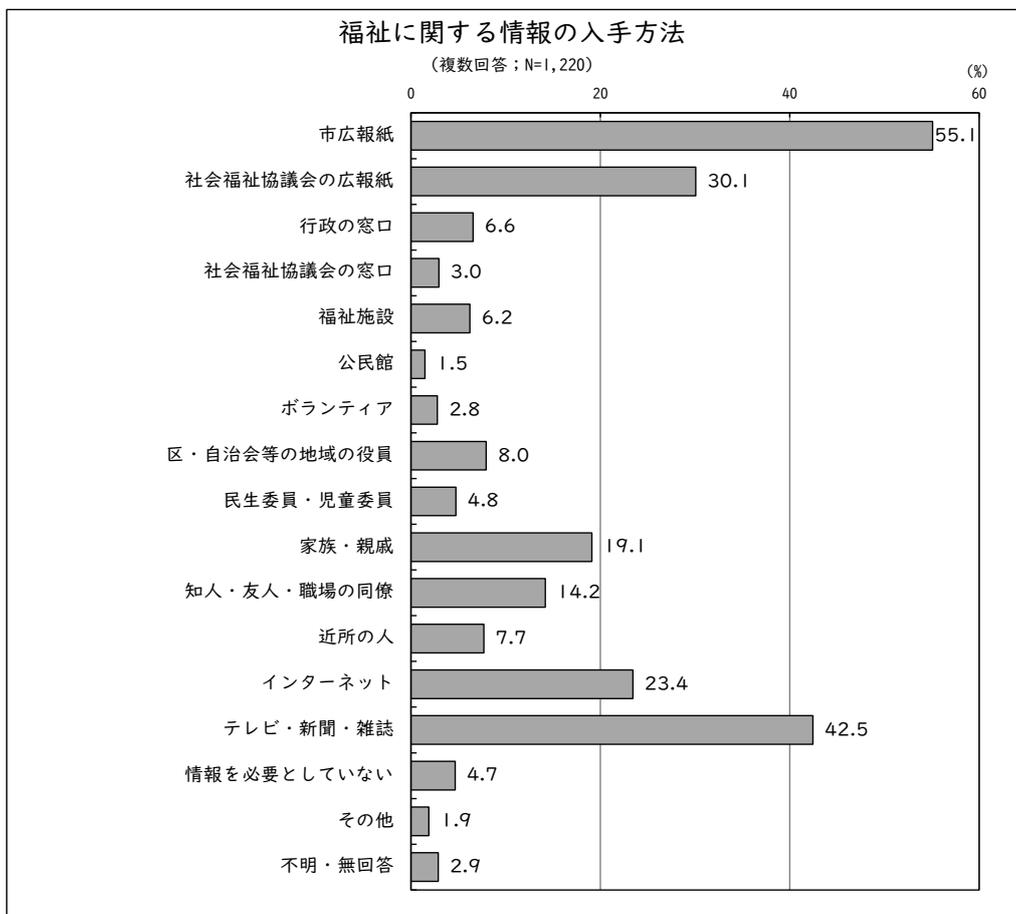
福祉に関する情報の入手方法は、「市広報紙」が 55.1%で最も多くなっており、以下、「テレビ・新聞・雑誌」が 42.5%、「社会福祉協議会の広報紙」が 30.1%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「テレビ・新聞・雑誌」が最も多くなっている。また、女性は男性よりも、「知人・友人・職場の同僚」が多く、「インターネット」が少なくなっている。

年代別にみると、20 歳代以下では「インターネット」が、他の年代は「市広報紙」が最も多くなっている。また、「テレビ・新聞・雑誌」はすべての年代で多いが、40 歳代以下では少なくなっている。年代があがるほど「市広報紙」「社会福祉協議会の広報紙」が多くなっている。他の年代よりも、30 歳代では「知人・友人・職場の同僚」が、70 歳以上では「近所の人」が多くなっている。

居住地域別にみると、すべての地域において「市広報紙」が最も多くなっている。他の地域よりも、土山地域では「民生委員・児童委員」が、信楽地域では「市広報紙」「社会福祉協議会の広報紙」「テレビ・新聞・雑誌」が多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、10 年未満では「インターネット」が、10 年以上では「市広報紙」が最も多くなっている。また、他の居住歴よりも、10 年未満では「市広報紙」「社会福祉協議会の広報紙」「近所の人」「テレビ・新聞・雑誌」が少なく、3 年未満では「情報を必要としていない」が多くなっている。



	市広報紙	社会福祉 協会の 広報紙	行政の 窓口	社会福祉 協会の 窓口	福祉施設	公民館	ボラン ティア	区・自治会等 の役員	・ 民生委員 ・ 児童委員	家族・親戚	・ 知人 ・ 友人 ・ 職場の同僚	近所の人	インターネット	・ 雑誌 ・ テレビ ・ 新聞	情報を 必要と してい ない	その他	・ 不明 ・ 無回答
全体 (N=1,220)	55.1	30.1	6.6	3.0	6.2	1.5	2.8	8.0	4.8	19.1	14.2	7.7	23.4	42.5	4.7	1.9	2.9
男 (N=523)	54.5	29.8	7.5	2.5	5.9	1.9	0.8	9.2	4.8	17.4	11.1	7.1	27.2	41.5	4.6	1.5	2.3
女 (N=671)	55.4	30.0	6.1	3.1	6.4	1.2	4.3	7.0	4.9	20.9	17.0	8.5	21.0	44.0	4.8	2.2	2.7
20歳以下 (N=108)	13.9	4.6	1.9	0.0	5.6	0.0	2.8	0.9	0.0	25.9	14.8	0.9	43.5	28.7	15.7	5.6	2.8
30歳代 (N=120)	41.7	10.8	4.2	0.0	5.0	0.8	0.0	0.8	0.8	24.2	21.7	3.3	41.7	31.7	5.8	1.7	2.5
40歳代 (N=155)	49.0	12.9	5.2	3.2	3.2	1.3	0.0	1.9	1.9	19.4	14.8	2.6	32.3	37.4	10.3	0.6	1.3
50歳代 (N=200)	55.0	26.0	8.5	2.0	7.5	1.0	1.5	6.5	1.5	13.5	16.5	4.0	34.0	43.5	4.5	4.5	1.5
60歳代 (N=240)	67.1	43.8	7.5	4.2	5.0	1.3	5.0	14.6	3.8	14.2	13.3	7.9	20.4	51.7	1.7	1.3	0.8
70歳以上 (N=389)	66.1	43.7	7.7	4.1	8.0	2.6	4.1	11.1	10.5	21.9	11.1	14.9	5.4	45.8	1.0	0.5	4.6
水口地域 (N=489)	54.6	26.4	7.6	3.3	7.0	2.0	2.0	5.7	4.1	20.4	14.9	6.5	26.8	37.8	6.1	2.2	2.9
土山地域 (N=117)	48.7	33.3	2.6	3.4	2.6	3.4	3.4	12.0	10.3	20.5	12.0	9.4	21.4	45.3	6.0	1.7	2.6
甲賀地域 (N=168)	57.7	33.9	5.4	1.8	7.7	0.6	3.0	11.3	4.8	22.0	14.9	9.5	20.2	42.3	2.4	0.6	3.6
甲南地域 (N=287)	54.7	29.6	5.2	1.4	4.5	1.0	3.8	9.4	4.5	16.7	15.3	8.7	23.0	46.7	4.5	2.1	1.4
信楽地域 (N=151)	60.9	36.4	10.6	6.0	8.6	0.0	2.6	5.3	3.3	15.9	11.3	6.6	19.9	49.0	1.3	2.0	2.0
3年未満 (N=47)	31.9	8.5	8.5	0.0	4.3	2.1	0.0	8.5	4.3	23.4	14.9	0.0	40.4	23.4	14.9	0.0	8.5
3年～10年未満 (N=75)	32.0	10.7	5.3	0.0	4.0	1.3	0.0	2.7	1.3	12.0	17.3	2.7	40.0	36.0	9.3	1.3	2.7
10年以上 (N=1,076)	58.0	32.6	6.7	3.3	6.6	1.5	3.2	8.3	5.0	19.3	14.1	8.4	21.8	44.4	3.9	2.0	2.1

(4) ボランティア活動について

「問 25」 あなたは、現在、ボランティア活動に参加されていますか。(○は1つだけ)

ボランティア活動への参加状況は、「参加している」が 9.4%、「参加していない」が 88.1%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「参加していない」の方が多くなっている。また、「参加している」の割合をみると、男性が 10.1%、女性が 8.8%となっている。

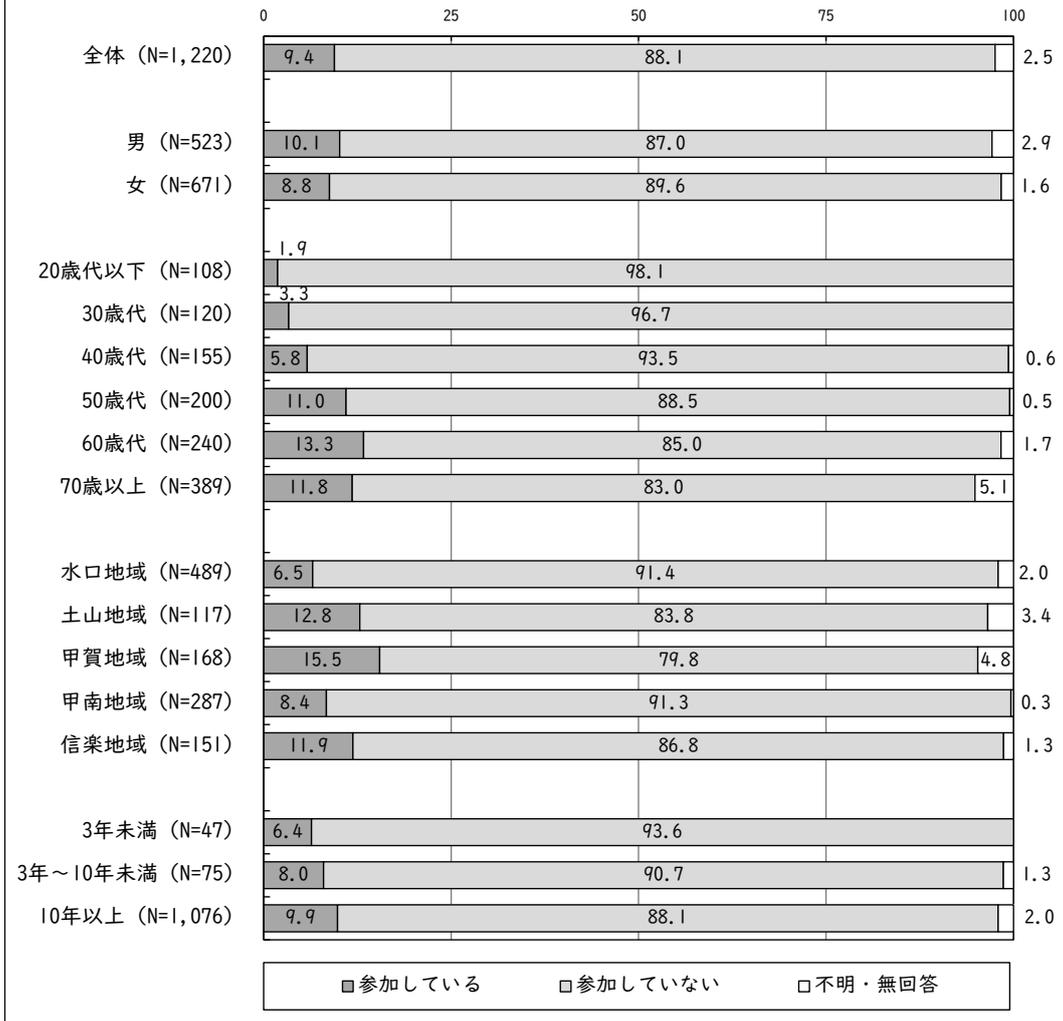
年代別にみると、すべての年代において「参加していない」の方が多くなっている。また、「参加している」の割合をみると、最も多いのは 60 歳代で 13.3%、以下、70 歳以上が 11.8%、50 歳代が 11.0%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「参加していない」の方が多くなっている。また、「参加している」の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 15.5%、以下、土山地域が 12.8%、信楽地域が 11.9%、甲南地域が 8.4%、水口地域が 6.5%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「参加していない」の方が多くなっている。また、「参加している」の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 9.9%、以下、3 年～10 年未満が 8.0%、3 年未満が 6.4%と続いている。

ボランティア活動への参加状況

(単数回答)



《問 25-1》 問25で「参加している」と回答された方におたずねします。
 それはどのような活動ですか。活動の内容をお書きください。(自由記述)

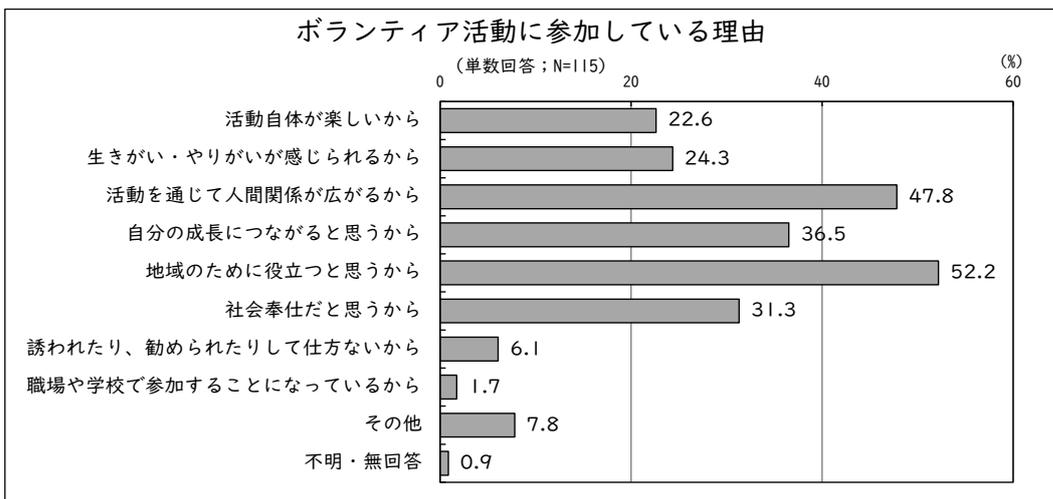
ボランティア活動について 102 人、延べ125件の回答があり、それらを総合計画の 20 の分野ごとに整理した。なお、総合計画で記載している分野の番号順にまとめており、回答のなかった分野は記載していない。

① 市民自治	15 件
○ 区・自治会	8 件
○ 自治振興会	3 件
○ その他	4 件
② 市民共生	4 件
○ 人権活動	2 件
○ 多文化共生（外国人の支援）	2 件
⑤ 環境・景観	35 件
○ 清掃活動、ごみ拾い、草刈	21 件
○ 環境保全活動	14 件
⑥ 生涯学習・文化・スポーツ	4 件
○ 生涯学習	2 件
○ 音楽・文化・スポーツ	2 件
⑦ 地域福祉	29 件
○ 高齢者福祉（いきいきサロン、高齢者の家事サポートなど）	16 件
○ 障がい福祉	9 件
○ 更生保護	3 件
○ その他	1 件
⑧ 保健医療	11 件
○ 日赤奉仕団	5 件
○ 健康増進	3 件
○ その他	3 件

⑨	安全・防災	10 件
	○ 子どもたちの見守り活動・スクールガード	6 件
	○ 災害支援・防災活動	4 件
⑩	農林畜水産	1 件
	○ 農家支援	1 件
⑪	商工観光	1 件
	○ 観光ボランティア	1 件
⑫	子ども・子育て	8 件
	○ 音楽・読み聞かせサークル	2 件
	○ 子育てサークル	1 件
	○ 子ども食堂	1 件
	○ 児童養護施設への支援	1 件
	○ その他	3 件
⑬	学校教育・青少年	7 件
	○ サマースクールのボランティア	3 件
	○ 学内イベント	2 件
	○ その他	2 件

「問 25-2」 問25で「参加している」と回答された方におたずねします。
 あなたがボランティア活動に参加されているのはどのような理由からですか。
 (あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動に参加している理由は、「地域のために役立つと思うから」が 52.2%で最も多くなっており、以下、「活動を通じて人間関係が広がるから」が 47.8%、「自分の成長につながると思うから」が 36.5%と続いている。



(5) ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動

「問 26」 あなたは、今後、ボランティア活動をさらに発展させるために、どのような基盤(きばん)整備(せいび)や活動が必要だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動は、「相談窓口の充実」が 29.1%で最も多くなっており、以下、「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が 28.9%、「活動拠点の確保」が 28.2%と続いている。

性別にみると、男性は「相談窓口の充実」が、女性は「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が最も多くなっている。

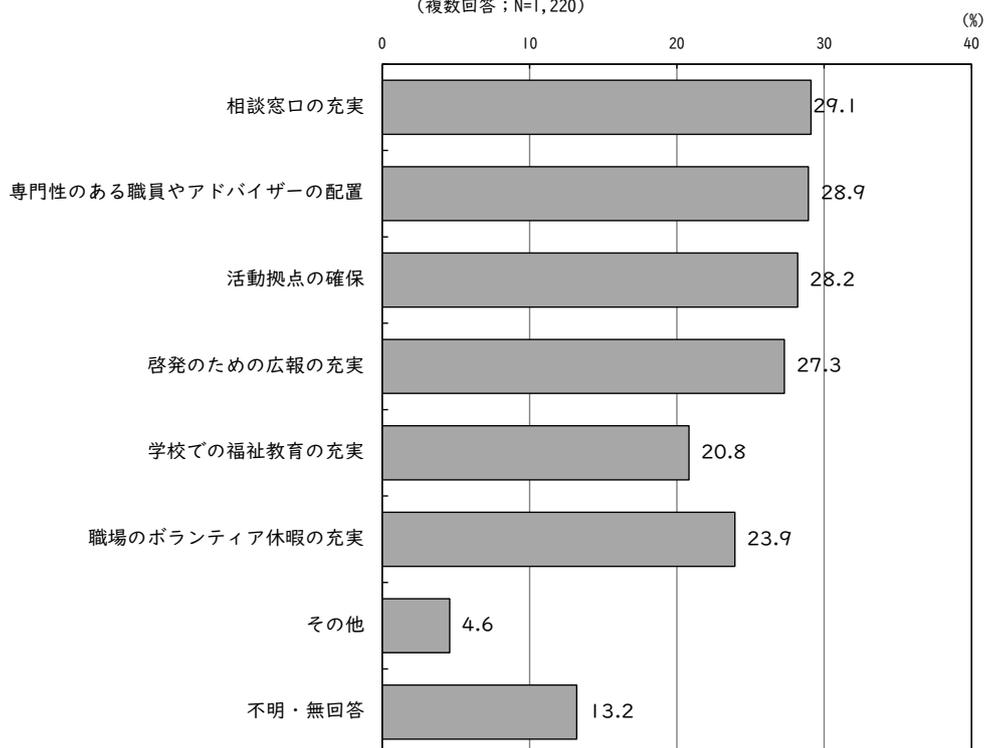
年代別にみると、40 歳代以下では「職場のボランティア休暇の充実」が、50 歳代では「相談窓口の充実」「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が、60 歳代以上では「相談窓口の充実」が最も多くなっている。他の年代よりも、20 歳代以下、30 歳代、50 歳代では「学校での福祉教育の充実」が多くなっている。

居住地域別にみると、水口地域、甲賀地域では「活動拠点の確保」が、土山地域、甲南地域では「相談窓口の充実」が、信楽地域では「相談窓口の充実」「専門性のある職員やアドバイザーの配置」が最も多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、10 年未満では「職場のボランティア休暇の充実」が、10 年以上では「相談窓口の充実」が最も多くなっている。

ボランティア活動発展のために必要な基盤整備や活動

(複数回答；N=1,220)



	相談窓口の充実	専門性のある職員やアドバイザーの配置	活動拠点の確保	啓発のための広報の充実	学校での福祉教育の充実	職場のボランティア休暇の充実	その他	不明・無回答
全体 (N=1,220)	29.1	28.9	28.2	27.3	20.8	23.9	4.6	13.2
男 (N=523)	30.4	28.5	28.7	28.5	17.6	25.4	5.2	10.5
女 (N=671)	28.0	29.4	28.2	26.4	23.7	23.2	4.3	14.3
20歳以下 (N=108)	19.4	27.8	29.6	26.9	27.8	33.3	0.9	6.5
30歳代 (N=120)	25.0	29.2	26.7	23.3	27.5	37.5	5.8	5.8
40歳代 (N=155)	21.9	27.7	29.7	25.2	20.0	41.9	6.5	3.9
50歳代 (N=200)	35.0	35.0	32.0	28.5	28.5	32.0	3.5	4.5
60歳代 (N=240)	34.6	32.5	32.5	30.8	21.7	25.0	3.8	7.5
70歳以上 (N=389)	30.1	24.9	23.4	26.7	12.9	5.4	5.7	28.0
水口地域 (N=489)	27.4	28.4	29.7	29.2	23.1	26.2	3.1	11.7
土山地域 (N=117)	32.5	29.1	26.5	22.2	13.7	20.5	6.0	14.5
甲賀地域 (N=168)	24.4	23.8	28.6	26.2	17.3	20.8	3.6	14.9
甲南地域 (N=287)	31.4	29.6	27.5	27.2	23.3	26.5	5.9	12.5
信楽地域 (N=151)	34.4	36.4	26.5	26.5	19.2	19.2	7.3	13.2
3年未満 (N=47)	17.0	25.5	36.2	14.9	17.0	38.3	2.1	17.0
3年～10年未満 (N=75)	28.0	30.7	26.7	20.0	24.0	41.3	6.7	2.7
10年以上 (N=1,076)	30.0	29.4	28.3	28.4	20.8	22.3	4.6	12.9

6 成年後見制度について

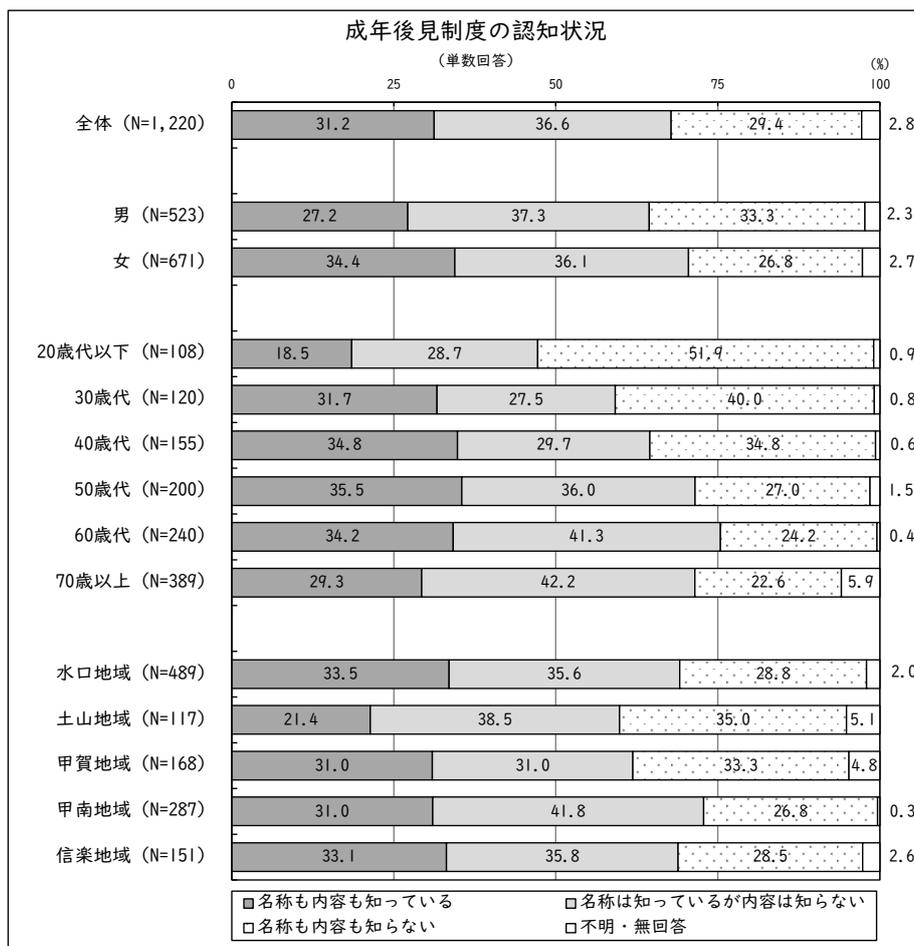
《問 27》 あなたは、成年後見制度をご存じですか。(○は1つだけ)

成年後見制度の認知状況は、「名称は知っているが内容は知らない」が36.6%で最も多くなっており、「名称も内容も知っている」と「名称は知っているが内容は知らない」を合わせた『知っている』は67.8%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「名称は知っているが内容は知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、男性が64.5%、女性が70.5%となっており、女性の方が多くなっている。

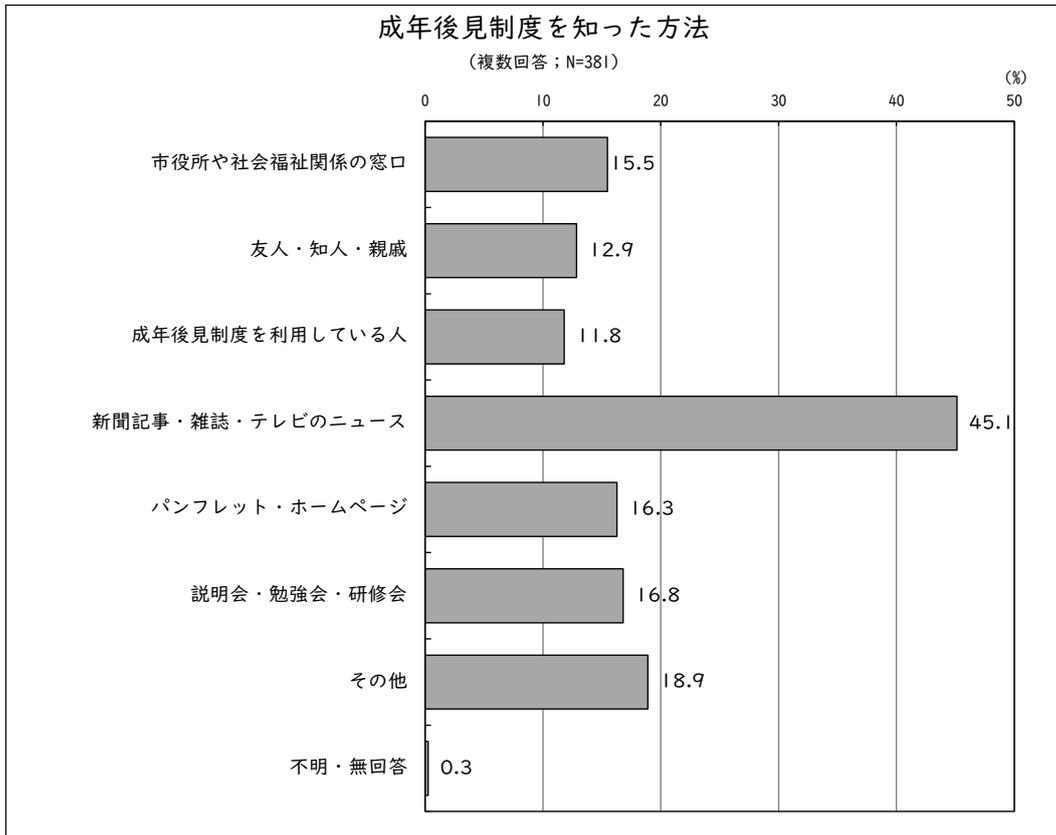
年代別にみると、30歳代以下では「名称も内容も知らない」が、40歳代では「名称も内容も知っている」が、50歳代以上では「名称は知っているが内容は知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは60歳代で75.5%、以下、50歳代と70歳以上が71.5%と続いている。

居住地域別にみると、すべての地域において「名称は知っているが内容は知らない」が最も多くなっている。また、『知っている』の割合をみると、最も多いのは甲南地域で72.8%、以下、水口地域が69.1%、信楽地域が68.9%、甲賀地域が62.0%、土山地域が59.9%と続いている。



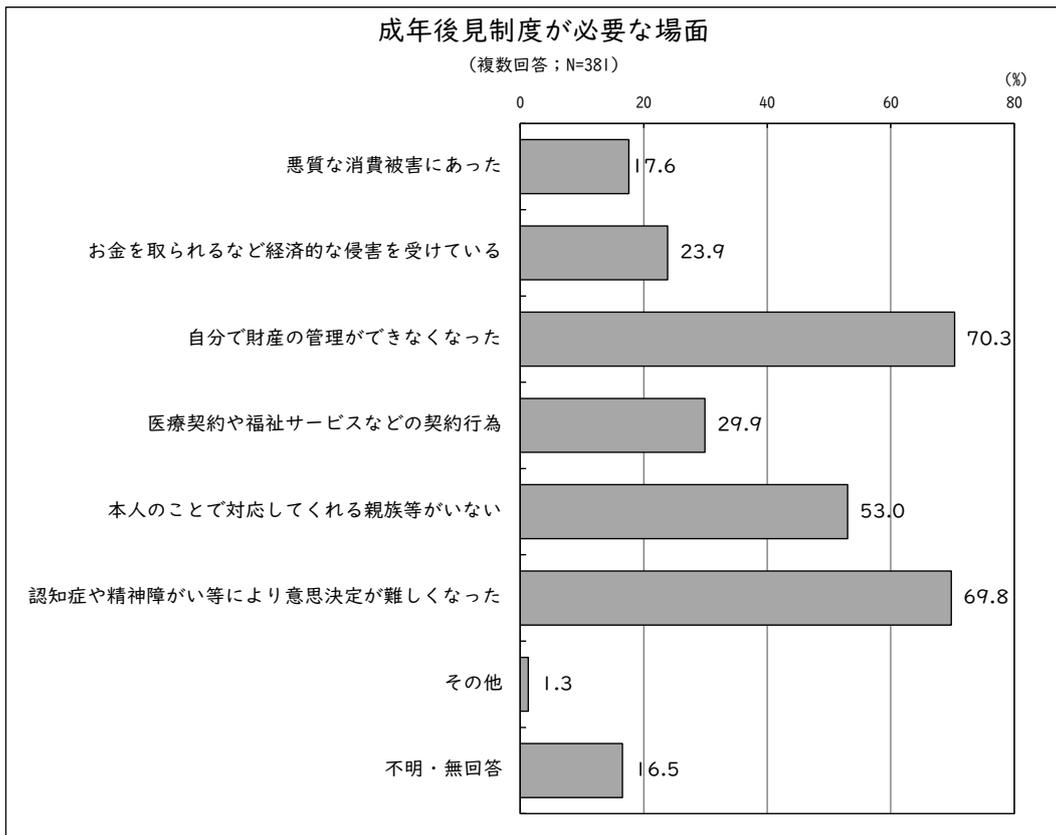
「問 27-1」 問27で「名称も内容も知っている」と回答された方におたずねします。
あなたは、成年後見制度を何でお知りになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

成年後見制度を知った方法は、「新聞記事・雑誌・テレビのニュース」が 45.1%で最も多くなっており、以下、「説明会・勉強会・研修会」が 16.8%、パンフレット・ホームページが 16.3%と続いている。



<<問 27-2>> 問27で「名称も内容も知っている」と回答された方におたずねします。
 あなたは、どのような場面に成年後見制度が必要になると思われますか。
 (あてはまるものすべてに○)

成年後見制度が必要な場面は、「自分で財産の管理ができなくなった」が70.3%で最も多くなっており、以下、「認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった」が69.8%、「本人のことで対応してくれる親族等がない」が53.0%と続いている。



7 再犯防止について

「問 28」 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みである、「社会を明るくする運動」または「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。(○は1つだけ)

「社会を明るくする運動」または「再犯防止啓発月間」の認知状況は、「両方とも聞いたことがない」が 44.0%で最も多くなっており、「両方とも聞いたことがある」と「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある」と「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある」を合わせた『聞いたことがある』の割合は 52.5%となっている。

性別にみると、男性、女性ともに「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている。また、『聞いたことがある』の割合をみると、男性が 53.0%、女性が 52.7%となっている。

年代別にみると、すべての年代において「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている。また、『聞いたことがある』の割合をみると、最も多いのは 70 歳以上で 63.8%、以下、60 歳代が 60.4%、50 歳代が 50.0%と続いている。

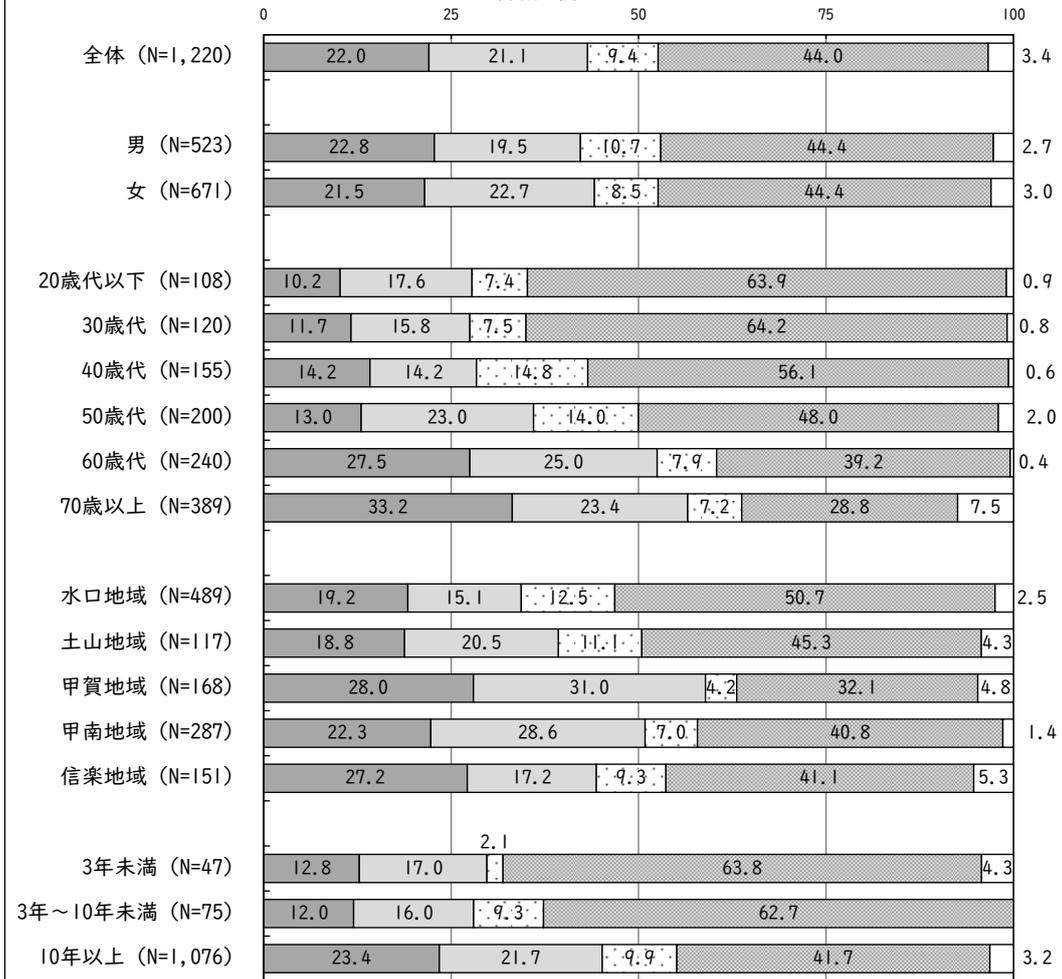
居住地域別にみると、すべての地域において「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている。また、『聞いたことがある』の割合をみると、最も多いのは甲賀地域で 63.2%、以下、甲南地域が 57.9%、信楽地域が 53.7%、土山地域が 50.4%、水口地域が 46.8%と続いている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「両方とも聞いたことがない」が最も多くなっている。また、『聞いたことがある』の割合をみると、最も多いのは 10 年以上で 55.0%、以下、3 年～10 年未満が 37.3%、3 年未満が 31.9%と続いている。

「社会を明るくする運動」または「再犯防止啓発月間」の認知状況

(単数回答)

(%)



- 両方とも聞いたことがある
- 「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある
- 「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある
- 両方とも聞いたことがない
- 不明・無回答

「問 28-1」 問 28で「両方とも聞いたことがある」「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある」「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある」のいずれかに回答された方におたずねします。あなたは、再犯防止の取組みを何でお知りになりましたか。
(あてはまるものすべてに○)

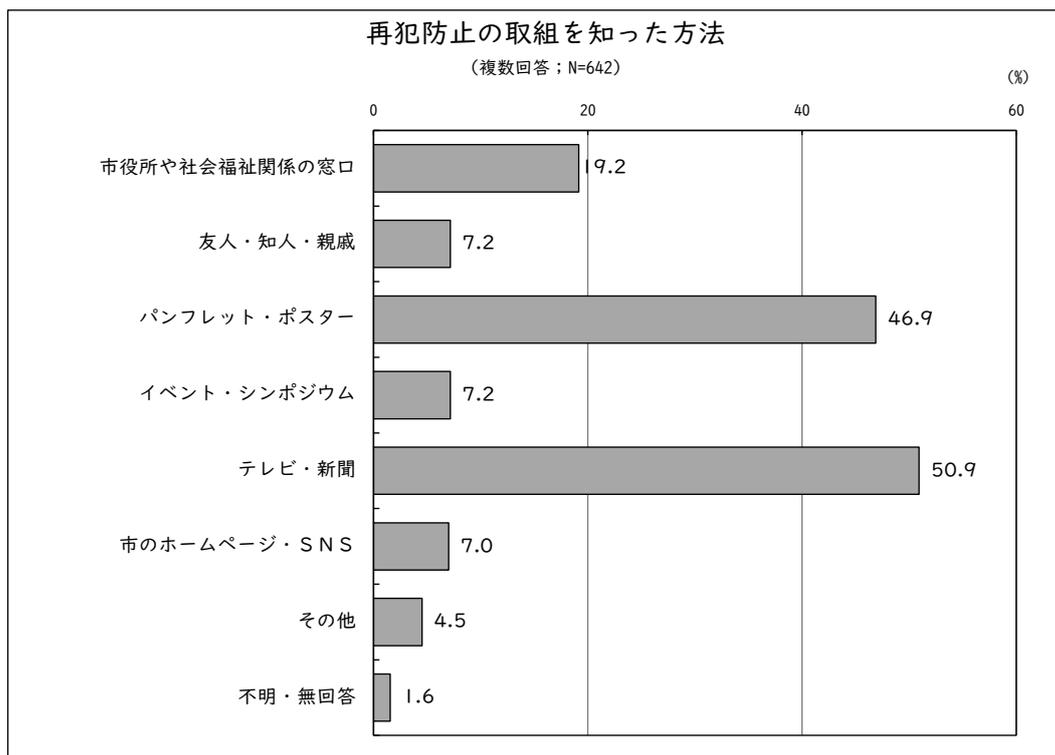
再犯防止の取組みを知った方法は、「テレビ・新聞」が 50.9%で最も多くなっており、以下、「パンフレット・ポスター」が 46.9%、「市役所や社会福祉関係の窓口」が 19.2%と続いている。

性別にみると、男性は「テレビ・新聞」が、女性は「パンフレット・ポスター」が最も多くなっている。

年代別にみると、40 歳代、70 歳以上では「テレビ・新聞」が、他の年代では「パンフレット・ポスター」が最も多くなっている。他の年代よりも、30 歳代以下では「市役所や社会福祉関係の窓口」「テレビ・新聞」が少なく、「市のホームページ・SNS」が多くなっている。

居住地域別にみると、甲南地域では「パンフレット・ポスター」が、他の地域では「テレビ・新聞」が最も多くなっている。信楽地域では「市役所や社会福祉関係の窓口」が他の地域よりも少なくなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、3 年未満では「パンフレット・ポスター」が、3 年以上では「テレビ・新聞」が最も多くなっている。他の居住歴よりも、10 年未満では「市役所や社会福祉関係の窓口」「パンフレット・ポスター」が少なく、3 年～10 年未満では「市のホームページ・SNS」が多くなっている。



	社会福祉関係の 窓口	市役所や 関係の	友人・知人 ・親戚	パンフレット ・ポスター	・シンポジウム イベント	テレビ・新聞	市の ホームページ ・SNS	その他	不明・無回答
全体 (N=642)	19.2	7.2	46.9	7.2	50.9	7.0	4.5	1.6	
男 (N=277)	20.2	6.1	42.2	5.1	56.7	7.9	2.9	2.5	
女 (N=353)	18.1	7.9	51.3	9.1	46.5	6.5	5.7	0.8	
20歳代以下 (N=20)	2.6	10.5	42.1	10.5	39.5	13.2	10.5	5.3	
30歳代 (N=38)	14.3	0.0	50.0	9.5	33.3	16.7	4.8	0.0	
40歳代 (N=54)	19.4	4.5	41.8	3.0	46.3	10.4	4.5	1.5	
50歳代 (N=71)	19.0	4.0	53.0	6.0	40.0	9.0	6.0	2.0	
60歳代 (N=82)	20.0	2.8	56.6	8.3	55.2	6.9	1.4	0.7	
70歳以上 (N=114)	22.2	12.5	40.3	7.3	58.5	2.8	4.8	1.6	
水口地域 (N=229)	22.3	9.2	49.3	6.1	52.4	7.4	1.7	2.6	
土山地域 (N=59)	18.6	3.4	49.2	11.9	52.5	3.4	5.1	3.4	
甲賀地域 (N=106)	23.6	7.5	42.5	5.7	51.9	5.7	2.8	0.9	
甲南地域 (N=166)	15.1	5.4	46.4	6.6	45.2	7.2	6.6	0.0	
信楽地域 (N=81)	13.6	7.4	44.4	9.9	55.6	9.9	9.9	1.2	
3年未満 (N=15)	6.7	13.3	40.0	6.7	33.3	0.0	6.7	6.7	
3年～10年未満 (N=28)	10.7	7.1	35.7	7.1	50.0	21.4	3.6	0.0	
10年以上 (N=593)	19.7	7.1	47.9	7.1	51.3	6.6	4.6	1.5	

8 地域の課題について

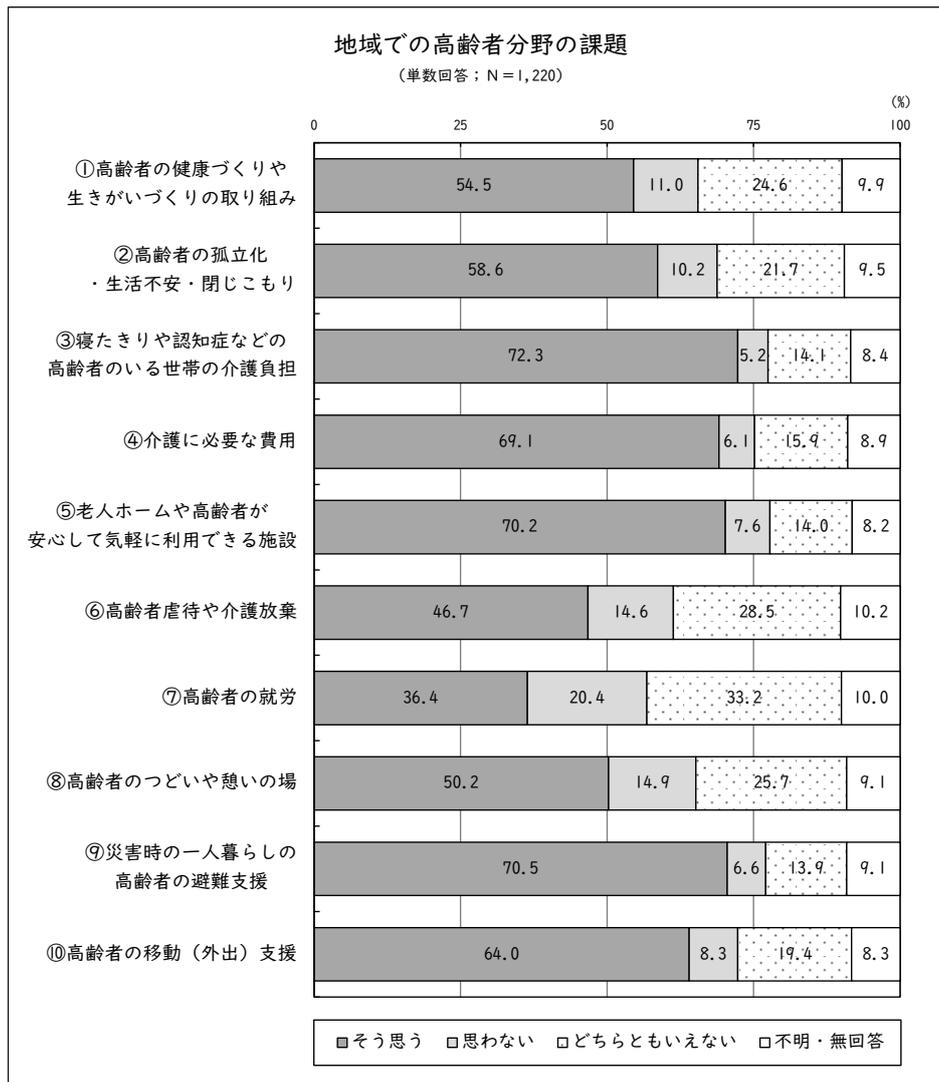
(1) 住んでいる地域で、日頃から課題に感じていること

《問 29》 あなたのお住まいの地域で、日頃から課題に感じられることはどのようなことですか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

① 地域での高齢者分野の課題

地域での高齢者分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担」で 72.3%、以下、「災害時の一人暮らしの高齢者の避難支援」が 70.5%、「老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設」が 70.2%と続いている。

地域別に「そう思う」の割合をみると、土山地域と信楽地域では「災害時の一人暮らしの高齢者の避難支援」が、他の地域では「寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担」が最も多くなっている。また、甲賀地域では「高齢者の就労」が少なく、信楽地域では「災害時の一人暮らしの高齢者の避難支援」が多くなっている。土山地域では「高齢者の就労」「高齢者のつどいや憩いの場」を除くすべての項目が少なくなっている。



「そう思う」の割合	① 高齢者の健康づくりや 生きがいがづくりの取り組み	② 高齢者の孤立化 ・生活不安・閉じこもり	③ 寝たきりや認知症などの 高齢者のいる世帯の 介護負担	④ 介護に必要な費用	⑤ 老人ホームや 高齢者が安心して 気軽に利用できる施設	⑥ 高齢者虐待や介護放棄	⑦ 高齢者の就労	⑧ 高齢者のつどいや 憩いの場	⑨ 災害時の一人暮らしの 高齢者の避難支援	⑩ 高齢者の 移動（外出）支援
水口地域 (N=489)	53.8	59.3	73.6	70.3	72.8	48.3	38.7	47.2	69.7	62.6
土山地域 (N=117)	47.9	48.7	60.7	60.7	62.4	41.0	35.0	48.7	65.0	58.1
甲賀地域 (N=168)	54.2	63.1	76.8	70.8	69.6	43.5	30.4	50.6	74.4	68.5
甲南地域 (N=287)	58.5	58.2	73.5	71.1	71.1	47.7	38.3	54.0	70.0	65.5
信楽地域 (N=151)	57.6	62.9	72.2	68.2	68.2	49.7	33.8	55.0	76.8	68.2

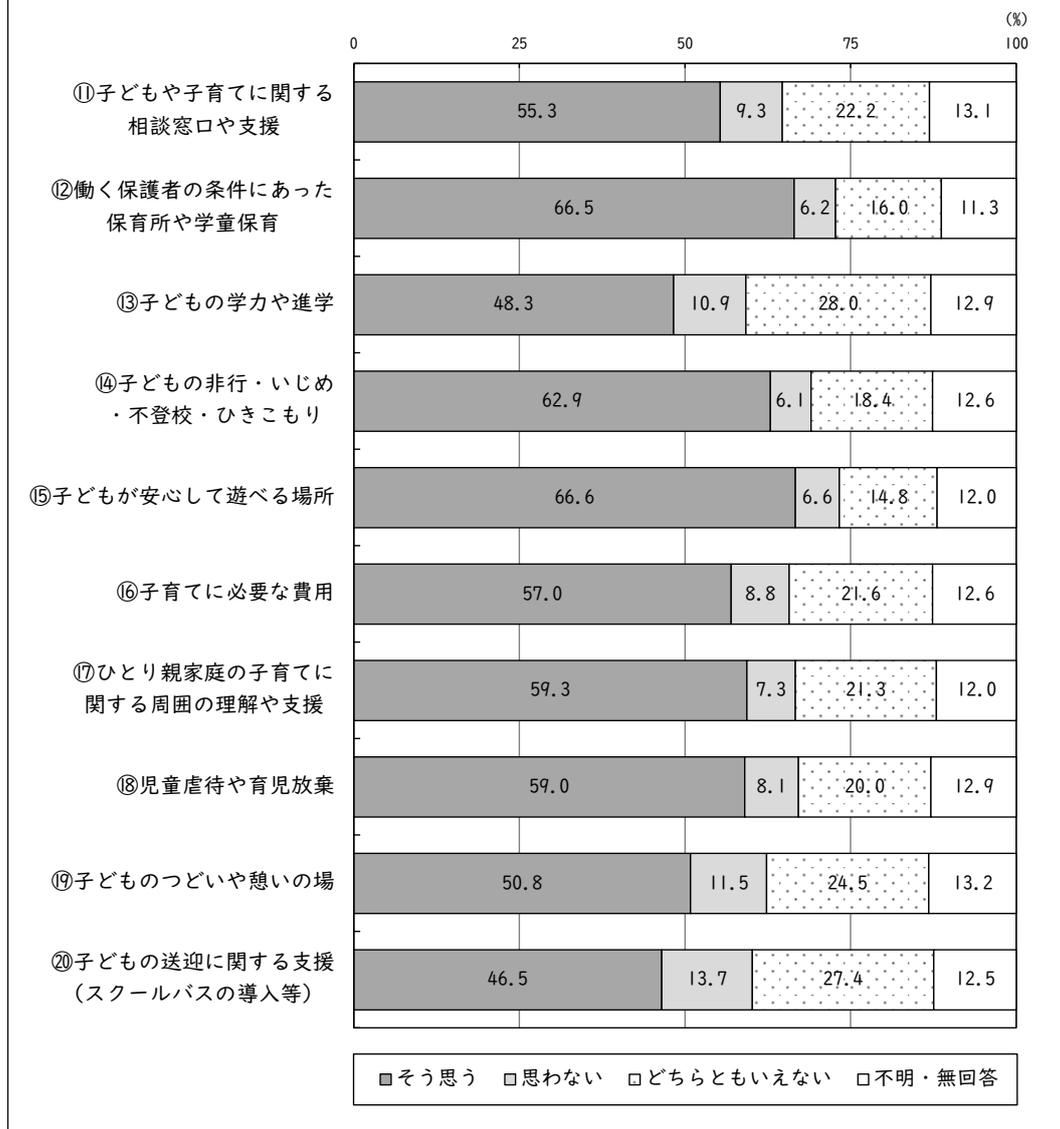
② 地域での子ども・子育て分野の課題

地域での子ども・子育て分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「子どもが安心して遊べる場所」で66.6%、以下、「働く保護者の条件にあった保育所や学童保育」が66.5%、「子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり」が62.9%と続いている。

地域別に「そう思う」の割合をみると、水口地域、信楽地域は「子どもが安心して遊べる場所」が、土山地域、甲賀地域は「働く保護者の条件にあった保育所や学童保育」が、甲南地域は「子どもが安心して遊べる場所」「働く保護者の条件にあった保育所や学童保育」が最も多くなっている。また、甲南地域では「子育てに必要な費用」が多く、信楽地域は「子どもの送迎に関する支援(スクールバスの導入等)」が多くなっている。土山地域では「子どもや子育てに関する相談窓口や支援」「子どもの学力や進学」「子どもの送迎に関する支援(スクールバスの導入等)」を除くすべての項目が少なくなっている。

地域での子ども・子育て分野の課題

(単数回答; N=1,220)

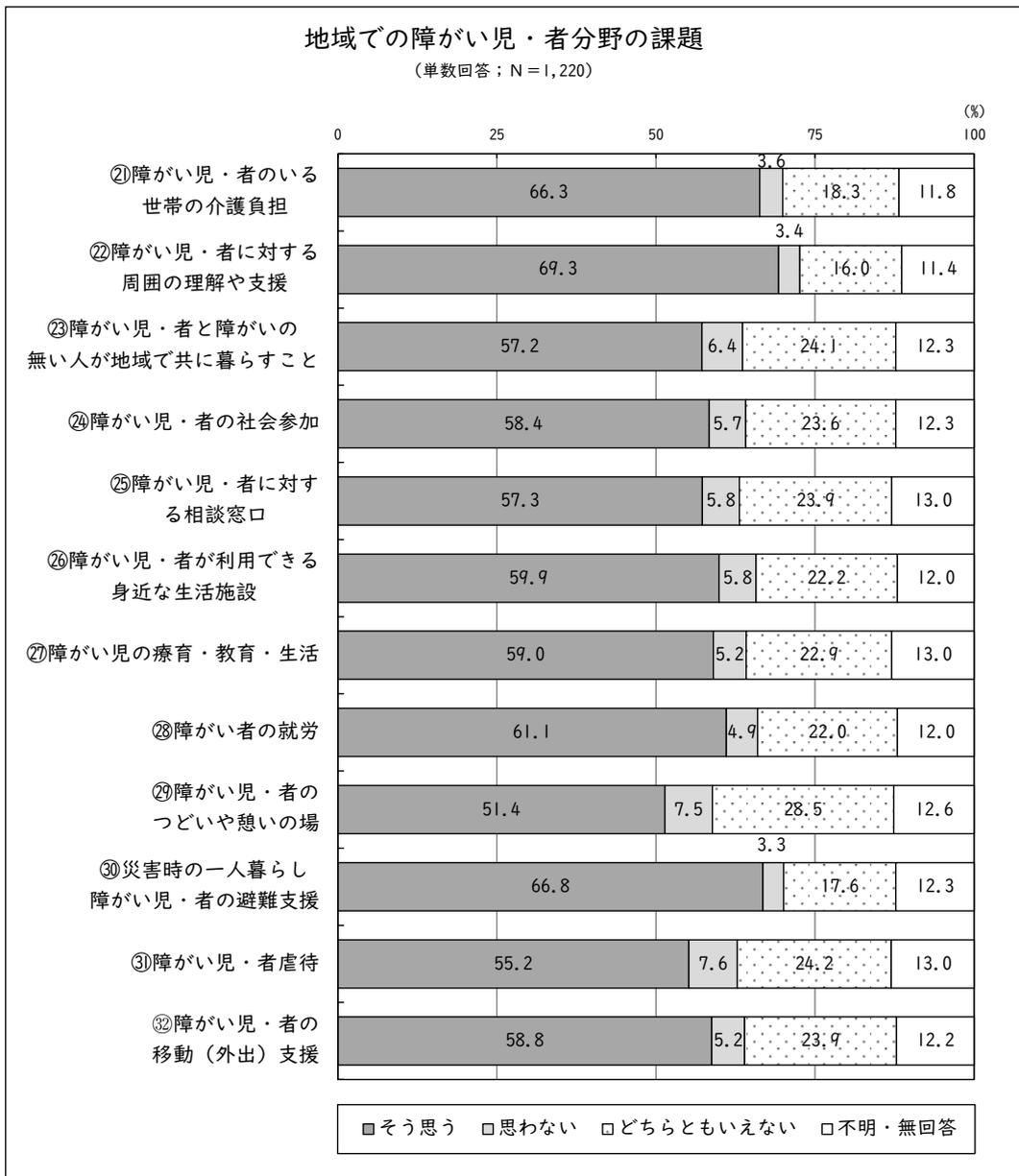


「そう思う」の割合	①子どもや子育てに関する相談窓口や支援	②働く保護者の条件にあった保育所や学童保育	③子どもの学力や進学	④子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり	⑤子どもが安心して遊べる場所	⑥子育てに必要な費用	⑦ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	⑧児童虐待や育児放棄	⑨子どものつどいや憩いの場	⑩子どもの送迎に関する支援(スクールバスの導入等)
水口地域 (N=489)	56.0	67.7	47.6	65.0	69.3	58.1	60.5	62.4	51.9	45.0
土山地域 (N=117)	51.3	59.8	47.9	53.0	54.7	47.0	49.6	48.7	44.4	48.7
甲賀地域 (N=168)	52.4	69.0	45.8	60.1	64.9	52.4	58.3	57.7	47.0	48.8
甲南地域 (N=287)	55.7	68.3	51.2	64.1	68.3	62.0	61.3	58.9	52.6	43.2
信楽地域 (N=151)	60.3	63.6	49.7	66.9	68.2	58.9	62.9	60.3	55.0	55.0

③ 地域での障がい児・者分野の課題

地域での障がい児・者分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「障がい児・者に対する周囲の理解や支援」で 69.3%、以下、「災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援」が 66.8%、「障がい児・者のいる世帯の介護負担」が 66.3%と続いている。

地域別に「そう思う」の割合をみると、信楽地域では「障がい児・者のいる世帯の介護負担」が、他の地域では「障がい児・者に対する周囲の理解や支援」最も多くなっている。また、土山地域では「障がい者の就労」「障がい児・者虐待」「障がい児・者の移動(外出)支援」を除くすべての項目が少なくなっている。

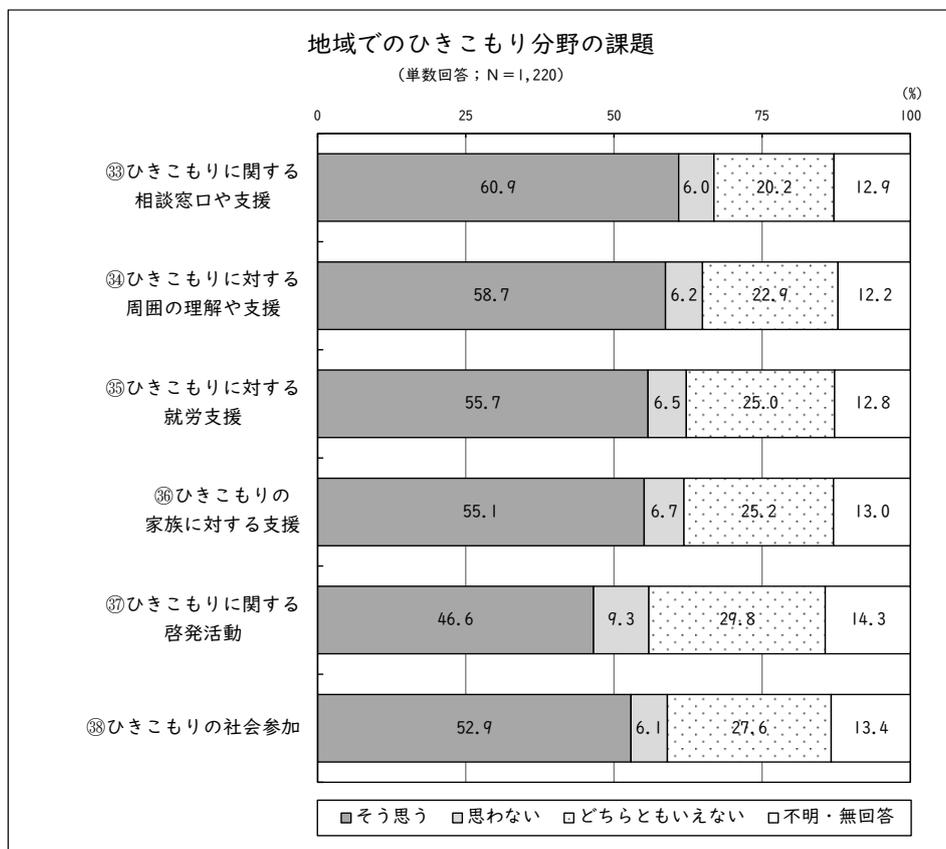


「そう思う」の割合	② 障がい児・者のいる世帯の介護負担	③ 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	④ 障がい児・者と地域で共に暮らすこと	⑤ 障がい児・者の社会参加	⑥ 障がい児・者に対する相談窓口	⑦ 利用できる身近な生活施設	⑧ 障がい児・者の療育・教育・生活	⑨ 障がい者の就労	⑩ 障がい児・者の場	⑪ 災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援	⑫ 障がい児・者虐待	⑬ 障がい児・者の移動（外出）支援
水口地域 (N=489)	66.9	71.6	60.7	59.7	60.3	60.7	61.3	63.2	51.3	68.7	57.9	58.9
土山地域 (N=117)	59.0	59.8	48.7	49.6	52.1	52.1	53.8	56.4	46.2	59.0	50.4	53.8
甲賀地域 (N=168)	65.5	69.0	55.4	56.0	56.5	61.3	56.0	61.3	50.0	66.1	50.6	57.7
甲南地域 (N=287)	66.2	68.6	54.4	58.9	55.7	60.6	57.1	59.9	51.9	66.2	54.4	60.3
信楽地域 (N=151)	74.2	72.8	62.3	64.2	58.3	63.6	65.6	62.3	58.9	72.2	59.6	63.6

④ ひきこもり分野の課題

地域でのひきこもり分野の課題について、「そう思う」の割合をみると、最も多いのは「ひきこもりに関する相談窓口や支援」で60.9%、以下、「ひきこもりに対する周囲の理解や支援」が58.7%、「ひきこもりに対する就労支援」が55.7%と続いている。

地域別に「そう思う」の割合をみると、すべての地域において「ひきこもりに関する相談窓口や支援」が最も多くなっている。また、甲賀地域では「ひきこもりに対する周囲の理解や支援」が少なく、信楽地域は「ひきこもりの家族に対する支援」「ひきこもりに関する啓発活動」が多くなっている。土山地域では「ひきこもりの家族に対する支援」「ひきこもりに関する啓発活動」を除くすべての項目が少なくなっている。



「そう思う」の割合	③③ ひきこもりに関する 相談窓口や支援	③④ ひきこもりに対する 周囲の理解や支援	③⑤ ひきこもりに対する 就労支援	③⑥ ひきこもりの家族に 対する支援	③⑦ ひきこもりに関する 啓発活動	③⑧ ひきこもりの社会参加
水口地域 (N=489)	63.2	61.1	57.5	55.4	46.8	54.2
土山地域 (N=117)	54.7	53.0	47.9	52.1	42.7	46.2
甲賀地域 (N=168)	57.7	53.6	51.8	53.6	42.9	50.6
甲南地域 (N=287)	60.6	60.3	57.8	54.4	46.7	56.1
信楽地域 (N=151)	64.9	60.3	58.3	61.6	54.3	52.3

⑤ その他

高齢者、子ども・子育て、障がい児・者、ひきこもりに関わることで、身近な地域で何とかしなければならないと考えている課題について 120 人、延べ 136 件の回答があり、高齢者分野、子ども・子育て分野、障がい児・者分野、ひきこもり分野などに関する分野で整理した。

① 地域での高齢者分野の課題	27 件
○ 寝たきりや認知症など的高齢者のいる世帯の介護負担	6 件
○ 高齢者のつどいや憩いの場	5 件
○ 高齢者の移動（外出）支援	2 件
○ 高齢者の孤立・生活不安・閉じこもり・経済不安	2 件
○ 高齢者の就労	2 件
○ 災害時の一人暮らしの高齢者の避難支援	2 件
○ 高齢者への理解	2 件
○ 高齢者の見守り	1 件
○ その他	5 件
② 地域での子ども・子育て分野の課題	22 件
○ 幼稚園・保育園の充実	7 件
○ 教育環境の充実	6 件
○ 子どもが安心して遊べる場所	3 件
○ 高校生以上の子どもがいる家庭への支援	2 件
○ その他	4 件

③ 地域での障がい児・者分野の課題	15 件
○ 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	7 件
○ 障がい児の教育環境の充実	3 件
○ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	2 件
○ 障がい児・者への支援	2 件
○ 障がい者の就労	1 件
④ ひきこもり分野の課題	19 件
○ ひきこもりの家族に対する支援	8 件
○ ひきこもりに対する周囲の理解や支援	6 件
○ ひきこもりの社会参加	2 件
○ 子どものひきこもりに対する支援	2 件
○ ひきこもりに対する就労支援	1 件
⑤ 市政一般に関する課題	53 件
○ 公共交通機関の充実	10 件
○ 地域とのつながり	9 件
○ 道路環境の充実	4 件
○ 相談体制の充実	3 件
○ 地域活動における高齢化	2 件
○ 市民への経済的支援	2 件
○ 買い物支援の充実	2 件
○ 行政の充実	2 件
○ その他	19 件

(2) 住民自身が福祉活動を推進していくために必要なこと

「問 30」 あなたは、今後、地域において住民自身が福祉活動を推進していくにはどのようにすればよいと思いますか。あなたのお考えに近いものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

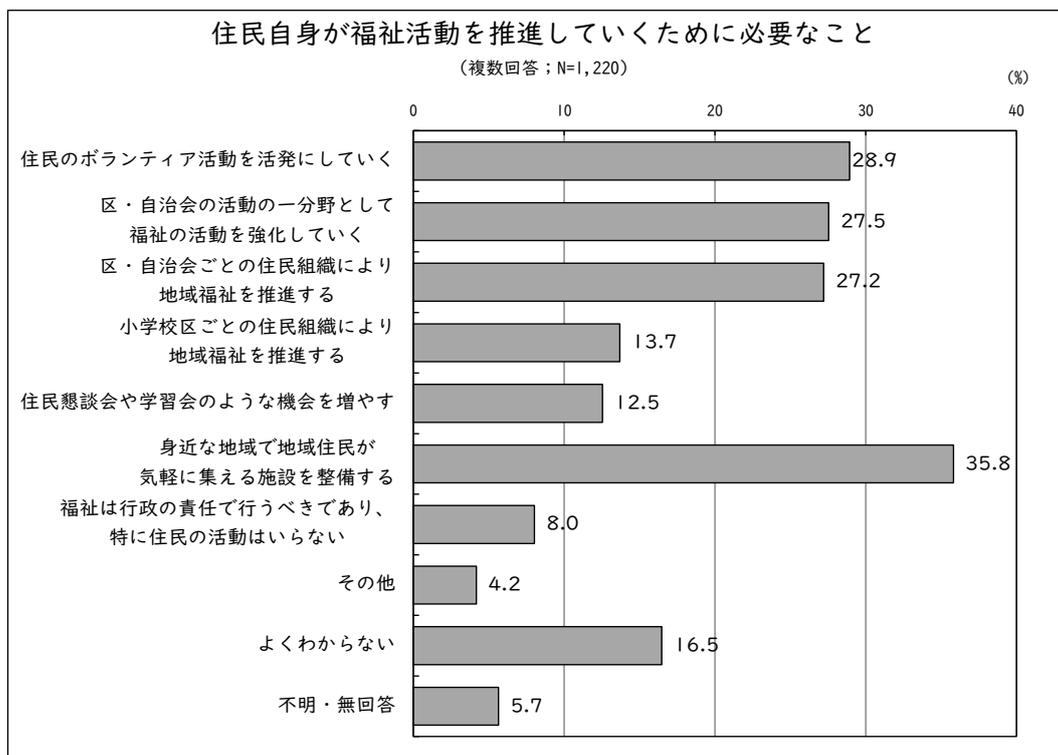
住民自身が福祉活動を推進していくために必要なことは、「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が 35.8%で最も多くなっており、以下、「住民のボランティア活動を活発にしていく」が 28.9%、「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」が 27.5%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が最も多くなっている。

年代別にみると、すべての年代において「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が最も多くなっている。また、他の年代よりも、40 歳代以下では「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」「区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する」が少なくなっている。

居住地域別にみると、信楽地域では「住民のボランティア活動を活発にしていく」が、他の地域では「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が最も多くなっている。また、他の地域よりも、土山地域では「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」「よくわからない」が多く、「住民のボランティア活動を活発にしていく」「区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく」「区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する」「小学校区ごとの住民組織により地域福祉を推進する」が少なくなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、すべての居住歴において「身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する」が最も多くなっている。



	住民のボランティア活動を活発にしている	区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化している	区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する	小学校区ごとの住民組織により地域福祉を推進する	住民懇談会や学習会のような機会を増やす	身近な地域で地域住民が気軽に施設を整備する	福祉は行政の責任で行うべきであり、特に住民の活動はいろいろな	その他	よくわからない	不明・無回答
全体 (N=1,220)	28.9	27.5	27.2	13.7	12.5	35.8	8.0	4.2	16.5	5.7
男 (N=523)	29.4	29.8	28.3	15.5	12.6	35.4	9.2	5.0	15.7	4.8
女 (N=671)	28.8	26.1	26.4	12.7	12.5	37.0	6.9	3.7	17.3	5.5
20歳代以下 (N=108)	25.9	19.4	13.0	17.6	12.0	30.6	8.3	1.9	26.9	4.6
30歳代 (N=120)	20.0	19.2	19.2	16.7	12.5	32.5	12.5	2.5	16.7	4.2
40歳代 (N=155)	32.3	18.7	18.7	8.4	11.0	34.8	10.3	5.2	17.4	3.2
50歳代 (N=200)	32.0	22.0	25.5	13.0	9.0	33.0	9.0	4.5	20.5	3.5
60歳代 (N=240)	29.2	31.3	31.3	15.4	12.5	37.9	5.8	7.5	14.2	4.2
70歳以上 (N=389)	30.1	36.8	35.7	13.4	15.4	39.6	6.7	2.8	12.3	8.2
水口地域 (N=489)	31.1	27.0	29.0	14.7	12.9	36.6	7.8	4.5	15.7	4.5
土山地域 (N=117)	19.7	22.2	21.4	6.8	7.7	41.0	12.0	0.9	22.2	6.0
甲賀地域 (N=168)	26.2	30.4	28.0	14.9	10.1	35.1	7.7	4.8	13.7	4.8
甲南地域 (N=287)	27.2	26.5	24.7	16.0	14.6	34.5	8.4	4.2	19.9	6.6
信楽地域 (N=151)	37.1	32.5	30.5	10.6	14.6	34.4	6.0	5.3	11.3	5.3
3年未満 (N=47)	27.7	14.9	17.0	19.1	10.6	38.3	8.5	4.3	8.5	8.5
3年～10年未満 (N=75)	25.3	16.0	16.0	16.0	9.3	40.0	12.0	6.7	16.0	6.7
10年以上 (N=1,076)	29.6	29.2	28.8	13.6	13.0	35.9	7.7	4.1	16.6	4.9

(3) 甲賀市が重点を置くべき福祉施策

「問 31」 あなたは、今後、甲賀市が重点を置くべき福祉施策はどのようなことだとお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

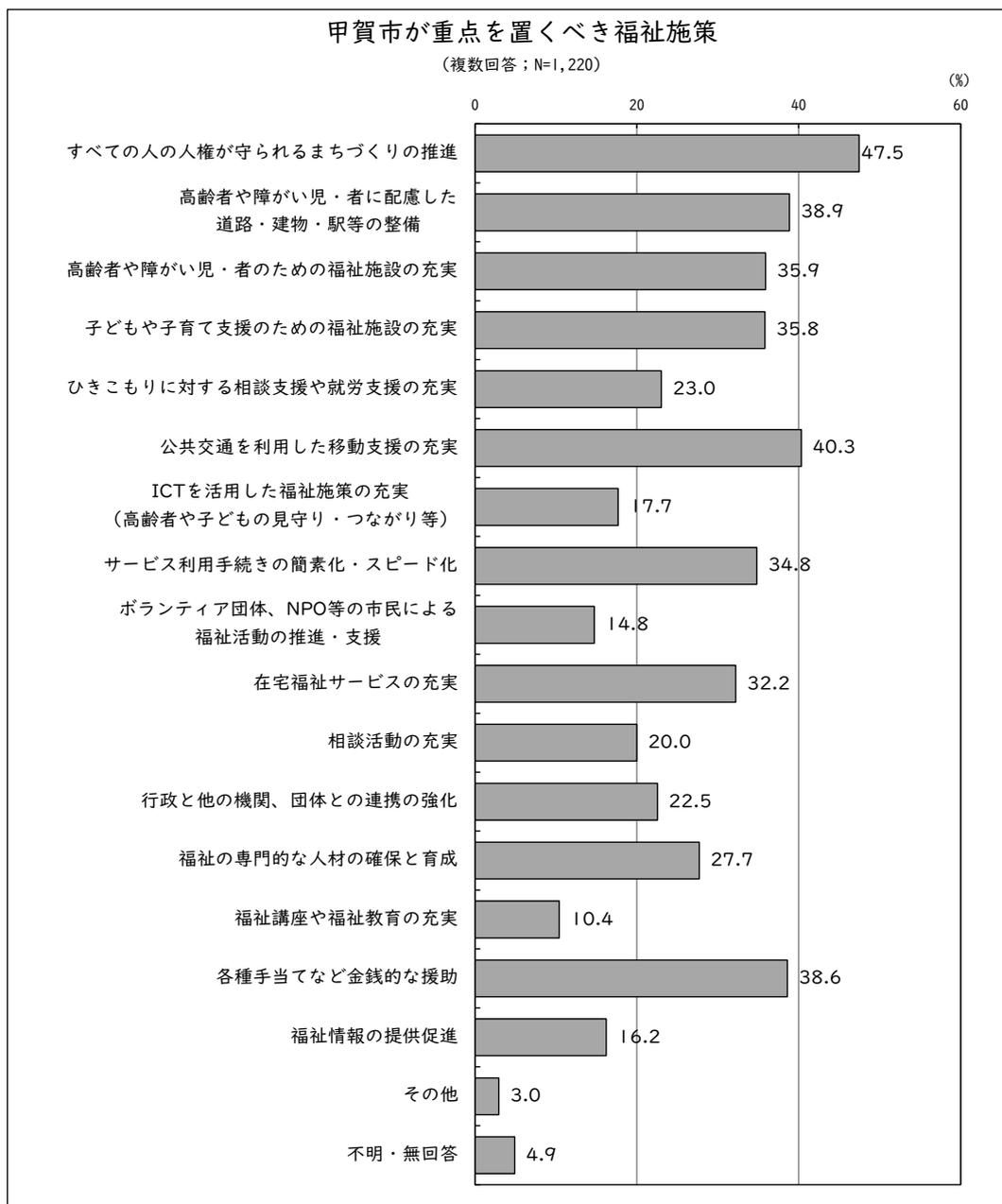
甲賀市が重点を置くべき福祉施策は、「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が 47.5%で最も多くなっており、以下、「公共交通を利用した移動支援の充実」が 40.3%、「高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備」が 38.9%と続いている。

性別にみると、男性、女性ともに「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が最も多くなっている。また、男性では「行政と他の機関、団体との連携の強化」が女性よりも多くなっている。

年代別にみると、20歳代以下、40歳代は「各種手当など金銭的な援助」が30歳代は「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」が、50歳代以上は「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が最も多くなっている。また、他の年代よりも40歳代以下では「高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実」「在宅福祉サービスの充実」「相談活動の充実」が少なくなっている。

居住地域別にみると、土山地域では「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」「公共交通を利用した移動支援の充実」が、甲南地域では「高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備」が、他の地域では「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が最も多くなっている。また、信楽地域では「高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実」が他の地域よりも多くなっている。

甲賀市の居住歴別にみると、3年未満は「公共交通を利用した移動支援の充実」が、3年～10年未満は「各種手当など金銭的な援助」が、10年以上は「すべての人の人権が守られるまちづくりの推進」が最も多くなっている。他の居住歴よりも3年未満では「サービス利用手続きの簡素化・スピード化」「福祉の専門的な人材の確保と育成」「福祉情報の提供促進」が少なく、3年～10年未満では「子どもや子育て支援のための福祉施設の充実」「各種手当など金銭的な援助」が多くなっている。



	すべての人の人権が守られる まっすぐりの推進	高齢者や障がい児・者に 配慮した道路・建物 ・駅等の整備	高齢者や障がい児・者のための 福祉施設の充実	子どもや子育て支援のための 福祉施設の充実	ひきこもりに対する相談支援や 就労支援の充実	公共交通を利用した 移動支援の充実	ICTを活用した福祉施策の充実（高齢 者や子どもへの身守り・つながり等）	サービス利用手続きの 簡素化・スピード化	ボランティア団体、NPO等の 市民による福祉活動の推進・支援	在宅福祉サービスの充実	相談活動の充実	行政と他の機関、団体との 連携の強化	福祉の専門的な人材の 確保と育成	福祉講座や福祉教育の充実	各種手当てなど金銭的な援助	福祉情報の提供促進	その他	不明・無回答
全体 (N=1,220)	47.5	38.9	35.9	35.8	23.0	40.3	17.7	34.8	14.8	32.2	20.0	22.5	27.7	10.4	38.6	16.2	3.0	4.9
男 (N=523)	44.7	38.2	35.0	37.7	24.5	40.0	19.7	33.5	15.1	31.5	19.7	26.8	26.2	9.0	40.0	15.3	2.9	3.6
女 (N=671)	49.5	39.6	37.0	35.6	22.2	40.7	16.7	35.9	14.9	33.2	20.9	20.0	29.4	11.8	38.3	17.1	3.1	5.4
20歳以下 (N=108)	44.4	24.1	24.1	38.0	14.8	33.3	18.5	23.1	11.1	17.6	13.0	14.8	22.2	8.3	45.4	11.1	2.8	4.6
30歳代 (N=120)	36.7	32.5	20.8	60.8	19.2	36.7	25.8	33.3	8.3	20.0	15.0	15.8	28.3	7.5	50.8	15.0	2.5	2.5
40歳代 (N=155)	42.6	35.5	23.9	40.6	21.3	38.1	20.6	32.9	10.3	22.6	14.2	21.3	23.2	11.6	45.2	14.2	4.5	1.3
50歳代 (N=200)	51.0	42.5	39.0	34.5	28.5	40.5	22.5	40.0	20.5	32.0	25.5	30.0	30.0	13.5	43.0	18.0	4.5	4.0
60歳代 (N=240)	49.2	41.3	42.1	39.6	25.0	44.6	15.8	39.2	15.0	38.3	21.3	23.8	34.2	9.6	36.3	20.8	2.5	2.1
70歳以上 (N=389)	50.6	43.4	44.0	24.7	23.4	41.6	12.6	34.2	16.7	40.4	22.6	22.9	26.2	10.5	30.1	14.9	2.1	8.5
水口地域 (N=489)	48.3	39.9	34.8	35.2	24.5	41.1	17.2	37.2	15.1	32.1	22.9	25.8	29.9	10.8	42.1	18.0	3.9	3.1
土山地域 (N=117)	41.9	29.9	40.2	32.5	24.8	41.9	15.4	32.5	10.3	28.2	18.8	14.5	25.6	8.5	31.6	10.3	1.7	12.8
甲賀地域 (N=168)	54.2	34.5	32.7	36.9	20.2	40.5	19.0	27.4	11.3	36.3	16.1	23.8	22.6	8.3	35.1	13.7	3.0	3.6
甲南地域 (N=287)	43.2	43.6	33.8	36.6	23.0	41.5	20.2	34.1	16.0	32.1	18.8	22.0	28.9	12.2	38.7	17.8	3.1	3.5
信楽地域 (N=151)	51.0	40.4	45.0	39.7	20.5	35.8	15.9	39.7	19.2	33.1	19.2	19.2	27.2	9.9	38.4	15.2	0.7	6.0
3年未満 (N=47)	38.3	21.3	21.3	40.4	17.0	46.8	23.4	27.7	12.8	21.3	19.1	17.0	14.9	8.5	36.2	10.6	8.5	4.3
3年～10年未満 (N=75)	29.3	30.7	18.7	53.3	16.0	30.7	18.7	32.0	2.7	16.0	10.7	14.7	25.3	6.7	54.7	17.3	5.3	5.3
10年以上 (N=1,076)	49.1	40.5	38.1	34.7	23.9	41.2	17.7	35.7	15.9	34.2	20.8	23.7	28.7	10.8	37.8	16.4	2.6	4.3

【自由記述】

住んでいる地域で、日頃から課題に感じていることについて 116 人、延べ 162 件の回答があり、高齢者分野、子ども・子育て分野、障がい児・者分野、ひきこもり分野などに関する分野で整理した。

① 地域での高齢者分野の課題	42 件
○ 高齢者の移動（外出）支援	14 件
○ 高齢者の孤立・生活不安・閉じこもり・経済不安	8 件
○ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	4 件
○ 高齢者の就労	3 件
○ 高齢者のつどいや憩いの場	3 件
○ 災害時の一人暮らしの高齢者の避難支援	3 件
○ 寝たきりや認知症など的高齢者のいる世帯の介護負担	2 件
○ 高齢者の健康づくりや生きがいつくりの取り組み	1 件
○ その他	4 件
② 地域での子ども・子育て分野の課題	42 件
○ 子どもが安心して遊べる場所	11 件
○ 子どもや子育てに関する相談窓口や支援	7 件
○ 子育てに必要な費用	7 件
○ 働く保護者の条件にあった保育所や学童保育	4 件
○ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	4 件
○ 子どものつどいや憩いの場	3 件
○ 子どもの学力や進学	2 件
○ 子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり	2 件
○ 子どもの送迎に関する支援（スクールバスの導入等）	1 件
○ その他	1 件
③ 地域での障がい児・者分野の課題	24 件
○ 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	9 件
○ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	4 件
○ 障がい児・者の移動（外出）支援	3 件
○ 障がい児・者のつどいや憩いの場	2 件
○ 障がい児・者のいる世帯の介護負担	2 件
○ 障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと	2 件
○ 障がい児の療育・教育・生活	1 件
○ 障がい者の就労	1 件

④ ひきこもり分野の課題	23 件
○ ひきこもりに対する周囲の理解や支援	10 件
○ ひきこもりに関する相談窓口や支援	4 件
○ ひきこもりの家族に対する支援	3 件
○ ひきこもりの社会参加	3 件
○ ひきこもりに関する啓発活動	2 件
○ ひきこもりに対する就労支援	1 件
⑤ 市政一般に関する課題	31 件
○ 市民が相談できるため場所づくり	5 件
○ 市民が憩うことのできる場所づくり	3 件
○ 人権問題	3 件
○ 市の情報管理	2 件
○ 市政の透明性・活動認知	2 件
○ その他	16 件

■ 資料:アンケート調査票

甲賀市市政に関する意識調査

= ご協力のお願い =

※上記の ID 及びパスワードは無作為に割当てたものであり、個人を特定するものではありません

日ごろから甲賀市政へのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。
市では、まちづくりの主役である市民の皆様の思いや願いをしっかりと受け止め、市政に活かしていくため、「市政に関する意識調査」を実施します。
いただいたご意見等は、高齢者から若者、子どもまで、健康でいきいきと活躍できる地域をつくるための大切な基礎資料とさせていただきますので、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和2年(2020年)9月

甲賀市長

岩永裕貴

ご回答にあたってのお願い

■ 令和2年9月15日(火)までに、ご回答をお願いします。

- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。
※お名前のご記入は不要です。
- ご回答は本調査票またはインターネット回答(同封のインターネット回答操作案内参照)のどちらか一方のみにてお願いします。
- 今回の調査は、無作為に選ばせていただいた市内にお住まいの18歳以上の方3,000人を対象に実施しています。
- この調査は、個人を対象としていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方ご自身がお返答ください。(ご本人による回答が困難な場合は、ご家族等の方がご本人から聞き取って代筆ください。)
- この調査の回答は、無記名でお願いしています。回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることはありません。安心してご回答ください。
- 回答いただく調査票は、次のページからとなります。回答は、問1から問31まで順に、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○印をつけてください。
- 回答したくない設問については、お答えいただくことなく結構です。

- ・ 甲賀市をより良いまちにするために調査にご協力ください。わからない事があれば下記へご連絡ください。
- ・ Please cooperate with our survey to make Koka City a better town. Please call this number as follows, if you have any questions.
- ・ 고카시를 보다 좋은 도시로 만들기 위한 조사에 협력해 주십시오. 모르는 것이 있으시면 다음으로 연락해 주십시오.
- ・ 为了把甲贺市变成更好的城市, 请协助调查. 如果有不明白的地方, 请联系以下地址。
- ・ Pedimos sua colaboração em relação a esta pesquisa, para fazer da Cidade de Koka uma cidade melhor.
- ・ Em caso de dúvidas, favor entrar em contato pelo telefone descrito abaixo.
- ・ Por favor coopere con la encuesta para hacer de la Ciudad de Koka una ciudad mejor. Si tuvieran alguna duda, pueden llamar al número de teléfono que figura en la parte de abajo.

【本調査に関する問合せ先】

甲賀市総合政策部 秘書広報課 TEL 0748-69-2101(直通) FAX 0748-63-4619

1. あなたご自身のことについておたずねします

「問1」 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----|-----|-------|
| 1 男 | 2 女 | 3 その他 |
|-----|-----|-------|

「問2」 あなたの年齢は、9月1日現在でおいくつですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 18～19歳 | 2 20～24歳 | 3 25～29歳 |
| 4 30～34歳 | 5 35～39歳 | 6 40～44歳 |
| 7 45～49歳 | 8 50～54歳 | 9 55～59歳 |
| 10 60～64歳 | 11 65～69歳 | 12 70～74歳 |
| 13 75歳以上 | | |

「問3」 あなたのお住まいの地域はどちらですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 1 <small>みなくち</small> 水口地域 | 2 <small>つちやま</small> 土山地域 | 3 <small>こうか</small> 甲賀地域 |
| 4 <small>こうなん</small> 甲南地域 | 5 <small>しがらき</small> 信楽地域 | |

「問4」 あなたは、いつから甲賀市にお住まいですか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 生まれてからずっと甲賀市に住んでいる | 2 甲賀市で生まれて、市外に転出後、再び転入した |
| 3 市外で生まれて甲賀市に転入した | |

<問4-1> 問4で「2」または「3」と回答された方におたずねします。

甲賀市に転入後、何年ぐらいになりますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|--------|------------|---------|
| 1 3年未満 | 2 3年～10年未満 | 3 10年以上 |
|--------|------------|---------|

「問5」 あなたの世帯(同居)はどのような構成ですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------------|------------------|--------------|
| 1 単身(あなた1人) | 2 あなたと配偶者(パートナー) | 3 二世帯世帯(親・子) |
| 4 三世帯世帯(親・子・孫) | 5 その他() | |

<問5-1> 問5で「3・4・5」のいずれかに回答された方におたずねします。

就学前または就学しているお子様・お孫様(同居)はおられますか。

(あてはまるものすべてに○) ※別居されているお子様・お孫様は含みません

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1 2歳以下 | 2 3歳～小学校入学前 |
| 3 小学生 | 4 中学生 |
| 5 高校生 | 6 専門学校生・短大生・予備校生・大学生(大学院生) |
| 7 就学前または就学している子どもはいない | |

「問6」 あなたはどのような^{しよくぎやう}職業等ですか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-----------|-------|
| 1 会社員 | 2 公務員 | 3 自営業 |
| 4 パート・アルバイト | 5 専業主婦・主夫 | 6 学生 |
| 7 無職 | 8 その他() | |

「問6-1」 問6で「1～4・6」のいずれかに回答された方におたずねします。
あなたの主な^{きんむち つうがくち}勤務地(通学地)はどちらですか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|--------|
| 1 自宅 | 2 甲賀市内 |
| 3 甲賀市以外の滋賀県内の市町 | 4 県外 |

2. 市民^{きやうせい}共生についておたずねします

「問7」 あなたは、甲賀市が「人権が^{そんちやう}尊重されるまちになっている」と感じられますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 そう感じる | 2 どちらかといえばそう感じる |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえばそう感じない |
| 5 感じない | 6 わからない |

「問8」 あなたはここ3年以内で、人権に関する^{けんしやうかい}研修会等(職場、学校、地域、市主権^{しゆき}のセミナー等)に参加されたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

「問9」 あなたは、人権の^{そんちやう}尊重されるまちの^{じつげん}実現に向けて、どのようにお考えですか。
(○は1つだけ)

- | |
|--|
| 1 ^{じつげん} 実現に向けて、自分のできる限りの努力をしたい |
| 2 特に努力したいとは考えていないが、 ^{きべつ} 差別しないようにしたい |
| 3 自分ではどうにもならないので、なりゆきにまかせる |
| 4 できるだけ ^き 避けて通りたい |
| 5 ^{きべつ} 差別はないので、人権問題は存在しない |
| 6 特に考えていない |
| 7 その他() |

3. ^{だんじょきょうどうさんかく}男女共同参画・ワーク・ライフ・バランス・^{じょせいかつやく}女性活躍についておたずねします

≪問10≫ あなたは、次にあげる「言葉」や「内容」をご存じですか。(○はそれぞれ1つずつ)

	1 内容をよく 知っている	2 内容を多少は 知っている	3 言葉を聞いた ことはある	4 まったく 知らない
① ^{だんじょきょうどうさんかくしゃかい} 男女共同参画社会	1	2	3	4
② ジェンダー	1	2	3	4
③ セクシュアル・ハラスメント	1	2	3	4
④ マタニティ・ハラスメント	1	2	3	4
⑤ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3	4
⑥ ダイバーシティ	1	2	3	4
⑦ ^{じょせいかつやくすいしんほう} 女性活躍推進法	1	2	3	4

≪問10-1≫ 各項目で「1」または「2」と回答された方におたずねします。

あなたは、それぞれの内容についてどのような方法でご存じになりましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1 ^{けいはつ} 啓発チラシ・リーフレット	2 市の広報紙やホームページ
3 ^{しゅきい} 市主催のセミナーや研修会	4 人権尊重のまちづくり懇談会(地区別懇談会)
5 学校の授業	6 職場内の研修
7 インターネットなどのSNS	8 テレビやラジオ
9 その他()	

≪問11≫ 「男性は仕事」「女性は家事・育児・介護」という考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

1 同感する	2 どちらかといえば同感する
3 どちらともいえない	4 どちらかといえば同感しない
5 同感しない	6 わからない

≪問12≫ 「ワーク・ライフ・バランス」の考え方について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

1 同感する	2 どちらかといえば同感する
3 どちらともいえない	4 どちらかといえば同感しない
5 同感しない	6 わからない、または「ワーク・ライフ・バランス」の言葉・意味を知らない

「問13」生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活(地域活動・学習・趣味・付き合い等)」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。また、現実にはどうですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

	希望	現実
1 「仕事」を優先	(番号を1つ記入)	(番号を1つ記入)
2 「家庭生活」を優先		
3 「地域・個人の生活」を優先		
4 「仕事」と「家庭生活」を共に優先		
5 「仕事」と「地域・個人の生活」を共に優先		
6 「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先		
7 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」を共に優先		
8 わからない		

「問14」あなたは、女性が就労(起業含む)することについてどのように思われますか。(○は1つだけ)

- 1 結婚、出産、子育て、介護等に関わらず就労し続けるほうがよい
- 2 結婚するまで就労し、結婚後は就労しないほうがよい
- 3 出産するまで就労し、出産後は就労しないほうがよい
- 4 子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで就労し続けるほうがよい
- 5 子育て時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで就労し続けるほうがよい
- 6 就労しないほうがよい
- 7 わからない

「問15」あなたは、女性が働き続けたり、再就職するうえで必要なことはどのようなことだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 仕事と家庭の両立への 家族 の協力や理解 | 2 仕事と家庭の両立への 職場 の協力や理解 |
| 3 育児休業や介護休業などの制度の充実 | 4 在宅勤務やフレックスタイム制の導入 |
| 5 男女の賃金差の解消 | 6 昇進、昇格などの不平等の解消 |
| 7 長時間労働等の解消(職場の働き方改革) | 8 保育施設等の充実 |
| 9 女性自身の意識改革 | 10 男性自身の意識改革 |
| 11 特になし | 12 わからない |
| 13 その他() | |

4. ドメスティック・バイオレンス(DV)についておたずねします。

「問16」あなたは、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」や「デートDV」をご存じですか。(○はそれぞれ1つずつ)

		1 内容をよく 知っている	2 内容を多少は 知っている	3 言葉を聞いた ことはある	4 まったく 知らない
①	DV	1	2	3	4
②	デートDV	1	2	3	4

「問21」 障がいのある人もない人も、誰もが暮らしやすい共生社会の実現に向けて、どのような取組が必要だとお考えですか。(〇は2つまで)

- 1 地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保
- 2 障がいのある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり
- 3 ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実
- 4 障がいのある方に関わる保健・医療施策の推進
- 5 障がいの有無に関わらず共に学ぶ教育環境の充実
- 6 障がいのある方の働く場の拡充
- 7 障がい者スポーツ・文化活動の振興
- 8 障がいのある方の意思疎通支援や情報コミュニケーション手段の充実
- 9 誰にとっても暮らしやすいバリアフリー化やユニバーサルデザインの推進
- 10 防災対策の充実
- 11 障がいのある方に対する市民の理解の促進
- 12 障がいのある方の権利擁護の推進
- 13 福祉に関わる人材の養成・確保
- 14 その他()

6. 近所づきあいやボランティアについておたずねします

「問22」 あなたは、ご近所で最も親しくしている人と、日頃どの程度のつきあいをされていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 困りごとの相談や、助け合うようなつきあい | 2 簡単な頼みごとや、土産物を分け合うつきあい |
| 3 立ち話をする程度のつきあい | 4 挨拶をする程度のつきあい |
| 5 ほとんどつきあいはない | |

「問23」 あなたが日頃、生活の困りごとについて相談する相手はどなたですか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 1 家族・親戚 | 2 知人・友人・職場の同僚 |
| 3 近所の人 | 4 区・自治会等の地域の役員 |
| 5 民生委員・児童委員 | 6 医師・保健師・ホームヘルパー等の専門職 |
| 7 行政の職員 | 8 社会福祉協議会の職員 |
| 9 相談する人がいない | 10 その他() |

《問24》あなたは、福祉に関する情報をどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1 市広報紙 | 2 <small>しゃかいふくしきょうぎかい</small> 社会福祉協議会の広報紙 |
| 3 行政の窓口 | 4 <small>しゃかいふくしきょうぎかい</small> 社会福祉協議会の窓口 |
| 5 福祉施設 | 6 公民館 |
| 7 ボランティア | 8 区・自治会等の地域の役員 |
| 9 <small>みんせいいいん じどういいん</small> 民生委員・児童委員 | 10 <small>しんせき</small> 家族・親戚 |
| 11 <small>どおりょう</small> 知人・友人・職場の同僚 | 12 近所の人 |
| 13 インターネット | 14 <small>ざっし</small> テレビ・新聞・雑誌 |
| 15 情報を必要としていない | 16 その他() |

《問25》あなたは、現在、ボランティア活動に参加されていますか。(○は1つだけ)

※ ここでいうボランティア活動とは、自治会や女性の会、子ども会の活動など地域にある組織で行う活動ではなく、個人の自発性・自主性に基づいて行われる活動をいいます。

- | | |
|----------|-------------------|
| 1 参加している | 2 参加していない →問 26 へ |
|----------|-------------------|

<問25-1> 問25で「1」と回答された方におたずねします。
それはどのような活動ですか。活動の内容をお書きください。(自由記述)

(ボランティア活動の内容)

<問25-2> 問25で「1」と回答された方におたずねします。
あなたがボランティア活動に参加されているのはどのような理由からですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 活動自体が楽しいから | 2 生きがい・やりがいを感じられるから |
| 3 活動を通じて人間関係が広がるから | 4 自分の成長につながると思うから |
| 5 地域のために役立つと思うから | 6 <small>しゃかいほうし</small> 社会奉仕だと思ふから |
| 7 <small>さそ</small> 誘われたり、 <small>すす</small> 勧められたりして仕方ないから | 8 職場や学校で参加することになっているから |
| 9 その他() | |

《問26》あなたは、今後、ボランティア活動をさらに発展させるために、どのような^{きばんせいび}基盤整備や活動が必要だと思われますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 相談窓口の充実 | 2 <small>せんもんせい</small> 専門性のある職員やアドバイザーの配置 |
| 3 <small>きよてん</small> 活動拠点の確保 | 4 <small>けいはつ</small> 啓発のための広報の充実 |
| 5 <small>ふくしきょういく</small> 学校での福祉教育の充実 | 6 <small>きゅうか じゆうじつ</small> 職場のボランティア休暇の充実 |
| 7 その他() | |

7. 成年後見制度についておたずねします

※ 成年後見制度とは、知的障がいのある方、精神障がいのある方、認知症の方など、判断能力が十分でない方のために、家庭裁判所が選任した後見人等が財産管理や福祉サービス等の契約などを行う制度です。

〈問27〉あなたは、成年後見制度をご存じですか。(○は1つだけ)

- 1 名称も内容も知っている 2 名称は知っているが内容は知らない 3 名称も内容も知らない

〈問27-1〉問27で「1」と回答された方におたずねします。あなたは、成年後見制度を何で知りになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 市役所や社会福祉関係の窓口 2 友人・知人・親戚
3 成年後見制度を利用している人 4 新聞記事・雑誌・テレビのニュース
5 パンフレット・ホームページ 6 説明会・勉強会・研修会
7 その他()

〈問27-2〉問27で「1」と回答された方におたずねします。あなたは、どのような場面に成年後見制度が必要になると思われますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 悪質な消費被害にあった
2 お金を取られるなど経済的な侵害を受けている
3 自分で財産の管理ができなくなった
4 医療契約や福祉サービスなどの契約行為
5 本人のことで対応してくれる親族等がない
6 認知症や精神障がい等により意思決定が難しくなった
7 その他()

8. 再犯防止についておたずねします

※ 再犯防止対策とは、罪を犯した人が、自らの罪を悔い改め、犯罪や非行を繰り返すことなく、再び社会を構成する一員となるよう、社会復帰のための支援を行い、再犯を防止するための対策です。

〈問28〉あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みである、「社会を明るくする運動」または「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。(○は1つだけ)

- 1 両方とも聞いたことがある 2 「社会を明るくする運動」のみ聞いたことがある
3 「再犯防止啓発月間」のみ聞いたことがある 4 両方とも聞いたことがない

〈問28-1〉問28で「1・2・3」のいずれかに回答された方におたずねします。

あなたは、再犯防止の取り組みを何でお知りになりましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 市役所や社会福祉関係の窓口 2 友人・知人・親戚
3 パンフレット・ポスター 4 イベント・シンポジウム
5 テレビ・新聞 6 市のホームページ・SNS
7 その他()

9. 地域の課題についておたずねします

《問 29》 あなたのお住まいの地域で、日頃から課題に感じておられることはどのようなことですか。以下の項目について、右欄の1～3であなたの考えに最も近いものを選んでください。(○はそれぞれ1つずつ)

項目	1	2	3
	そう思う	思わない	いえないとも
1. 高齢者分野の課題			
① 高齢者の健康づくりや生きがいがづくりの取り組み	1	2	3
② 高齢者の孤立化・生活不安・閉じこもり	1	2	3
③ 寝たきりや認知症などの高齢者のいる世帯の介護負担	1	2	3
④ 介護に必要な費用	1	2	3
⑤ 老人ホームや高齢者が安心して気軽に利用できる施設	1	2	3
⑥ 高齢者虐待や介護放棄	1	2	3
⑦ 高齢者の就労	1	2	3
⑧ 高齢者のつどいや憩いの場	1	2	3
⑨ 災害時の一人暮らしの高齢者の避難支援	1	2	3
⑩ 高齢者の移動(外出)支援	1	2	3
2. 子ども・子育て分野の課題			
⑪ 子どもや子育てに関する相談窓口や支援	1	2	3
⑫ 働く保護者の条件にあった保育所や学童保育	1	2	3
⑬ 子どもの学力や進学	1	2	3
⑭ 子どもの非行・いじめ・不登校・ひきこもり	1	2	3
⑮ 子どもが安心して遊べる場所	1	2	3
⑯ 子育てに必要な費用	1	2	3
⑰ ひとり親家庭の子育てに関する周囲の理解や支援	1	2	3
⑱ 児童虐待や育児放棄	1	2	3
⑲ 子どもをつどいや憩いの場	1	2	3
⑳ 子どもの送迎に関する支援(スクールバスの導入等)	1	2	3

《問 29 のつづき》	1	2	3
	そう思う	思わない	どちらともいえない
3. 障がい児・者分野の課題			
⑳ 障がい児・者のいる世帯の介護負担 <small>かいごふたん</small>	1	2	3
㉑ 障がい児・者に対する周囲の理解や支援	1	2	3
㉒ 障がい児・者と障がいの無い人が地域で共に暮らすこと	1	2	3
㉓ 障がい児・者の社会参加	1	2	3
㉔ 障がい児・者に対する相談窓口	1	2	3
㉕ 障がい児・者が利用できる身近な生活施設	1	2	3
㉖ 障がい児の療育・教育・生活 <small>りょういく</small>	1	2	3
㉗ 障がい者の就労 <small>しゅうろう</small>	1	2	3
㉘ 障がい児・者のつどいや憩いの場 <small>いこ</small>	1	2	3
㉙ 災害時の一人暮らし障がい児・者の避難支援 <small>ひなんしえん</small>	1	2	3
㉚ 障がい児・者虐待 <small>ぎゃくたい</small>	1	2	3
㉛ 障がい児・者の移動(外出)支援 <small>いどうがいしゅつしえん</small>	1	2	3
4. ひきこもり分野の課題			
㉜ ひきこもりに関する相談窓口や支援	1	2	3
㉝ ひきこもりに対する周囲の理解や支援	1	2	3
㉞ ひきこもりに対する就労支援 <small>しゅうろう</small>	1	2	3
㉟ ひきこもりの家族に対する支援	1	2	3
㊱ ひきこもりに関する啓発活動 <small>けいはつ</small>	1	2	3
㊲ ひきこもりの社会参加	1	2	3
5. その他			
(高齢者、子ども・子育て、障がい児・者、ひきこもりに関わることで、身近な地域で何とかしなければならぬとお考えの課題があれば、その内容をお書きください。)			

《問 30》あなたは、今後、地域において住民自身が福祉活動を推進していくにはどのようにすればよいと思いますか。あなたのお考えに近いものはどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 住民のボランティア活動を活発にしていく
- 2 区・自治会の活動の一分野として福祉の活動を強化していく
- 3 区・自治会ごとの住民組織により地域福祉を推進する
- 4 小学校区ごとの住民組織により地域福祉を推進する
- 5 住民懇談会や学習会のような機会を増やす
- 6 身近な地域で地域住民が気軽に集える施設を整備する
- 7 福祉は行政の責任で行うべきであり、特に住民の活動はいらぬ
- 8 その他()
- 9 よくわからない

《問 31》あなたは、今後、甲賀市が重点を置くべき福祉施策はどのようなことだとお考えですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 すべての人の人権が守られるまちづくりの推進
- 2 高齢者や障がい児・者に配慮した道路・建物・駅等の整備
- 3 高齢者や障がい児・者のための福祉施設の充実
- 4 子どもや子育て支援のための福祉施設の充実
- 5 ひきこもりに対する相談支援や就労支援の充実
- 6 公共交通を利用した移動支援の充実
- 7 ICT※1を活用した福祉施策の充実(高齢者や子どもの見守り・つながり等)
- 8 サービス利用手続きの簡素化・スピード化
- 9 ボランティア団体、NPO※2等の市民による福祉活動の推進・支援
- 10 在宅福祉サービスの充実
- 11 相談活動の充実
- 12 行政と他の機関、団体との連携の強化
- 13 福祉の専門的な人材の確保と育成
- 14 福祉講座や福祉教育の充実
- 15 各種手当てなど金銭的な援助
- 16 福祉情報の提供促進
- 17 その他()

※1「ICT」:「Information and Communication Technology」の略で、情報通信技術を活用したコミュニケーションを意味します。

※2「NPO」:「Non-Profit Organization」の略で、民間非営利活動組織(団体)。市民が自主的に組織・運営する営利を目的としない市民活動組織。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
回答いただいた調査票は同封の返信用封筒に入れて、令和2年9月15日(火)までに、
ポストにご投函ください。

甲賀市市政に関する意識調査報告書

【人権・福祉領域】

発行日：令和2（2020）年12月

編集・発行：甲賀市総合政策部秘書広報課

〒528-8502 滋賀県甲賀市水口町 6053 番地

Tel:0748-69-2101/Fax:0748-63-4619